

# タイ人日本語学習者の日本語就職用自己PR文の分析

— 日本人学生との比較 —

JAPANESE LETTERS OF INTRODUCTION FOR JOB APPLICATION: A CONTRASTIVE  
ANALYSIS BETWEEN THAI LEARNERS OF JAPANESE AND JAPANESE STUDENTS

香山 恆毅

本稿は文学修士課程の研究の一部である

チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科外国語としての日本語専攻

2014年度

本稿は文学修士課程の研究の一部である  
チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科外国語としての日本語専攻  
2014年度  
著作権 チュラーロンコーン大学  
บทความย่อและแฟ้มข้อมูลฉบับเต็มของวิทยานิพนธ์ตั้งแต่ปีการศึกษา 2554 ที่ให้รางวัลในคลังปัญญาจุฬาฯ (CUIR)

เป็นแฟ้มข้อมูลของนิสิตเจ้าของวิทยานิพนธ์ที่ส่งผ่านทางบัณฑิตวิทยาลัย



The abstract and full text of theses from the academic year 2011 in Chulalongkorn University Intellectual Repository (CUIR)

are the thesis authors' files submitted through the Graduate School.

จดหมายแนะนำตนเองที่เขียนเป็นภาษาญี่ปุ่นในการสมัครงาน:  
การศึกษาเปรียบเทียบระหว่างผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทยกับนักศึกษาชาวญี่ปุ่น

นายโคชิ โคยะมะ

วิทยานิพนธ์นี้เป็นส่วนหนึ่งของการศึกษาตามหลักสูตรปริญญาอักษรศาสตรมหาบัณฑิต  
สาขาวิชาภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาต่างประเทศ ภาควิชาภาษาตะวันออก  
คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย  
ปีการศึกษา 2557  
ลิขสิทธิ์ของจุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

หัวข้อวิทยานิพนธ์

จดหมายแนะนำตนเองที่เขียนเป็นภาษาญี่ปุ่นในการสมัคร  
งาน: การศึกษาเปรียบเทียบระหว่างผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทย  
กับนักศึกษาชาวญี่ปุ่น

โดย

นายโคชิ โคยะมะ

สาขาวิชา

ภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาต่างประเทศ

อาจารย์ที่ปรึกษาวิทยานิพนธ์หลัก

รองศาสตราจารย์ ดร. กนกวรรณ เลหาบุรณะกิจ คะตะกิริ

---

คณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย อนุมัติให้หัวข้อวิทยานิพนธ์ฉบับนี้เป็นส่วน  
หนึ่งของการศึกษาตามหลักสูตรปริญญาโทมหาบัณฑิต

..... คณบดีคณะอักษรศาสตร์  
(ผู้ช่วยศาสตราจารย์ ดร. ประพนธ์ อัครวิรุฬห์การ)

คณะกรรมการสอบวิทยานิพนธ์

..... ประธานกรรมการ  
(ผู้ช่วยศาสตราจารย์ ดร. วรวิทย์ จิราสมบัติ)

..... อาจารย์ที่ปรึกษาวิทยานิพนธ์หลัก  
(รองศาสตราจารย์ ดร. กนกวรรณ เลหาบุรณะกิจ คะตะกิริ)

..... กรรมการภายนอกมหาวิทยาลัย  
(รองศาสตราจารย์ ดร. สมเกียรติ เศวตกิจวณิช)

##5580111022: 外国語としての日本語専攻

キーワード：就職用自己PR文，PRの話題，PRの対象，多用された語，可能表現

香山恆毅：タイ人日本語学習者の日本語就職用自己PR文の分析 — 日本人学生との比較 (JAPANESE LETTERS OF INTRODUCTION FOR JOB APPLICATION: A CONTRASTIVE ANALYSIS BETWEEN THAI LEARNERS OF JAPANESE AND JAPANESE STUDENTS). 指導教員: カノックワン・ラオハブラナキット・片桐助教授, 95ページ.

本研究は、タイ人大学生日本語学習者（T）および日本人大学生（J）が書いた日本語就職用自己PR文を比較し、何をどのような形式でPRしているのかを明らかにする。データは、実際の応募に用いられた、または実際の授業で提出された就職用自己PR文で、T 58人およびJ 42人が書いた合計100編の文章を電子化したものである。データを分析し、主に次の5つの結果を得た。①「自己PRの話題」の出現傾向はT、J データ間で似ていた。②「自己PRの対象」の出現傾向はT、J データ間で異なっていた。T データは「主観的能力」がJ データの約2.5倍現れた。J データは「考え方」がT データの約2倍現れた。③本研究では、約5人に1人以上に用いられた語を「多用された語」と定めた。「多用された語」は、T データが36語、J データが39語であった。このうち約半数は共通の語ではなかった。「多用された語」は、T、J データ共にデータ全体の約85%の文で現れた。④「可能表現の使われ方」はT、J データ間で異なっていた。T データは、潜在的に可能なことを表す表現がJ データの約2倍現れた。J データは、実現したことを表す表現がT データの約2倍現れた。⑤「多用された語」のT、J データ間の違いは、「自己PRの対象」の違いと傾向が一致していた。これらの結果から、自己PR文で「多用された語」は、「自己PRの対象」を判断させた主な要因になっていたと考える。

東洋言語学科

院生の署名： .....

外国語としての日本語専攻

指導教員の署名： .....

2014年度

โคชิ โคยะมะ : จดหมายแนะนำตนเองที่เขียนเป็นภาษาญี่ปุ่นในการสมัครงาน: การศึกษา  
เปรียบเทียบระหว่างผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทยกับนักศึกษาชาวญี่ปุ่น. อ. ที่ปรึกษา  
วิทยานิพนธ์หลัก: รศ. ดร. กนกวรรณ เลหาบุรณะกิจ คณะกิริ, 95 หน้า

วิทยานิพนธ์ฉบับนี้มีวัตถุประสงค์เพื่อวิเคราะห์เปรียบเทียบการเลือกหัวข้อเพื่อนำมา  
แนะนำตนเอง และการใช้รูปแบบภาษาและสำนวนในจดหมายแนะนำตนเองที่เขียนเป็นภาษา  
ญี่ปุ่นในการสมัครงาน ระหว่างผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทย (ต่อจากนี้จะเรียกว่า T) กับนักศึกษา  
ชาวญี่ปุ่น (ต่อจากนี้จะเรียกรวมว่า J) ข้อมูลที่ใช้คือจดหมายแนะนำตนเองของ T และ J จำนวน  
ทั้งสิ้น 100 ฉบับ ซึ่งมีทั้งจดหมายที่ใช้ในการสมัครงานจริงกับจดหมายที่ส่งในชั้นเรียนจริง แบ่ง  
เป็นของ T จำนวน 58 ฉบับและของ J จำนวน 42 ฉบับ จากผลการวิเคราะห์สรุปได้ว่า (1) แนว  
โน้มของ “หัวข้อ” ที่ T และ J เลือกใช้ในการแนะนำตนเองมีความคล้ายคลึงกัน (2) แนวโน้มของ  
“จุดเด่นในการนำเสนอตนเอง” ที่ T และ J เลือกใช้ในการแนะนำตนเองมีความแตกต่างกัน โดย T  
จะนำเสนอเกี่ยวกับ “ความสามารถของตอนที่อยากจะนำเสนอ” ประมาณ 2.5 เท่าของ J ขณะที่ J  
จะนำเสนอเกี่ยวกับ “วิธีคิดของตน” ประมาณ 2 เท่าของ T (3) มีความแตกต่างในเรื่องของ “คำที่  
ถูกใช้บ่อย” “คำที่ถูกใช้บ่อย” หมายถึงคำที่มีผู้ใช้มากกว่า 1 ใน 5 คน งานวิจัยนี้พบว่าในข้อมูล  
ของ T มี “คำที่ถูกใช้บ่อย” ทั้งหมด 36 คำขณะที่ข้อมูลของ J มี “คำที่ถูกใช้บ่อย” ทั้งหมด 39 คำ  
โดยประมาณกึ่งหนึ่งของคำเหล่านี้ทั้งสองกลุ่มไม่ได้ใช้ร่วมกัน และ “คำที่ถูกใช้บ่อย” นี้มีการใช้ใน  
ประโยคของทั้งข้อมูลของ T และข้อมูลของ J ประมาณร้อยละ 85 (4) แนวโน้มของ “กริยา  
สามารถ” ที่ T และ J เลือกใช้มีความแตกต่างกัน โดยข้อมูลของ T มีสำนวนที่แสดง “ความ  
สามารถในเชิงลักษณะนิสัยหรือสภาพที่ติดตัว” ประมาณ 2 เท่าของ J ขณะที่ J มีสำนวนที่แสดง  
“ความสามารถในเชิงพฤติกรรมหรือเหตุการณ์เป็นครั้ง ๆ ไป” ประมาณ 2 เท่าของ T (5) แนวโน้ม  
ของความแตกต่างเรื่อง “คำที่ถูกใช้บ่อย” ของ T และ J เหมือนกับแนวโน้มของความแตกต่างเรื่อง  
“จุดเด่นในการนำเสนอตนเอง” ซึ่งจากผลลัพธ์ดังกล่าวนี้แสดงแนวโน้มว่า “คำที่ถูกใช้บ่อย” อาจ  
เป็นปัจจัยหลักในการตัดสินใจ “จุดเด่นในการนำเสนอตนเอง”

ภาควิชา ภาษาตะวันออก ปลายมือชื่อนิติ .....  
สาขาวิชา ภาษาญี่ปุ่นเป็นภาษาต่างประเทศ อ. ที่ปรึกษาวิทยานิพนธ์หลัก .....

## 謝辞

この研究は、チュラーロンコーン大学日本語主専攻の3年生と4年生（2013年度）が、自分が書いた就職用自己PR文を提供してくれたことで進めることができました。データの収集では、池谷清美先生と松井夏津紀先生が協力してくださいました。また、タイと日本の企業に勤める3人の日本人が、PR文を読んで意見をくださいました。

大学院の授業では、萩原孝恵先生が論文の書き方を考えさせてくださいました。論文の審査では、ウォラウト・チラソンバット先生とタマサート大学のソムキアット・チャウエンギジワニット先生が、丁寧に原稿を読んでもくださり、助言をくださいました。そして、指導教官のカノックワン・ラオハブラナキット・片桐先生は、白紙の研究計画を、研究者の目で修士論文にまで導いてくださいました。

ここに改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

2014年12月9日

香山恆毅

# 目次

	ページ
要旨（日本語） .....	ⅰ
要旨（タイ語） .....	ⅱ
謝辞 .....	ⅲ
目次 .....	ⅳ
表リスト .....	ⅴ
図リスト .....	ⅵ
1 はじめに .....	1
1.1 研究背景 .....	1
1.2 研究目的と問い .....	4
1.3 本稿の構成 .....	5
2 先行研究 .....	6
2.1 話題にする物事の適切さ .....	6
2.2 就職用文章の研究 .....	8
2.3 「ほめ」の研究 .....	10
2.3.1 「ほめ」の定義と「ほめの対象」の種類 .....	10
2.3.2 「就職用自己PR文」の定義と「自己PRの対象」の種類 .....	11
2.4 可能表現の研究 .....	13
2.4.1 可能表現の形式 .....	13
2.4.2 可能表現の意味 .....	13
2.5 問いへの仮説 .....	15
3 研究方法 .....	16
3.1 データと一次資料の概要 .....	16
3.1.1 データ .....	16
3.1.2 タイ語母語話者日本語学習者の一次資料 .....	17
3.1.3 日本語母語話者大学生の一次資料 .....	19
3.2 分析方法 .....	20
3.2.1 自己PRの話題 .....	20
3.2.2 自己PRの対象 .....	22
3.2.3 多用された語 .....	26

3.2.4	可能表現の使われ方	29
4	結果	32
4.1	自己PRの話題 — アルバイト・クラブ活動・勉強・ボランティア	32
4.1.1	自己PRの話題の出現割合および1編あたりの話題数	32
4.1.2	具体例を示す文の割合	36
4.2	自己PRの対象 — 性格・主観的能力・客観的能力・考え方・行動	37
4.3	多用された語	42
4.3.1	多用された名詞、動詞、イ・ナ形容詞の使用割合	42
4.3.2	「多用された語」と「自己PRの対象」との関係	50
4.4	可能表現の使われ方	53
4.4.1	出現した可能表現の形式および意味	53
4.4.2	「可能表現」と「自己PRの対象」との関係	58
4.4.3	形式「動詞連体形+ことができる」の文末	62
5	まとめと考察	66
5.1	問いへの答え	66
5.1.1	〈問い1〉への答え — 自己PRの話題	66
5.1.2	〈問い2〉への答え — 自己PRの対象	67
5.1.3	〈問い3〉への答え — 多用された語	67
5.1.4	〈問い4〉への答え — 可能表現の使われ方	68
5.2	考察	69
5.2.1	「自己PRの対象」を判断させた要因 — 多用された語	69
5.2.2	Tデータで特定の語が多用された要因1 — タイ語の影響	71
5.2.3	Tデータで特定の語が多用された要因2 — 直し過ぎ	74
5.3	学習者の質問への意見	75
5.4	本研究の日本語教育への応用	76
5.5	今後の課題	77
注		79
参考文献		81
添付資料		87
著者略歴		95



## 表リスト

表番号		ページ
表1	金 (2005) の「ほめの対象」の種類と定義	11
表2	「自己PRの対象」の種類と定義	12
表3	「可能表現の形式」と例	13
表4	「可能表現の意味」の分類と例文	14
表5	データ概要	17
表6	「自己PRの対象」の種類と定義 (表2に加筆)	23
表7	「多用された語」と「自己PRの対象」との関係 — T, タイ人学習者	51
表8	「多用された語」と「自己PRの対象」との関係 — J, 日本人大学生	52
表9	意味・形式別可能表現の出現回数	56
表10	「可能表現」の出現回数と「自己PRの対象」との関係 — T, タイ人学習者	59
表11	「可能表現」の出現回数と「自己PRの対象」との関係 — J, 日本人大学生	59

## 図リスト

図番号		ページ
図1	韓・日大学生の会話における「ほめの対象」の出現割合 ……………	11
図2	「自己PRの対象」分類作業の第二認定者との一致度算出（カッパ係数）	24
図3	データを形態素に分けて集計する状況 — KH Coder ……………	27
図4	KH Coder によって集計された結果 — Excel ……………	28
図5	文字列「責任」を検索した状況 — Preview ……………	29
図6	データから検索文字列と文脈を取り出した状況 — Simple KWIC Lister	30
図7	就職用自己PR文の「話題」とそれを選んだ人の割合 ……………	35
図8	1編あたりの「話題数」の割合 ……………	35
図9	10文あたりの「具体例」を示す文の数 ……………	37
図10	就職用自己PR文で現れた「自己PRの対象」の出現割合 ……………	40
図11	「多用された名詞」とその使用者割合 ……………	43
図12	「多用された動詞」とその使用者割合 ……………	46
図13	「多用されたイ・ナ形容詞」とその使用者割合 ……………	48
図14	「可能表現」の出現回数（2万字換算） ……………	56
図15	「意味別（実現系・潜在系）」可能表現の出現回数（2万字換算） ………	56
図16	「意味・形式別」可能表現の出現回数（2万字換算） — T, タイ人学習者	57
図17	「意味・形式別」可能表現の出現回数（2万字換算） — J, 日本人大学生	57
図18	就職用自己PR文で現れた「自己PRの対象」の出現割合 — 「多用された語」 を含む文のみ ……………	70

# 1 はじめに

本研究は、タイ人大学生日本語学習者および日本人大学生が書いた日本語就職用自己PR文を比較し、何をどのような形式でPRしているのかを明らかにする。この章では、まず、本研究の背景を述べる。次に、本研究の目的と問いを示す。最後に、本稿の構成を示す。なお、本研究の題材である就職用自己PR文とは、仕事に応募する際に書く文章であり、応募先が日本の企業の場合は、応募書類の一部であることが多い。「PR (“public relations” の略) 」は、日本語では「広報・宣伝」という意味で用いられる。自己PR文は、自分のことを広報・宣伝するような文章である。

## 1.1 研究背景

ここでは、まず、タイ経済にとって日本や日本の企業がどのような存在なのかを述べる。次に、日本の企業によるタイ人大学生日本語学習者（以降、タイ人学習者、と記す）の雇用について述べる。そして、タイ人学習者が日本の企業へ応募した際に書いた文章を示し、それに対する日本語母語話者およびタイ人学習者のコメントを示す。最後に、これらをふまえて本研究で明らかにすることを述べる。

タイ経済は、その10.6%が日本から輸入したもので成り立っているといえる。この割合は、2013年のタイのGDPに占める対日輸入額の割合である<sup>(1)</sup>。また、ジェトロ（2013）によると、2012年のタイ国外からタイへの直接投資は、日本からの投資が全体の63.5%であった<sup>(2)</sup>。このうち投資額が最大であった Bridgestone Specialty Tire Manufacturing (Thailand) Co., Ltd. は、新タイヤ工場建設費である約206億バーツの投資がタイ投資委員会に認可された。Toyota Motor Thailand Co., Ltd.（トヨタ・タイ）は約140億バーツの投資が認可された。トヨタ・タイの車両生産台数は年間88万1千台で（トヨタ 2013）、365日24時間で割ると、1時間に約100台である。

労働力は不足している。JCC（バンコク日本人商工会議所）経済調査会（2014）は、タイの日系企業で不足している労働力を調査している。そして、回答があった215社のうち、マネージャーが不足していると回答した企業の割合は64%、スタッフが36%、ワーカーが33%、エンジニアが26%、であったと報告している（複数回答）。タイの大学で日本語を専攻した学生は、卒業後、日本の企業でもタイの企業でも、マネージャーとして活躍する機会が多いであろう。日本の大学でタイ語を専攻した学生が、現在トヨタ・タイの社長になっているようにである（2014年9月現在）。

このような状況からであろう、日本の企業は、ASEAN諸国の大学に通う現地の新卒大学生を日本本社の正社員として採用し始めている。ASEANの大学生は同採用への応募で、日本の大学に通う日本人大学生と同じ日本語の応募書類を要求されことがある。例えば、履歴書、自己PR文、志望動機書、などである。

タイはこの流れの中にある。チュラーロンコーン大学では、2013年7月、日本語専攻最終学年の学生に日本企業の日本本社への就職応募機会があった。そして応募者21人は、日本語の自己PR文を書いた。しかし、タイ人学習者が書いた自己PR文の内容は、日本語母語話者に違和感を持たれるものもあった。下に、タイ人学習者3人が書いた自己PR文を部分的に示す。下線は日本語母語話者からコメントがあった部分などに筆者が引いた。個人が特定できる内容は「○」に置き換えた。

- (1) 高校○年生のとき、「日・タイ○○」というプログラムに参加し、十日間日本の○○県にホームステイした経験があります。そこでは日本人と話すチャンスがありますから、日本語の日常会話が上手に話せるようになり、日本語で話す自身が持つようになりました。○年○月にホストファミリーさんがタイに来ていましたから、ホームステイを受け入れ、ホストファミリーさんをタイのいろいろな観光地へ連れて行きました。その経験から、私はタイ文化説明の経験があり、タイの文化も更に分かるようになりました。
- (2) 私は（中略）○○キャンプに参加しました。（中略）キャンプの日常生活では、前もってその次の日の予定を必ず計画し、物事を準備しなければなりません。私は毎晩寝る前に次の日の担当させていただいた科目の内容と視覚教材全部準備しておきました。ですから、授業中の勉強を順調に教えられました。（中略）その経験から、事前準備をしっかりと、物事の順序や時間きちんと扱えるようになりました。
- (3) 私は英語の○○をしていたことがあります。（中略）小さい仕事しかやっていなくても、いろいろな経験をもらうことができました。学生達に教えたのは自分の英語のスキルを練習することができました。また、待ち合わせの時間を守らなければなりませんから、一度も遅刻しないで、教えに行きました。最後の3ヵ月、私と学生達の間はだんだんよくなり、友達のように話すことができました。その経験から、私は、英語のスキルを上達し、時間を守ることや時間を分けることなどのようないい仕事のやり方を知り、いろいろな知らない人との生活を暮らし、自分を上達することに関

しては私が能率的に仕事を働くことができる自信を持っています。

例(1)(2)(3) を、研究協力者である日本人社会人2人も就職での採用担当者の立場に立って読んだ。2人とも日本国内の企業に3年以上勤め、現在（2014年）はバンコクの日系企業に2年以上勤めている。そして、例(1) の下線部に対して次のコメントを書いた。「体験であり、それをもとに何を学んだかではない」「具体例もほしい」。そして、例(2) の下線部に対しては次のコメントを書いた。「ギリギリ?」「もう少し前もって?」「事前準備のエピソードがあまりPRになっていない気がする」。これらのコメントは、タイ人学習者が肯定的にとらえて書いた内容が、日本人社会人には否定的にとらえられたこと表していると考えられる。

また筆者は、例(1)(2)(3) を見て、可能なことを表す内容が多いと感じた。例えば例(1) では「日本語が話せる／自信を持つ／分かる」、例(2) では「教えられた／扱える」、例(3) では「話すことができた／働くことができる自信をもっている」という内容である。特に例(3) は「…ことができる」という表現が多いと感じた。

一方、タイ人学習者は、データを提供した際に次の質問を書いた。一人は「自己PRでは、どのような書き方を避けるべき、書くべきではありませんか<sup>(3)</sup>」と書いた。別の一人は「自己PRを書くにあたって、1. 大学在学中に参加した活動およびボランティア活動と、2. アルバイトの経験とでは、どちらを書くか応募先の会社に興味を持ってもらえますか<sup>(4)</sup>」と書いた。また別の一人は「問題だと思ったことは、一つの出来事について、PRのためにはどの点を取り上げるべきかということです。例えば、書いたことは、私は『時間的にプレッシャーがある状況にも耐えること』と『無理だと思えることでも最後まで頑張ること』ができると思っているということです。そこで迷ってしまったのは、PRはどのような方向性で書くといいのだろうかということです<sup>(5)</sup>」と書いた。これらのコメントから、タイ人学習者が知りたいことは、日本人社会人に肯定的にとらえられる物事であると考えられる。

カノックワン（2012）は、「非母語話者にとって、相手に必要な情報と相手に不要な情報を区別し適切に伝えることはむずかしい。（中略）情報発信の選択を誤ると相手に誤解を与えることもある」（pp.26-29）と述べている。上のコメントを書いたタイ人学習者は、カノックワン（2012）がいうむずかしさに気付いているようである。そして、肯定的にとらえられる物事を知りたいようである。

南 (1979: 13-22) は、ことばの使い手がおこなう「あることを話題にすることが適切である、適切でないといった判断」は、具体的な言語表現に現れ、この判断の背景に「その社会にとっての慣習的な物の見方、考え方、行動の型」があると述べている。具体的な言語表現とは、文章であれば、実際に書かれた語や形式であると考える。したがって、ある社会の文章によく現れた語や形式を知ることが、その社会にとって話題にすることが適切な物事、肯定的にとらえられる物事を知ることにつながると考える。

そこで本研究は、タイ人学習者および日本人大学生が書いた日本語就職用自己PR文を比較して、書かれた内容や語や形式の傾向を明らかにする。言い換えれば、何をどのような形式でPRしているのかを明らかにする。データは、実際の応募に用いられた、または成績の対象であった就職用自己PR文で、タイ人大学生日本語学習者58人、および日本人大学生42人が書いた、合計100編の文章を筆者が電子化したものである。詳細は3章で述べる。

## 1.2 研究目的と問い

本研究の目的は、タイ人学習者および日本人大学生が書いた日本語就職用自己PR文を比較して、何をどのような形式でPRしているのかを明らかにすることである。この目的は、下の4つの問いに答えることで達成する。これらの問いは、上に示した日本語母語話者およびタイ人学習者のコメント、そして先行研究をふまえて立てた。

- 〈問い1〉 「自己PRの話題」はどのようなものか。これは就職用自己PR文で現れる話題が、勉強のことなのか、クラブ活動なのか、アルバイトなのか、などを調べる。
- 〈問い2〉 「自己PRの対象」はどのようなものか。これは同文章でPRしている対象が、能力なのか、考え方なのか、行動なのか、などを調べる。つまり、自己PR文の内容を抽象化して、その傾向を調べる。
- 〈問い3〉 「多用される語」はどのようなものか。これは同文章で多く現れる語が、「経験」なのか、「自信」なのか、「相手」なのか、などを調べる。つまり、自己PR文に具体的に現れた語の傾向を調べる。
- 〈問い4〉 「可能表現の使われ方」はどのようなものか。これは同文章で現れる可能表現が、「話せます」なのか、「話すことができます」なのか、「学ぶことができました」なのか、「友達ができました」なのか、などを調べる。

### 1.3 本稿の構成

本稿の構成は次の通りである。2章では先行研究を4つに分けて見る。そして本研究の問いに対する仮説を立てる。3章では本研究で用いるデータの概要、および分析方法を述べる。4章では分析結果を示す。5章では結果をまとめながら問いに答え、結果の要因を考察する。そして本研究の日本語教育への応用について述べる。最後に今後の課題を述べる。

## 2 先行研究

この章では、先行研究を4つに分けて見る。まず、話題にする物事の適切さを論じている研究を見る。次に、就職用文章に書かれた内容や表現の不適切さを指摘している研究を見る。次に、「ほめ」の研究を見る。自己PR文の研究は日本語教育研究では見られないため、自己PRを「自分に対するほめ」ととらえ、「ほめ」の研究方法を参考にする。次に、可能表現の研究を見る。1章で述べたように、タイ人学習者の自己PR文には可能なことを表す内容が多いと感じた。これを確かめるために、可能表現の研究を参考にする。最後に、これらの先行研究をふまえ、本研究の問いに対する仮説を立てる。

### 2.1 話題にする物事の適切さ

ここでは、話題にする物事の適切さを論じている研究を6つ見る。

1つ目のカノックワン (2012: 26-29) は、「非母語話者にとって、相手に必要な情報と相手に不要な情報を区別し適切に伝えることはむずかしい。(中略) 情報発信の選択を誤ると相手に誤解を与えることもある」と述べている。例として、非母語話者が日本の大学宛に書いた下の留学志望理由書を示し、相手の方がよく知っているはずの情報などを必要以上に伝えていると指摘している。

- (4) K大学には日本社会・文化に関するフィールドワークの授業があるので勉強したいと思います。この授業は、日本語・日本文化研修生を研究テーマ毎にグループに分けた共同調査班によるフィールドワークのグループです。

(カノックワン2012: 27)

また、この志望理由書の別の部分も示し、相手が必要とする具体的な情報を十分に伝えていないと指摘している。そして、このような情報の過不足によって、相手に悪い印象を与えてしまっていると述べている。

2つ目の西村 (1998) は、ニュージーランドの中級日本語学習者による目上の人宛の詫びの手紙を適切性の観点から分析している。そして英語話者の言い訳の方略は、英語の影響から日本人とは異なると報告している。例えば「忘れた」という言い訳について、日本人による日本語の手紙20通の例として、例(5)を示している。この例は、故意ではなかったこと (☆で標示)、および自分の責任を認めること (★で標示) が、緩和の方略として示されていると述べている。



- (5) すべてお返ししたと思いついでいた☆ので、ずいぶん長いあいだお借りしたままで、大変ご迷惑をおかけしました★。(西村1998: 79)

一方、中級日本語学習者による日本語の手紙31通の例は、例(6)を示している。そして、緩和の方略が用いられておらず、不適切であると述べている。

- (6) 先日私のへやをそうじしながらこの本をみつけました。この本をかえすことをわすれました。(西村1998: 79)

西村(1998)は、さらに、英語話者による英語の手紙15通の例で、例(7)を示している。この例の緩和の方略は、事故であったことを述べて事態の正当化を図ることであるが、何を方略の対象にするかという点で問題があり、不適切であるとしている。

- (7) I have recently just moved into a new house, and the book was in a box which was accidentally left behind in our previous house.

(西村1998: 81)

例(7)は例(6)と内容の傾向が似ていることから、英語における方略の使用傾向が、日本語の文にも影響をおよぼしていると考察している。

3つ目の金(2005)は、韓・日大学生の親しい同性友人同士による実際の会話のほめを分析している。そして、高い頻度でほめる対象が、韓国と日本の大学生社会では異なると述べている。具体的には、韓国語母語話者がほめる対象は、頻度が高い順に、外見の変化>外見>遂行、であったが、日本語母語話者は、遂行>行動、であったと報告している。そして、韓・日間で起こりうるミス・コミュニケーションについて、「『外見』を頻繁にほめたりすると、かえって日本語母語話者を戸惑わせたり、不快にさせてしまうかもしれない」(金2005: 20)と述べている。

4つ目のBussaba(2009)は、タイ・日本大学生を対象としたアンケート調査により、両者の日本語のほめ言葉を報告している。そしてタイ人が選んだ日本語のほめ言葉は、タイ語文化の影響から、日本人が選んだものとは異なると述べている。例えば、相手の外見をほめる言葉では、タイ人は「きれい、かわいい、似合う、かつこいい」を選んだ。一方、日本人は「かわいい、かつこいい、いい、すてき」を選んだと報告している。そして、日本人は「きれい」をあまり選ばなかったが、タイ人が「きれい」を選んだ理由は、タイ語のほめで「きれい」を好んで用いることであろうと考察している。

5つ目の堀江(1990)は、日本語の「がんばってください」の使われ方と、タイ語のそれに相当する表現の使われ方とをインタビューや文献研究により対照し、次の

ように述べている。「日本では忍耐・努力・尽力を評価するので、『がんばって』という言葉が多用する。一方、タイでは、『運・運勢』が重要で、評価する傾向がある」(p.132)。そして、タイ語にも、辛抱、我慢、努力という言葉は存在するが、「日本でのようには高く評価されていない」(p.134)と述べている。

6つ目の横田(1986)は「直し過ぎ」を取り上げている。横田(1986)は、アメリカ人がほめられた際にどのように返答するのかをアンケート調査し、日本語(アメリカ人)での返答と、英語(アメリカ人)での返答に違いがあったと報告している。例えば「ありがとう」や“Thank you”などの肯定の返答は、日本語場面では21%であったが、英語場面では68%を占めたと報告している。また日本語場面では、アメリカ人が日本人より否定の返答を多く選んだと報告している。例えば、「いやいや」などの否定の返答は、日本人は20%であったが、アメリカ人は38%を占めたと報告している。この理由として、「英語と日本語のことばの使い方の違いが強調され、日本語ではほめられた際には否定するのが一番適当であると教えられた結果であると思われる。つまり(中略)『直し過ぎ』が起こったものと考えられる」(p.214)と述べている。

## 2.2 就職用文章の研究

ここでは、就職用文章に書かれた内容や表現の不適切さを指摘した研究を2つ見る。野元(2004)は、日本で学ぶ留学生へのビジネス日本語教育の課題の一つとして、就職用文章の書き方を挙げている。例えばエントリーシートや履歴書などの書き方である。しかし、就職用文章の研究は、日本語教育研究では見られない。ここでは英語およびフランス語の就職申込書に関する研究を見る。

1つ目の Nkemleke (2004) は、カメルーン (Cameroon) の英語教育研究である。カメルーンは、フランス語と英語が公用語であるが、国全体ではフランス語話者の方が多い国である (国際交流基金 2013)。Nkemleke (2004) は、カメルーンの大学生が書いた英文就職申込書 (job application) 99通の書き出し、および結びの文を分析し、不適切な表現を指摘している。例えば結びの文は、英語で慣例的 (conventional) な “I look forward to …” や “I hope to here from you” などの例が全体の7%であったのに対し、冗長な (verbose) または特異な (peculiar) 例が93%を占めたと報告している。冗長な結びの文の例は “While waiting for your favourable response, I remain yours humble servant” などである。これらの冗長または特異な例について

学生に指導したことは、正式な文書でのこのような冗長な表現は雇用者をいら立たせるということであるが、これに対し学生が主張したことは、就職申込書は読み手を説得して読み手の感情に訴えるような方法で書かれていると見られなければならないということである、と述べている。考察では、カメルーンが主にフランス語を話す国であるため、英語話者が言語使用面でフランス文化に同化してきたことや、読み手の情に訴えるためにフランス式の冗長な表現をそのまま英語にすること、などを指摘している。

2つ目の Mboudjeke (2010) は、フランス語能力が不十分な (semiliterate) カメルーン人が書いたフランス語就職申込書 (job application) 60通を分析し、不適切な内容や表現を指摘している。そして、応募者がフランス語就職申込書の文章規範 (textual norms) に気付いていないために、言語能力が必要な職種に選ばれない可能性がある例を報告している (12通)。例えば、フランス語就職申込書の1文目は、申込書を書く理由を明記しなければならないと述べ、次の慣例書式 (the writing conventions) を示している (Mboudjeke (2010) はフランス語原文、およびその英訳文を併記している)。“In response to your job advertisement published in (source) on the (date), I am writing to apply for the position of …”(p.2521)。しかし、カメルーン人が書いたものは、申込書を書く理由が明記されていないと述べ、次の例を示している (下線はフランス語例文の下線部を参照して筆者が引いた)。“I have the honour to come before your high benevolence to beg you to enroll me on the list of employees of your company”(p.2525)。このように、申込書を書いた理由を明記せずに、従業員リストに自分を加えることを申し込むような書き手は、言語能力の不足を自ら証明していると述べている。また、この例にもあるように、例えば慈悲心 (benevolence) といった採用側の人格を取り上げ、応募者が過度に採用側を賞賛する例が半数以上 (35通) であったことも報告している。この理由は明らかにしていないが、カメルーン文化での依頼の仕方を取り上げながら理由を考察している。

以上2.1節と2.2節では、話題や表現の適切さを論じている研究を見た。これらの研究結果をふまえると、タイ人学習者が書いた日本語就職用自己PR文で現れる内容や表現にも、読み手である日本人社会人が不適切であると感じたり、違和感を持つものがあるであろう。本研究はその可能性がある内容や形式を調べる。2.3節と2.4節では、この内容や形式を調べる方法のもとにする研究を見る。

## 2.3 「ほめ」の研究

ここでは、自己PRを「自分に対するほめ」ととらえ、「ほめ」に関する日本語教育研究を見る。そして「ほめ」の定義および「ほめの対象」の種類をもとに、本研究の「就職用自己PR文」の定義および「自己PRの対象」の種類を定める。

### 2.3.1 「ほめ」の定義と「ほめの対象」の種類

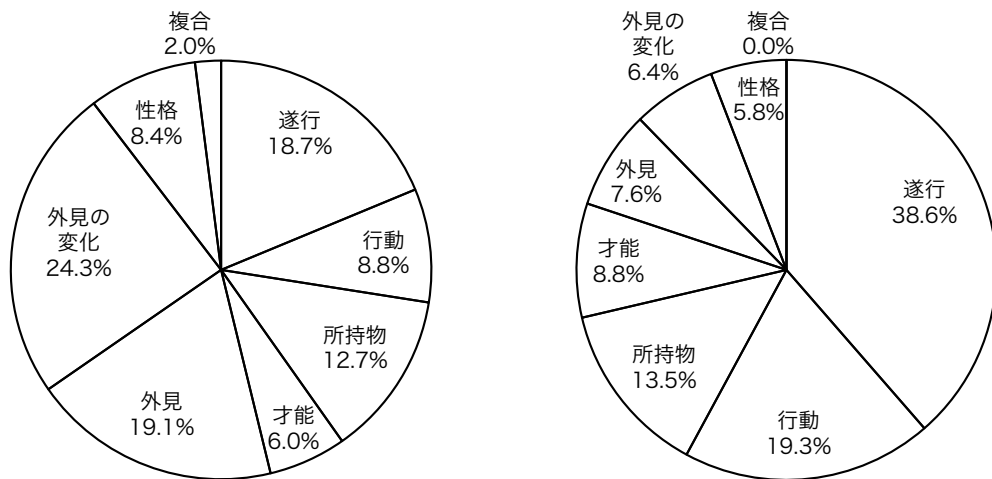
「ほめ」の定義は、小玉（1996）、Holmes（1986, 1988）、および古川（2003）が示している。小玉（1996）の定義は、Holmes（1988）の定義に同意した上での修正案である。古川（2003）は、「ほめ」はほめの対象に対して「価値を上げる」（p.34）としているのに対し、小玉（1996）は「肯定的な評価を与える」（p.61）にとどめている。就職用書類の自己PR文は、自分で自分の評価が上がったと判断する文章ではないと考え、本研究の「就職用自己PR文」の定義は、小玉（1996）をもとにして定める。小玉（1996）の「ほめ」の定義は、次の通りである。「ほめるという言語行為は、話し手が聞き手或いは聞き手の家族やそれに類する者に関して“よい”と認める様々なもの或いはことに対して、聞き手を心地よくさせることを前提に、明示的に或いは暗示的に、肯定的な評価を与える行為である」（小玉1996: 61）。

次に「ほめの対象」、つまり何をほめるのかは、社会や相手との関係によって特徴がある（金2005; 熊取谷1989; 古川2003; Bussaba 2009; Herbert 1989）。「ほめの対象」の種類は、金（2005）が定義している。金（2005）は、韓・日大学生の親しい同性友人同士による実際の会話のほめを分析している。「ほめの対象」は次の7つで、1. 性格、2. 才能、3. 行動、4. 遂行、5. 外見、6. 外見の変化、7. 所持物、である。そして、2.1節で示したように、高い頻度で現れる「ほめの対象」が、韓国と日本の大学生社会では異なると述べている。下に、金（2005）の「ほめの対象」の種類と定義（表1）、および「ほめの対象」の出現割合（図1）を示す。

表1 金（2005）の「ほめの対象」の種類と定義

ほめの対象	定義
性格	各個人に特有の、ある程度持続的な、感情・意思の面での傾向や性質そのもの。
才能	ある個人の一定の素質、または訓練によって得られた能力そのもの。
行動	性格から現れるようなおこない、あるいは性格が分かるようなふるまい。
遂行	素質や才能を用いて、何かに達し、成功するために実行する過程やその結果。
外見	外から見た人の姿、容貌のうち、変わらない、生まれつきの顔や体型などの容貌。
外見の変化	外から見た人の姿、容貌のうち、一時的に変化した顔や体型、髪型などの容貌。
所持物	相手が持っている、又は身につけている物理的な物（かばん、アクセサリなど）。

金（2005）を元に筆者がまとめた。



韓国語母語話者「ほめ」数251回

日本語母語話者「ほめ」数171回

図1 韓・日大学生の会話における「ほめの対象」の出現割合

金（2005）の「表3」の「頻度」を元に筆者が図にした。

以上「ほめ」に関する日本語教育研究を見た。金（2005）は、実際の会話で現れた「ほめ」をもとに、あることを話題にすることが適切であるかどうかは、社会によって異なることを示唆していた。これらの研究結果をふまえ、本研究も、実際の就職用自己PR文で現れる話題およびPRの対象を調べる。

### 2.3.2 「就職用自己PR文」の定義と「自己PRの対象」の種類

本研究の「就職用自己PR文」の定義は、前項で示した小玉（1996）の「ほめ」の定義をもとに定める。そして「自己PRの対象」は、金（2005）の「ほめの対象」をもとに定める。

まず、「就職用自己PR文」の定義について述べる。就職用自己PR文の目的は、就職活動に関する書籍であるキャリアデザインプロジェクト編著（2012）が、自分が

企業で活躍できることを伝えることである、と述べている。企業で活躍できることを伝えるために、書き手は自分に関して“よい”と認めることを書くであろう。この点は、小玉（1996）の「ほめ」の定義と一致していると考えられる。また香山（2014）は、「自己PRは、自分に関して読み手の社会が“よい”と認めるであろう物事を書けばよい」（p.114）と述べている（香山（2014）の内容は3.2.2項で示す）。これらをふまえ、本研究は就職用自己PR文を次のように定義する。

「就職用自己PR文」は、書き手が応募先で活躍できることを伝えるために、自分に関して読み手の社会がよいと認めるであろう物事を示す文章である。

次に、「自己PRの対象」の種類について述べる。本研究の「自己PRの対象」は、金（2005）の「ほめの対象」の定義を自己PR文用に変え、次の5つを設ける。①性格、②主観的能力、③客観的能力、④考え方、⑤行動、である。表2にそれぞれの定義を示す。

表2 「自己PRの対象」の種類と定義

自己PRの対象	定義
①性格	書き手の感情の傾向。
②主観的能力	書き手が自分で認める一定の素質や能力。
③客観的能力	他者から認められた書き手の能力、または普遍妥当性をもつ能力。
④考え方	書き手が考えたこと。
⑤行動	書き手の実際のおこない。

金（2005）の「ほめの対象」の種類および定義から変えた点は次の4点である。

1. ①性格と④考え方は、金（2005）の「性格」を感情面と意思面に分けたものである。2. ②主観的能力と③客観的能力は、金（2005）の「才能」を、自分で認める能力と、他者から認められた能力に分けたものである。3. ⑤行動は、金（2005）の「行動」を元にした。金（2005）の「行動」と「遂行」の区別は自己PR文では区別が難しいため、⑤行動だけを定義した。4. 金（2005）の「所持物」「外見」「外見の変化」は、就職用自己PR文では現れないため、本研究の対象に定めなかった。

以上2.3節では、本研究で自己PRの対象を調べるために、小玉（1996）および金（2005）をもとに、「就職用自己PR文」および「自己PRの対象」を定めた。

## 2.4 可能表現の研究

本研究は、渋谷（1993）が示した「可能表現」をデータから取り出し、その使われ方を調べる。そして、1章で述べたように、タイ人学習者が書いた自己PR文には可能表現が多いのかを確かめる。ここでは、渋谷（1993）の「可能の形式」と「可能の意味」をまとめる<sup>(6)</sup>。

### 2.4.1 可能表現の形式

渋谷（1993）は、可能表現を次のように規定している。「人間その他の有情物（ときに非情物）が、ある動作（状態）を実現することが可能・不可能であることあるいはあったことを表す表現形式類を（中略）可能表現という」（p.1）。そして「可能の形式」は、次の4形式を示している。1. 可能動詞、2. 動詞未然形+助動詞ラレ、3. デキル、4. 動詞連用形+ウル・エル、である。表3に、この4形式および例をまとめる。なお、渋谷（1993）の「見レル・来レル・書カレル」は、非標準的な形であり、就職用自己PR文には現れないため、本研究ではこれらを除いて示す。

表3 「可能表現の形式」と例

形式	例（説明）	
1. 可能動詞	書ける（五段動詞）	
2. 動詞未然形+助動詞ラレ	見られる・来られる（一段動詞・カ変動詞）	
3. デキル	名詞+デキル	勉強できる
	名詞+ガ+デキル	勉強ができる
	動詞連体形+コトガデキル	勉強することができる
4. 動詞連用形+ウル・エル	勉強しうる・勉強しえる	

渋谷（1993）を元に筆者が表にした。

### 2.4.2 可能表現の意味

渋谷（1993）は「可能の意味」を11種類示している。このうち10種類は次のかけ算で表せる<sup>(7)</sup>。可能の意味（10種類）＝実現の有無（2種類）×可能の条件（5種類）。

まず「実現の有無」は、実現があるか無いかの分類で、あるは「実現系可能」、無いは「潜在系可能」である（以降それぞれ「実現系」「潜在系」と記す）。それぞれの意味、および動作性・状態性について、渋谷（1993: 14-26）を元に箇条書きで下にまとめる。

実現系：様々な条件によって、ある動作を実現することが可能・不可能であ

る・あったことを表す。基本的に一回的な動作の実現である。

潜在系：様々な条件によって、ある動作を実現することが、やる（やった）かどうかは別にして、潜在的に可能・不可能である（あった）ことを表す。実現可能性と「可能の条件」の対応関係は継続的であり、もとの動詞の動作性を失って、状態的な意味の様相を帯びる。

次に「可能の条件」は、可能・不可能が、動作主体のどのような条件に起因するのかの分類である。分類は次の5つで、1. 心情可能、2. 能力可能、3. 内的条件可能、4. 外的条件、5. 自発、である。表4に、可能の意味10種類および例文を「実現の有無」別、「可能の条件」別に示す。また「可能の条件」の所在を、渋谷（1993: 27-30）を元に箇条書きで表4の下にまとめる。

表4 「可能表現の意味」の分類と例文

可能表現の意味		例文
実現の有無	可能の条件	
実現系	心情可能	・はずかしくて結局彼女に話かけられなかった
	能力可能	・日本選手団は実力の差が出てアメリカに勝つことができなかった
	内的条件可能	・その日はからだの調子が悪くて会議に出席できなかった
	外的条件	・その日は忙しくて結局会議に出席できなかった
	自発	・あいつが結婚するなんて考えただけで笑えてしまった
潜在系	心情可能	・そんな派手なセーターは、はずかしくて大勢の人のいるところでは着てられない。
	能力可能	・ぼくはからだが弱いから長くは出歩けない（先天的） ・ぼくは一生懸命勉強したから十分英語が話せる（後天的）
	内的条件可能	・今日は気分が悪いからあまりたくさんは食べられない。
	外的条件	・今日の午前中は別の用事があるからその会合には出席できない（余裕） ・その魚は汚染されているから食べることはできない（対象の性質） ・ぼくはまだこのテニスクラブに入会していないからこのコートではプレイできない（動作主体の資格）
	自発	・あの山をみるといつも故郷のことが思い出される

渋谷（1993）を元に筆者が表にした。例文は渋谷（1993: 27-30）のものである。

心情可能       ：主体の心情・性格・勇気など

能力可能       ：主体のもつ（体力・技術的な）能力

内的条件可能   ：主体内部の「一時的な」気分的・肉体的条件

外的条件       ：主体を取り巻く外的世界



自発                   ：「外的条件」のうち、主体の意思の介入を全く許さない場合

以上2.4節では、可能表現の使われ方を調べるために、渋谷（1993）の「可能の形式」と「可能の意味」をまとめた。本研究は、データである就職用自己PR文から渋谷（1993）が示した「可能の形式」を取り出し、それらを表4に照らしながら「可能の意味」に分類し、可能表現の使われ方を調べる。

## 2.5 問いへの仮説

以上の先行研究をふまえ、1章で述べた本研究の問いに対する仮説を立てる。

〈問い1〉は、「自己PRの話題」がどのようなものである。西村（1998）、金（2005）、Bussaba（2009）、堀江（1990）、Nkemleke（2004）、Mboudjeke（2010）は、社会が異なれば話題も異なることを報告していた。したがって〈問い1〉に対しては次の仮説を立てる。すなわち、「自己PRの話題」は、タイ人学習者と日本人大学生とで異なる。

〈問い2〉は、「自己PRの対象」がどのような対象かである。「ほめの対象」について報告していた金（2005）は、高い頻度で現れる「ほめの対象」が、韓国と日本の大学生社会では異なると述べていた。したがって〈問い2〉に対しては次の仮説を立てる。すなわち、高い頻度で現れる「自己PRの対象」は、タイ人学習者と日本人大学生とで異なる。

〈問い3〉は、「多用される語」がどのようなものである。〈問い1〉に対する仮説でも述べたように、先行研究は、社会が異なれば話題も異なると報告していた。話題が異なれば使われる語も異なるであろう。したがって〈問い3〉に対しては次の仮説を立てる。すなわち、「多用される語」は、タイ人学習者と日本人大学生とで異なる。

〈問い4〉は、「可能表現の使われ方」がどのようなものである。これは1章でタイ人学習者が書いた自己PR文を見ながら、可能なことを表す内容が多いと感じると述べた。したがって〈問い4〉に対しては次の仮説を立てる。すなわち、「可能表現」は、タイ人学習者が日本人大学生より多く用いる。

### 3 研究方法

この章では、まず、本研究で用いるデータの概要を述べる。次に、本研究の分析方法を述べる。

#### 3.1 データと一次資料の概要

##### 3.1.1 データ

本研究のデータは、タイ語母語話者日本語学習者大学生（以降、T、と記す）、および日本語母語話者大学生（以降、J、と記す）が書いた日本語就職用自己PR文で、下の3つの一次資料を必要に応じて筆者が電子化したものである。

- (ア) T4年生22人が、2013年前期に、実際に日本で開かれた就職説明会へ応募するために書いた22編の日本語電子文章。
- (イ) T3年生36人が、2013年後期に、実際の日本語作文科目で成績の対象になる作文として書いた36編の日本語手書き文章。
- (ウ) J42人が書いた文章で、書籍、キャリアデザインプロジェクト編著(2012)『内定勝者 私たちはこう言った! こう書いた! 合格実例集&セオリー-2014 エントリーシート編』、または同書籍の2010年版(2008)、または2007年版(2005)に掲載された42編の日本語文章。

一次資料を電子化する際に、次の3つの処理をした。1. 平仮名はできるだけ漢字に換えた。本研究は主にコンピュータを用いてデータ中の語を取り出した。その際、平仮名だけが続く文章は、コンピューターの形態素解析プログラムが正しい分析結果を返しにくいからである(李他 2012)。2. 表記が平仮名か漢字かは、データ内で統一した。3. 漢字の誤用は、筆者が意味を推測して修正した。なお、本稿内で示す実例は、上の処理をしていない一次資料の原文のままの文である。

TまたはJが書いた一次資料に上の処理がされた文章は、以降それぞれ、Tデータ、Jデータ、と記す。Tデータの一次資料は(ア)および(イ)である。Jデータの一次資料は(ウ)である。表5に、TデータおよびJデータの概要をまとめる。本研究の結果および考察は、表5に示す日本語就職用自己PR文データ、合計100編、約39,000字(本稿書式で約34ページ分)にもとづくものである。

表5 データ概要

データの種類	書き手	編数 (編)	電子データ化後の 総字数 (字)	1編あたりの 平均字数 (字)
Tデータ	タイ語母語話者日本語学習者大学生	58	23,124	399
Jデータ	日本語母語話者大学生	42	15,736	375

### 3.1.2 タイ語母語話者日本語学習者の一次資料

Tが書いた就職用自己PR文の一次資料は2つで、3.1.1項で示した（ア）および（イ）である。（ア）は、チュラーロンコーン大学日本語講座日本語主専攻に所属する最終学年22人（以降、T4年生、と記す）が書いた22編の日本語電子文章である。（イ）は、T4年生と同じ所属の3年生36人（以降、T3年生、と記す）が書いた36編の日本語手書き文章である。どちらも研究用に実験的に書かれたものではなく、就職面接会へ実際に応募するために書かれた文章、または、実際に成績の対象になった文章である。どちらも本気で書かれた同質の就職用自己PR文であると考え、2つをまとめて1つのTデータとした。また記入条件は、それぞれの提出先の要件に従うため、同じではない。下にそれぞれの記入条件などを示す。

（ア）のT4年生が書いた一次資料は、実際の就職面接会（以降、面接会、と記す）への応募書類である。記入条件は「自己PR（400字以内）」であり、応募はインターネット経由であった。文章の収集は、T4年生が、自身の面接会応募用文章を本研究用文章入力書式に転記することによった。本研究用文章入力書式は、筆者がインターネット上に用意した（添付資料1：就職用自己PR文記入書式 — 4年生用）。収集期間は、2013年6月29日から7月11日までであった。7月11日は、就職面接会応募締切り日と同じ日である。記入条件、収集方法、および研究協力依頼の伝達は、事前の6月24日に口頭および文書でおこなった。電子データ化後の1編あたり平均字数は371字である。

ここで、面接会の概要を述べておく。この面接会は、日本の企業がアジアの学生を日本本社の正社員として採用する目的で開かれたものであった。参加企業数は18社であった。書類審査を通過した応募者は、東京で開かれた面接会に呼ばれ、複数社と面接した。タイ・日間の渡航費、日本での宿泊費などは面接会主催者が全額負担した。T4年生の実績は、21人が応募し、4人が東京の面接会に呼ばれ、2人が採用の内定を受けた。

(イ) の T3年生が書いた一次資料は、実際の日本語作文科目で成績対象の作文として書かれた日本語模擬就職用自己PR文である。記入条件は、授業時間3時間内に、1編の長さがA4サイズ縦使い横書き11行程度の文章を、鉛筆書きで2編書き、2編とも提出するという条件であった（添付資料2：就職用自己PR文記入書式 — 3年生用）。字数制限はなかった。本研究の一次資料には、この2編のうち1編を用いた（主に1編目）。文章の収集は、T3年生から作文科目の教師に提出された文章を、提出直後に筆者が借りて複写することによった。作文担当教師による添削の前である。記入日は2013年11月29日であった。収集方法と研究協力依頼の伝達は、事前の11月1日に口頭でおこなった。電子データ化後の1編あたり平均字数は416字である。

Tが書いた一次資料は以上の2つであり、T4年生から22編、T3年生から36編、合計58編の日本語就職用自己PR文を得た。電子データ化後の1編あたり平均字数は399字である（最長526字、最短283字、標準偏差57字）。

この他に、タイ語の模擬就職用自己PR文20編がある。これは、T20人（主にT3年生）が書いた。このタイ語文章は、本研究のデータとしては用いないが、本研究の参考資料として用いる。このタイ語自己PR文の状況設定は次の設定であり、タイ語で示した（添付資料3：就職用自己PR文記入書式 — タイ語用）。「あなたは、就職または職業研修がしたいです。そこで、人材紹介会社に登録します。登録には、成績証明書の他に、self-promotion letter を用意しなければなりません。この書類の読み手は、タイ国内の複数の会社のタイ人人事部長です。この self-promotion letter をタイ語で書きなさい。」という設定であった。“self-promotion letter” を書くという設定にしたのは、「自己PR」という言葉の適当なタイ語訳が見付からなかったからである。記入条件は、A4サイズ縦使い横書き12行の用紙に、約30分で手書きで書くという条件であった。文章の収集は、ある日本語選択科目授業内でTが書いて科目担当教師に提出し、それを筆者が受け取ることによった。記入日は2013年10月28日であった。この時点でT3年生は、日本語自己PR文を約1か月後に作文科目で書くことを知らされていなかった。また、タイ語の自己PR文は成績の対象ではない。

この3.1.2項で述べた一次資料を研究で利用することに対する承諾は、Tから文書で得た（添付資料4：研究協力承諾書書式）。同時にTの個人情報も文書で得た（添付資料5：フェイス・シート）。

### 3.1.3 日本語母語話者大学生の一次資料

Jの一次資料は、日本の大学生が実際の就職応募のために書いた日本語就職用自己PR文42人分で、3.1.1項で示した（ウ）である。これらは、次の3冊の書籍に掲載されている実例から集めた。1. キャリアデザインプロジェクト編著（2012）『内定勝者 私たちはこう言った！ こう書いた！ 合格実例集&セオリー2014 エントリーシート編』PHP出版、2. 同書2010年版（2008）、3. 同書2007年版（2005）、以上の3冊である（以降、3冊をまとめて『内定勝者』と記す）。

Jの一次資料に書籍を選んだのは、Tの自己PR文と条件が近い文章を得るためである。Tの自己PR文は、研究用に実験的に書かれたものではなく、実際に就職面接会へ応募するために書かれた文章、または、実際に成績の対象になった文章である。これらの文章と同様に本気で書かれた文章を得るために、Jの自己PR文は実際に就職に用いられた実例から集めた。『内定勝者』を選んだ理由は、同書に次の記述があることである。「掲載してあるのは基本的に内定及び内々定者（共に自己申告）たちが作成したものである」（キャリアデザインプロジェクト編著2012: 125）。

なお、Jデータは、内定を受けた学生が書いたものであり、書籍に掲載された文章である。そのため、読み手から高い評価を受けたものであると思われる。一方Tデータは、内定を受けた学生が書いたものは2例である。この点で、JデータはTデータと同質ではない。しかし、Jデータの良い点をTへの日本語教育で活用することも考慮し、Jデータは上記の『内定勝者』を用いた。

『内定勝者』には、実例を提供した学生の、学部生・大学院生の別、文系・理系の別、そして内定企業名が書かれている。また、掲載してある文章が「自己PR」か「志望動機」かも書かれている。これらの情報は、本研究で用いる実例を選ぶ際に参考にした。

実例を選ぶ基準は次の3つである。1. 自己PR文であること、2. 字数が300字から500字であること、3. 文系の学部生が書いたもの、である。これらの基準を設けたのは、Tが書いた文章と条件が近い文章を得るためである。字数の範囲は、Tデータにおける平均字数（399字）プラス・マイナス標準偏差（57字）の約2倍にした。これらの基準により『内定勝者』から42人分の文章を選んだ。電子データ化後の1編あたり平均字数は375字である（最長500字、最短302字、標準偏差43字）。

### 3.2 分析方法

ここでは、本研究の分析方法を4項目に分けて述べる。1つ目は「自己PRの話題」である。これは、就職用自己PR文で現れる話題が、勉強のことなのか、クラブ活動なのか、アルバイトなのか、などを調べる。2つ目は「自己PRの対象」である。これは、同文章でTまたはJがPRしている対象が、能力なのか、考え方なのか、行動なのか、などを調べる。3つ目は「多用される語」である。同文章で多く現れる語が、「経験」なのか、「自信」なのか、「相手」なのか、などを調べる。4つ目は「可能表現の使われ方」である。同文章で現れる可能表現が、「話せます」なのか、「話すことができます」なのか、「学ぶことができました」なのか、「友達ができました」なのか、などを調べる。下にこれらの分析方法を述べる。

#### 3.2.1 自己PRの話題

データを文単位で「自己PRの話題」に分類し、次の3つを調べる。1. 各話題を選んだ人の割合、2. 1編あたりの話題数、3. 具体例を示す文の割合、である。

1つ目の、各話題を選んだ人の割合は、次の7つの話題を設けて集計する。1. 勉強・ゼミ、2. クラブ活動・大学祭など（学内課外活動）、3. 留学、4. アルバイト・インターンなど（有償活動）、5. ボランティアなど（無償活動）、6. 日常生活、7. 目標・その他、である。ここで、6. 日常生活とは、勉強のことでもなく、課外活動、留学、アルバイト、ボランティアといった特別な活動でもない話題のことである。下に、日常生活に分類した例を示す。例(8)(9)の各文はすべて日常生活に分類する。例の後ろに示した[ ]内の番号は、書き手を表す番号であり、「T」はTデータから、「J」はJデータから選んだ例であることを表す。

(8) 私は几帳面で、整理整頓が得意な方だと思います。小学1年から小遣い帳と課題専用ノートを書き始め、途切れることなく現在も続けています。

（中略）大学では多数の課題が次々と出されるのですが、まずは優先順位を決め、すぐに提出期限から逆算し、不測の事態にも対応できるように余裕を持った日程で、いつどのような作業をするか計画を立てて実行しています。[T41]

(9) 私の強みのもう1つは、知らない人からのたくさんの優しさに恵まれて、今まで人生を送れたことです。具体的には、初対面の、それも年齢の全く異なる方と偶然親しくなり、現在も続くそういった方との親密な関係を築

けたということです。[J20]

データを話題に分類する単位は、句点から句点までの文単位とする。文単位にする理由は、自己PR文1人分（1編）にいくつかの話題が現れ、1編全体を1つだけの話題に分類することができないと考えたことである。分類作業は筆者の判断でおこなう。分類後、各話題を選んだ人の人数を集計し、その割合をT、J別に示す。

2つ目の1編あたりの話題数、および3つ目の具体例を示す文の割合を調べる理由は、1章で述べたように、研究協力者の日本人がTデータに対して「具体例もほしい」とコメントしていたこと、さらに、参考資料として集めたタイ語自己PR文20編に、具体例を示す文が少ないと筆者が感じたことである。タイ語の例は下の文章である。日本語訳文（筆者による）、タイ語原文の順に示し、日本語訳文の各文末には筆者による次の判断を（ ）内にゴシック体で適宜示す。「話題開始、具体例・非具体例」の判断である。

- (10) 仕事として組織に入ったら、いつも与えられた仕事を最優先にします **(仕事の話開始、非具体例)**。私は真剣に働く人で、仕事にとっても集中し、圧迫された状況で自分自身を上手にコントロールでき、そして、周りの人に気を配ります **(非具体例)**。学生の頃、毎年大学の大きな活動をしていた経験があり、いい人間関係があり、すぐに自分を他の人に適応させてうまくやっていくことができます **(学生の頃の話開始、非具体例)**。成績は目立ちませんが、私は自分がさらに大きく成長でき、いつも心を開いて新しいことを受け入れられると信じています **(非具体例)**。

เมื่อเข้าไปในองค์กรการทำงานแล้วจะให้ความสำคัญกับงานที่ได้รับมอบหมายเป็นอันดับแรกเสมอ ดิฉันเป็นคนทำงานอย่างจริงจังและมีสมาธิในการทำงานมาก สามารถควบคุมตนเองในสถานการณ์ที่กดดันได้เป็นอย่างดีและเอาใจใส่คนรอบข้างในชีวิตการเรียนได้มีประสบการณ์ในการทำกิจกรรมใหญ่ ๆ ของมหาวิทยาลัยอยู่ทุก ๆ ปี มีมนุษยสัมพันธ์ที่ดี สามารถปรับตัวเข้ากับคนอื่นได้อย่างรวดเร็ว ถึงแม้ผลการเรียนจะไม่โดดเด่นแต่ดิฉันเชื่อว่าตนเองสามารถพัฒนาไปได้มากขึ้นอีก สามารถเปิดใจรับสิ่งใหม่ ๆ ได้เสมอ

上の例には、「仕事」と「学生の頃」という2つの話題がある。まず「仕事」について書いている。しかし、「真剣に働くこと／自分をコントロールできること／周り

に気を配ること」を裏付ける具体例が示されないまま、「学生の頃」の話題に移っている。そして「学生の頃」の話題でも具体例は示されない。キャリアデザインプロジェクト編著（2012）によると、就職用自己PR文には、具体的なエピソードによる裏付けが求められている。例(10)のように具体例が示されないまま、話題数が多くなる就職用自己PR文は、日本人採用担当者に違和感を持たれるかもしれない。このため、1編あたりの話題数と、具体例を示す文の割合を調べる。

具体例を示す文であるかどうかは、筆者が判断する。杉田（1994）は、文章の話題展開を調べる際に、文を次の2つに分けて調べている。1. 一般的な話題の文、2. 相対的に狭い話題の文、である。本研究の「具体例・非具体例」は、それぞれ杉田（1994）の「相対的に狭い話題の文・一般的な話題の文」に当たると考える。そして杉田（1994）は、文の話題の一般性は文脈によって異なることを認めている。したがって、本研究での具体例を示す文とは、ある話題の中で具体的な物事を筆者が思い浮かべられる文とし、厳密な定義は定めない。

### 3.2.2 自己PRの対象

データを文単位で「自己PRの対象」に分類し、各対象の出現割合を調べる。「自己PRの対象」の種類は、2.1.2項の表2（p.12）で次の5つを定めた。1. 性格、2. 主観的能力、3. 客観的能力、4. 考え方、5. 行動、である。これらは、金（2005）の「ほめの対象」を参考にして定めた。この5種類に加えて、次の2つを設ける。6. 複合、7. なし、である。「複合」を設けるのは、1文に複数の「自己PRの対象」を含むことがあると考えたからである。「なし」を設けるのは、書き手にとっては文章全体が自己PRであっても、読み手にとっては、PRしているものがないと感じる文があると考えたからである。この「複合」と「なし」を設けるのは、本研究と同じ研究テーマをアツクった香山（2014）の不十分なところを改めるためである。香山（2014）の内容、および研究方法で不十分なところは、この項の最後に述べる。表6に「自己PRの対象」の種類と定義をまとめ直して示す。各定義の右には、本研究で分類されたTデータを1例ずつ示す。



表6 「自己PRの対象」の種類と定義 (表2に加筆)

自己PRの対象	定義	Tデータの例
性格	書き手の感情の傾向	(11) タイ語、日本語、英語などを使って、人々とやり取りすることが特に興味を持っています。[T58]
主観的能力	書き手が自分で認める一定の素質や能力	(12) その経験から、私はタイ文化説明の経験があり、タイの文化も更に分かるようになりました。[T40]
客観的能力	他者から認められた書き手の能力、または普遍妥当性をもつ能力	(13) 本来〇〇係は、1人1年間しかまかされないのですが、私の仕事ぶりを見て校長先生は3年連続まかしてくださいました。[T30]
考え方	書き手が考えたこと	(14) 学生に怒るより、彼らにもう二度と遅れないように注意した方がいいと私は思うようになりました。[T49]
行動	書き手の実際のおこない	(15) 〇年〇月にホストファミリーさんがタイに来ていましたから、ホームステイを受け入れ、ホストファミリーさんをタイのいろいろな観光地へ連れて行きました。[T40]
複合	上記の「自己PRの対象」を2種類以上含む文	(16) また、待ち合わせの時間を守らなければなりませんから、一度も遅刻しないで、教えに行きました。(考え方+行動) [T14]
なし	読み手にとってPRしているものがないと判断した文	(17) 毎日、いろいろな大変な仕事があったので、忙しくて、とても疲れました。[T7]

データを「自己PRの対象」に分類する単位は、句点から句点までの文単位とする。分類は、就職の採用担当者の立場に筆者が立ち、筆者の判断でおこなう。分類後、各対象の出現回数を集計して、出現割合をT、J別に示す。

「自己PRの対象」に分類した結果の信頼性は、金(2005)と同様に第二認定者との一致度で確かめる。第二認定者の作業は筆者の作業と同じで、採用担当者の立場で「自己PRの対象」を判断する(添付資料6:「自己PRの対象」への分類用紙—第二認定者用)。本研究の第二認定者は、日本人社会人1人である。データ分類時の社会人経験は、日本国内の企業に約6年勤めた後、バンコクの日系企業に約5年勤めたという経験であった。研究協力に対する誓約は第二認定者から文書で得た(添付資料7:研究協力誓約書書式)。

第二認定者との一致度を示す方法は、データの10%(Tデータ6編およびJデータ4編)を第二認定者と筆者が共に分類し、分類結果の一致度を示すことによる。一致度は、Cohen(1960: 39-41)の「カッパ係数( $\kappa$ )」で確かめる。カッパ係数は、単純一致率( $P_0$ )から偶然一致率( $P_c$ )を引いた値である。0から1の値をとり、1に近いほ

ど一致度が高い。カッパ係数と一致度との対応は、Landis and Koch (1977: 164-165) が次の「基準 (benchmarks)」を示している。例えば、カッパ係数が0.81から1.00の場合は「一致度 (Strength of Agreement)」が「ほぼ完璧 (Almost Perfect)」、0.61から0.80は「実質的 (Substantial)」、0.41から0.60は「適度 (Moderate)」という対応である。カッパ係数の算出は、Bakeman and Gottman (1986) を参考にする。算出の結果、本研究のカッパ係数は0.62となり、筆者の分類は第二認定者の分類と実質的に一致していたといえる。図2に、カッパ係数の算出状況を Bakeman and Gottman (1986) と同様に示す。図2の表中の斜めに並んでいる太数字は単純一致率 ( $P_o$ ) の算出に、縦および横の太数字は偶然一致率 ( $P_c$ ) の算出に用いられている。

		評価者A：筆者						
		性格	主観的 能力	客観的 能力	考え	行動	なし	
評価者B：第二認定者	性格	<b>1</b>	1		5	2		<b>9</b>
	主観的 能力	1	<b>13</b>	2	4	2	3	<b>25</b>
	客観的 能力			<b>11</b>				<b>11</b>
	考え				<b>13</b>		2	<b>15</b>
	行動		1		1	<b>21</b>	1	<b>24</b>
	なし		1		1	4	<b>13</b>	<b>19</b>
	(他)						2	<b>2</b>
		<b>2</b>	<b>16</b>	<b>13</b>	<b>24</b>	<b>29</b>	<b>21</b>	<b>0</b>
		評価者A合計：105						

$$\kappa = \frac{P_o - P_c}{1 - P_c}$$

$$P_o = \frac{1 + 13 + 11 + 13 + 21 + 13}{105} = 0.686$$

$$P_c = \frac{2 \times 9 + 16 \times 25 + 13 \times 11 + 24 \times 15 + 29 \times 24 + 21 \times 19}{105 \times 105} = 0.183$$

$$\kappa = \frac{0.686 - 0.183}{1 - 0.183} = 0.615$$

図2 「自己PRの対象」分類作業の第二認定者との一致度算出 (カッパ係数)

ここで、香山 (2014) の内容、その研究方法で不十分なところ、そしてその改善方法を述べる。香山 (2014) は、T21人およびJ19人が書いた日本語就職用自己PR文を比較して、上記の「自己PRの対象」について、主に次の4つの傾向を述べている。1. Tが高い割合でPRしていた対象は「行動／主観的能力／考え方」であった。2. Jが高い割合でPRしていた対象は「考え方／行動」であった。3. TがJより高い割合でPRした対象は「主観的能力」で、TはJの3.8倍PRしていた。4. JがTより高い割合でPRした対象は「考え方」で、JはTの2.1倍PRしていた。

香山 (2014) の研究方法で不十分なところは、「自己PRの対象」への分類方法で、次の3つである。1つ目は分類作業（コーディング）の信頼性である。香山 (2014) のコーディングは、著者一人だけの判断で行っており、コーディングの信頼性を確かめていない。本研究は、上で述べたとおり、第二認定者のコーディングと筆者のコーディングとの一致度を求め、筆者のコーディングが信頼できるかものかを確かめた。

2つ目は分類の単位である。香山 (2014) の分類の単位は、文章を「自己PRの対象」の定義に合わせて分割された部分であった。本研究では、句点から句点までの文単位に改める。香山 (2014) の分割された部分は、著者の判断で文章を分割してできたものであり、文もあれば、節もあれば、語句もある。例えば香山 (2014) は、下の文を2つの「自己PRの対象」に分類している。

(18) 私は几帳面で、整理整頓が得意な方だと思います。[タイ人16]

(香山2014: 106)

「自己PRの対象」の1つは「性格」で、「私は几帳面で」という部分に対してである。もう1つは「主観的能力」で、「整理整頓が得意な方だと思います」に対してである。しかし、本研究では第二認定者とコーディングの一致度を確かめるため、分割位置は一定でなければならない。このため本研究の分類の単位は便宜的に文とする。

不十分な点の3つ目は「自己PRの対象」の種類である。上で述べたとおり、本研究は「複合」および「なし」を設ける。そして、香山 (2014) にある「⑥困難な状況」(p.105) をなくす。「複合」を設けたのは、分類の単位を文に変えたため、1文に複数の「自己PRの対象」を含むことがあると考えたからである。1文中に2つ以上の「自己PRの対象」を含むと判断した文は「複合」に分類する。

「なし」を設けたのは、よりはっきりと就職採用担当者の立場で「自己PRの対象」を判断するためである。自己PR文は、書き手（学生・求職者）にとっては文章

全体がPRであろう。しかし、読み手（社会人・採用者）から見ると、PRされているものがないと感じる文もある。このような文は「なし」に分類する。例えば、香山（2014）は下の文を「⑥困難な状況」に分類しているが、本研究では「なし」に分類する。

(19) それにいくら疲れても、仕事がまだ終わらないと休むことができませんでした。  
（香山2014: 106）

例(19)は、書き手としては、困難な状況の中で「休まなかった」という行動や考え方をPRしたいのであろう。しかし、データをあらためて調べると、この文は直前に下の文がある。

(20) リーダーとしてはどんな大変な問題にあっても解決しないとはいけませんでした。

例(20)は、本研究では「考え方」に分類する。筆者は採用担当者という立場で例(19)(20)を見て、例(19)については、例(20)と同じようなことが述べられ、何も新しいことがPRされていないと判断する。したがって、例(20)は「考え方」に分類するが、例(19)は「なし」に分類する。

「⑥困難な状況」をなくすのは、困難な状況だけを書いた文はPRにならないと考えたからである。例えばデータ中の次の文である。

(21) 途中、色々な問題があって、例えば、私が知らずにホテルがキャンセルされたことや競技者が空気にアレルギーことなどでした。

例(21)に書かれている困難な状況は、採用者の立場から見て、何もPRされていないと判断できる。したがって「なし」に分類する。このように、困難な状況だけが書かれ、何もPRされていないと判断した文は「なし」に分類するため、「⑥困難な状況」をなくす。ここまで、香山（2014）の分類方法との違いを述べた。

### 3.2.3 多用された語

データで多用された語を選び、次の2つを調べる。1. 多用された語の使用者割合、2. 「多用された語」と「自己PRの対象」との関係、である。「自己PRの対象」との関係調べる目的は、自己PR文の内容が抽象化された「自己PRの対象」と、具体的に現れた語とを結び付けることである。なお、本研究では、「約2割以上の人（約5人に1人以上）に用いられた」という意味で「多用された」という言葉を用いる。調べる対象の語は、名詞（固有名詞を除く）、動詞、イ・ナ形容詞とする。

まず、データからTまたはJの約2割以上の人に用いられた語を取り出す。約2割の人数は、Tは11人、Jは8人である。2割という設定は、山本（2011）が各調査対象に特徴的な語を析出する際に、Jaccard係数を0.2以上に設定していたことを参考にした。Jaccard係数は、2つの集合間の類似度を表す値である。0から1の値をとり、1に近いほど類似度が高い<sup>(8)</sup>。多用された語を取り出す作業は下の4手順で、主にコンピューターでおこなう<sup>(9)</sup>。用いるソフトは、「MeCab（形態素解析ソフト）」「KH Coder（計量テキスト分析ソフト）」「Excel（表計算ソフト）」「Preview（PDF表示ソフト）」である<sup>(10)(11)(12)(13)</sup>。

手順1では、データで出現する語、その品詞、およびその出現回数を調べる。これはMeCabとKH Coderでおこなう。MeCab（形態素解析ソフト）は、文を形態素に分けるソフトである。例えば「太郎はこの本を二郎を見た女性に渡した。」という文を次のように分ける。「太郎はこの本を二郎を見た女性に渡した。」<sup>(14)</sup>。そして、それぞれの形態素に対して、品詞や活用などの情報を与える。このMeCabによって得られた形態素の情報は、KH Coder（計量テキスト分析ソフト）によって集計される。例えば、各形態素を品詞別にまとめたり、各形態素の出現回数を数えたりする。この集計は、図3に示したKH Coder画面で「OK」ボタンを押すと始まる。



図3 データを形態素に分けて集計する状況 — KH Coder

KH Coderによって集計された結果は、Excel（表計算ソフト）であつかえる形式に変換され、Excelで表示される。図4に、KH Coderによって得られたExcel画面の一部を示す。図4で示した品詞は、本研究で調べる品詞に合わせ、名詞、動詞、イ・ナ形容詞に相当するものだけであり、筆者によりこの順に並べ替えてある。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X
1	名詞	サ変名詞	副詞可能	名詞B	名詞C	動詞	動詞B	形容詞	形容詞B	ナ形容	形容動詞	副詞												
2	日本語	88	経験	70	時間	30	おかげ	8	人	59	思う	53	する	426	良い	24	ない	16	問題	17	色々	24	更に	7
3	自分	53	仕事	63	前	14	きつが	3	他	11	持つ	37	ある	104	新しい	14	うまい	5	遅い	2	種々	18	全く	7
4	大学	41	翻訳	50	一生懸命	10	いくら	2	力	11	教える	29	なる	103	強い	13	いい	2			大切	11	初めて	6
5	自信	23	勉強	45	今	9	おぼさ	1	家	8	分かる	28	できる	89	難しい	7	つらい	2			必要	10	暑々	4
6	学校	22	活動	26	一番	8	ごはん	1	月	7	知る	17	やる	15	楽しい	6	すごい	1			健康	8	色々	4
7	高校	22	アルバイト	23	たかさ	6	ただ	1	身	7	言う	16	いる	13	我慢強い	5	つまら	1			好き	8	人一倍	4
8	責任	22	参加	23	全部	5	たま	1	PR	6	行く	16	おこな	12	多い	5	ふさわ	1			上手	7	実際	3
9	学生	21	留学	21	多く	5			次	5	守る	16	もらう	8	高い	4					大事	7	全然	3
10	日本人	19	授業	17	毎日	5			店	5	働く	15	いう	7	興味深い	3					大変	7	特に	3
11	能力	18	通訳	15	その後	4			本	5	話す	15	なれる	3	深い	3					得意	7	必ず	3
12	文化	18	我慢	14	将来	4			間	4	入る	13	ふざけ	2	遅い	3					非常	5	少し	2
13	英語	17	担当	14	すべて	3			絵	3	任す	12	あげる	1	忙しい	3					困難	4	前もつ	2
14	子供	16	練習	12	今年	3			塾	3	強める	11	いく	1	明る	3					積極	4	仲良く	2
15	漫画	16	一緒	11	場合	3			母	3	訳す	11	いたる	1	嬉しい	2					簡単	3	同時に	2
16	友達	16	デザイン	10	朝	3			報	3	頑張る	10	うなず	1	細かい	2					重要	3	もう一	1
17	ボラン	15	試験	10	当時	3			夢	3	手伝う	10	しゃべ	1	小さい	2					不安	3	ニコニ	1
18	時代	15	準備	10	当日	3			通	3	渡る	10	すぎる	1	少ない	2					幸せ	2	意外と	1
19	お客様	14	評価	10	毎回	3			PA	2	任せる	10	つめる	1	早い	2					高等	2	改めて	1
20	会社	14	上達	9	毎年	3			公	2	考える	9	とぼす	1	仲良い	2					精一杯	2	極めて	1
21	規則	11	生活	9	夜	3			声	2	使う	9	まとめ	1	優しい	2					不自由	2	元々	1
22	言葉	11	計画	8	それぞれ	2			体	2	書く	9	みなす	1	激しい	1					普通	2	時々	1
23	お客	10	努力	8	ほか	2			頭	2	接する	9	やって	1	誇らし	1					迷惑	2	次々	1
24	興味	10	解決	7	一部	2			半	2	読む	9		柔らか	1						有名	2	常に	1
25	キャン	9	選別	7	去年	2			レ	1	読れる	9		詳しい	1						冷静	2	随分	1

### KH Coder によって集計された結果 — Excel

手順2では、手順1で得た集計結果を筆者が手作業で確かめ、必要に応じて品詞などを調整する。例えば「色々」は、コンピューターでは用法に応じて形容動詞（本研究では、ナ形容詞）または副詞に分類されるが（図4の実線下線部分、2か所）、筆者もデータ上の文脈を確かめた上で、本研究ではすべてナ形容詞に分類するなどの調整である。

手順3では、多用された可能性がある語を取り出す。具体的には、Tデータで11回以上、またはJデータで8回以上現れた語を選ぶ。これは Excel でおこなう（図4の実線四角部分、Tデータ）。

手順4では、多用された可能性がある語の中から、Tデータで11人以上、またはJデータで8人以上に用いられた語を選ぶ。出現回数ではなく使用人数である。具体的には、多用された可能性がある語（手順3）をデータ上ですべて見て、11人以上、または8人以上に用いられた語を選ぶ。この作業は Preview を用いておこなう。Preview は「Adobe Reader」<sup>(15)</sup>と同様の PDF 表示ソフトである（PDF は Portable Document Format の略である）。例として、Tデータ内で文字列「責任」（図4の点線四角部分、Tデータで22回出現）を Preview で検索している画面を示す（図5、個人が特定できる内容は塗りつぶした）。Preview で文字列「責任」を検索すると（図5の点線四角部分）、その文字列がページ何枚で現れるかが得られる（図5の実

線四角部分、ページ14枚で出現)。そのため、ページ1枚に載せる文章を1人分にしておけば、文字列を検索して得られたページ枚数は、その文字列を用いた人数を意味する。例えば図5は、文字列「責任」が、Tデータで14人に用いられたことを表している。この機能を利用して一定人数以上の人に用いられた語を選ぶ。またこの作業は、語の前後の文脈、活用、派生語なども確認しながらおこなう。例えば、動詞「任す」「任せる」(図4の点線下線部分)が、データでは「任されました」「任せていただきました」と活用して用いられていれば、同様の内容を表していると判断し、同一の語として選び出す。本研究の「多用された語」は、以上の4手順で取り出された名詞、動詞、イ・ナ形容詞である。

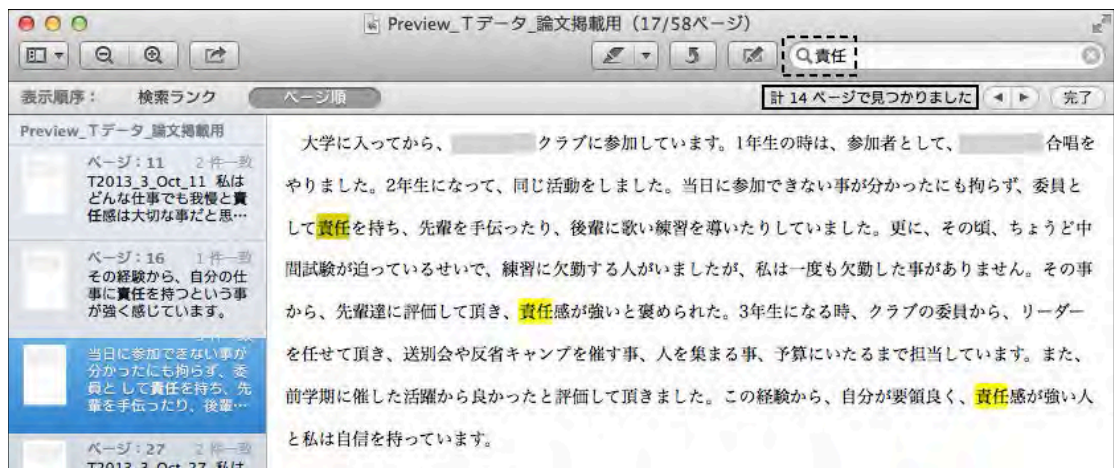


図5 文字列「責任」を検索した状況 — Preview

手順4で多用された語を選んだ後、その使用者数を集計し、使用者割合をT、J別に示す。そして、T、Jデータ間で多用された語の違いを見る。最後に、「多用された語」と、3.2.2項で示した「自己PRの対象」とをクロス集計して関係を見る。このクロス集計の方法は4.3.2項で述べる。

### 3.2.4 可能表現の使われ方

データで現れた可能表現を「可能の形式」と「可能の意味」に分類し、次の3つを調べる。1. 各形式および意味の出現回数、2. 「可能表現」と「自己PRの対象」との関係、3. 形式「動詞連体形+ことができる」の実例、である。

「可能の形式」は、データから渋谷(1993)が示した次の4形式を取り出す。1. 動詞可能形、2. 動詞連体形+ことができる、3. サ変名詞+できる、4. 名詞+ができ



る、である。分析の対象にする可能表現は、可能表現の動作主が文章の書き手と同一のものである。否定形も対象にする。対象にしないものは、可能表現を用いること自体が誤用であるもの、および可能表現の動作主が書き手ではないものである。

データから可能表現を取り出す作業は下の2手順で、主にコンピューターでおこなう。用いるソフトは、「Simple KWIC Lister (コーパス検索ソフト)」<sup>(16)</sup>である。

手順1では、可能表現の可能性がある文字列およびその前後を、Simple KWIC Lister で取り出す。Simple KWIC Lister は、文章から検索対象の文字列、およびその前後200字までの部分を取り出し、一覧表示するソフトである。例として、Tデータからサ行五段活用動詞可能形（「話せる」など）の可能性がある文字列を検索している画面を示す（図6）。Simple KWIC Lister で文字列「せま|せて|せた|せな|せる|せる|せ、」を含む部分を取り出している（図6の点線四角部分）。Tデータではこれらの文字列を含む部分が37例あった（図6の点線丸部分、右下）。

手順2では、同文字列を含む部分から可能表現を含む文だけを手作業で選ぶ。例えば図6では、可能表現が4例あった（図6の実線四角部分）。このような作業によりデータから渋谷（1993）が示した「可能の形式」4形式を取り出す。

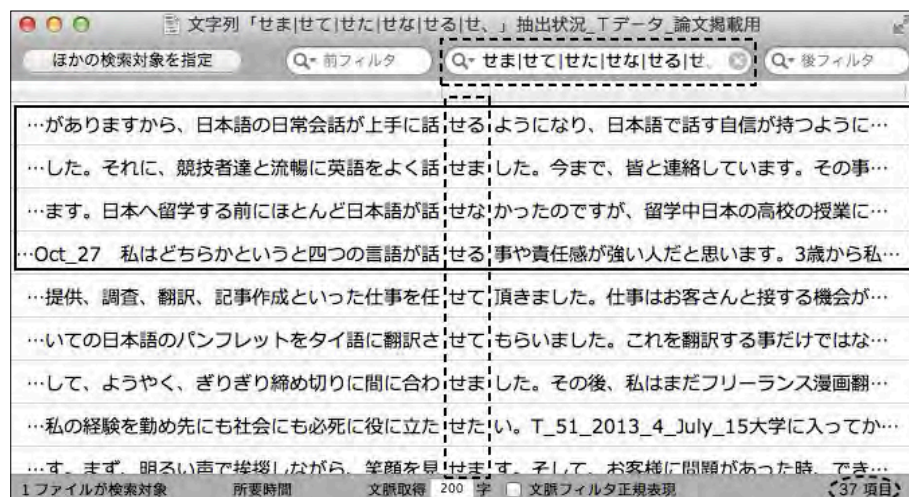


図6 データから検索文字列と文脈を取り出した状況 — Simple KWIC Lister

次に「可能の意味」は、渋谷（1993）が示した次の2つに分類する。1. 実現したこと（実現系）、2. 潜在的に可能なこと（潜在系）、である。どちらにも分類できると考えられる例は、一回的な動作の実現を表していると判断したものを「実現系」に、状態的な意味のものを「潜在系」に分類する。この分類作業は、2.4節の表4（p.14）で示した例文に照らしながらおこなう。



次に、これらの可能表現の出現回数を集計し、T、Jデータ間で多用された可能表現の形式および意味の違いを見る。違いを見るときは、TデータとJデータの字数が異なるため、両データを2万字に換算して違いを見る（各データの字数は、Tデータが23,124字、Jデータが15,736字である）。最後に、「可能表現」と、3.2.2項で示した「自己PRの対象」とをクロス集計して関係を見る。このクロス集計の方法は4.4.2項で述べる。

## 4 結果

この章では、次の4項目を調べた結果を示す。1. 自己PRの話題、2. 自己PRの対象、3. 多用された語、4. 可能表現の使われ方、である。

### 4.1 自己PRの話題 — アルバイト・クラブ活動・勉強・ボランティア

データを「自己PRの話題」に分類し、次の3つを調べた。1. 各話題を選んだ人の割合、2. 1編あたりの話題数、3. 具体例を示す文の割合、である。

#### 4.1.1 自己PRの話題の出現割合および1編あたりの話題数

自己PRの話題の出現割合は、データを文単位で次の7つの話題に分類して調べた。1. 勉強・ゼミ、2. クラブ活動・大学祭など、3. 留学、4. アルバイト・インターンなど、5. ボランティアなど、6. 日常生活、7. 目標・その他、である。下に、話題に分類した実例をT、J別に一部分ずつ示す。文ではなく部分を示すのは、文脈が分かるようにである。各部分の後ろに示した[ ]内の番号は、書き手を表す番号である。個人が特定できる内容は「○」に置き換えた。

#### 文を「話題」に分類 — Tデータの事例

- (22) **T, 勉強・ゼミ**：大学○年生になってから、私は文学部の「○○プログラム」に入っていました。○○プログラムとは、成績が3.75を越えた学生のための特別なプログラムです。学生の研究能力を増すのはこのプログラムの目的なので、プログラムに入った学生は毎学期、自分が興味を持っている事について研究して、レポートを書かなければなりません。そこで、私は日本の文化や文学について研究しました。[T34]
- (23) **T, クラブ活動・大学祭など**：学生時代、私はずっと○○をやっていました。元学校の○○選手でした。練習が厳しくて、週に3日しました。学校が始まる前に朝6時から練習した事があります。学校が終わると、すぐ○○コートに行って、9時まで練習した事もあります。そのおかげで、全国の中学校の○○の試合で銀メダルを取りました。[T35]
- (24) **T, 留学**：○○の時、日本で1年間留学していました。その時は全く知らない人の家に住んで、全く日本語や日本の文化が分からなかったのも、色々

順応しました。もちろん、その時は、問題や困難がありましたが、頑張っ  
て1人でそのことを乗り越えられました。その経験から、私は人生や日常  
生活の中で起こる問題や困難に立ち向かう力があります。[T9]

- (25) **T, アルバイト・インターンなど**：(〇〇の時)、わたしは〇〇屋で通訳の  
アルバイトをしていた経験があります。毎日通訳が店にいるように、自分  
達で〇〇屋の通訳チームを立てました。うまく「ほうれんそう」ができる  
ように、毎日本当の起こった問題や問題解決など、をシェアしていまし  
た。[T1]
- (26) **T, ボランティアなど**：一番印象に残っているボランティア活動は2011の  
洪水あった時のボランティアです。あの時、私は〇〇病院のボランティ  
アスタッフになって、洪水の被害者を助けるためでした。洪水の現場に行く  
前に応急手当の勉強や配るものの準備しました。現場に応急手当しなかつ  
たが、薬を配ったり、被害者と話したりしました。あるおばさんが私に  
言葉で感謝しました。[T26]
- (27) **T, 日常生活**：私は几帳面で、整理整頓が得意な方だと思います。小学1年  
から小遣い帳と課題専用ノートを書き始め、途切れることなく現在も続け  
ています。(中略) 大学では多数の課題が次々と出されるのですが、まず  
は優先順位を決め、すぐに提出期限から逆算し、不測の事態にも対応でき  
るように余裕を持った日程で、いつどのような作業をするか計画を立てて  
実行しています。[T41]
- (28) **T, 目標・その他**：外国の人と企業や貿易を行う時、グローバル人材が必  
要で、私は自分の考えを持った上で、異なった考え、意見をしっかりと聞  
き双方の違いを認識し、同じ目的の為にその違いを縮める議論のできる  
人でタイと日本、または日本と国々の架け橋になりたいです。これまでの  
経験を活かして御社でグローバル人材としてキャリアを形成したいと思  
います。[T58]

#### 文を「話題」に分類 — Jデータの実例

- (29) **J, 勉強・ゼミ**：学生の本分は学業です。私は、自分で選択した分野の知  
識をより多く吸収したいと思い大学に入学しました。専門科目以外の科目  
は初めは興味もなく授業を受けていたのですが、それは自分の意識が低い

からであり、積極的に興味を起こすよう、例えば物理の実験の手法を企業分析の際に応用してみるといった工夫により、興味のなかった科目も自分なりの新たな興味を持つことが出来ることを知りました。[J41]

- (30) **J, クラブ活動・大学祭など**：所属する合唱団において「他大学合唱団と、互いの演奏会に一定数の団員を派遣する約束を結ぶ」事、他3つの方策を立案しました。方策の実行にあたって心がけた事は2点あります。1つは「他団担当者に対する迅速な連絡」です。従来交流が皆無の合唱団と早期に信頼関係を構築する為、誠実な対応に努めました。2つ目は「団員の目的意識の維持」です。[J4]
- (31) **J, 留学**：私の一番の強みはどんな環境にもすぐに順応できる「環境適応能力」です。小学校二年生から四年生までの二年間、父の仕事の都合でサウジアラビアに住んでいました。現地のインターナショナルスクールに編入したのですが、もちろん英語など全くできず、初めは先生や友人が言っていることなど何一つわかりませんでした。[J23]
- (32) **J, アルバイト・インターンなど**：私は3年間、某レストランでホールを担当しています。昨春、人件費削減のため、ホール・パン販売・キッチン約20人から3人減りました。仕事量の増加から、サービスの質・メンバーの士気が低下。「お客様にもっと喜んで頂きたい」という想いから、状況を改善すべく、以下3点に取り組みました。①多能化→担当外の販売の仕事を、空き時間・休憩中・閉店後を使い、自ら学びました。[J8]
- (33) **J, 日常生活**：私の強みのもう1つは、知らない人からのたくさんの優しさに恵まれて、今まで人生を送れたことです。具体的には、初対面の、それも年齢の全く異なる方と偶然親しくなり、現在も続くそういった方との親密な関係を築けたということです。[J20]
- (34) **J, 目標・その他**：私は人から「参謀タイプ」とよく言われます。サークルやゼミにて代表を務めていますが、トップダウンというよりもボトムアップで人を動かす事に長けていると思います。昔から組織を運営する際に、人を立てる事やエースを表に出す事で最も効率的に物事が進むような環境を整える事を得意としてきました。[J34]

上の例のようにデータを7つの話題に分類し、各話題を選んだ人の割合を調べた。

分類の単位は文単位である。図7に、各話題を選んだ人の割合をT、J別に示す。提示順はTのデータ中で割合が大きい話題順である。( )内の値は、各話題を選んだ人の人数である。その下の図8には、1編あたりの「話題数」の割合をT、J別に示す。

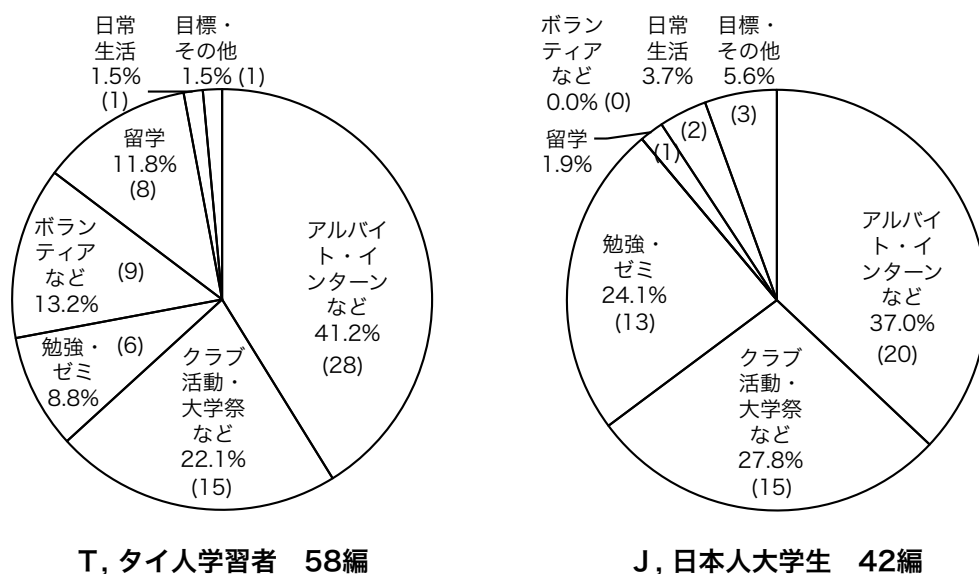


図7 就職用自己PR文の「話題」とそれを選んだ人の割合

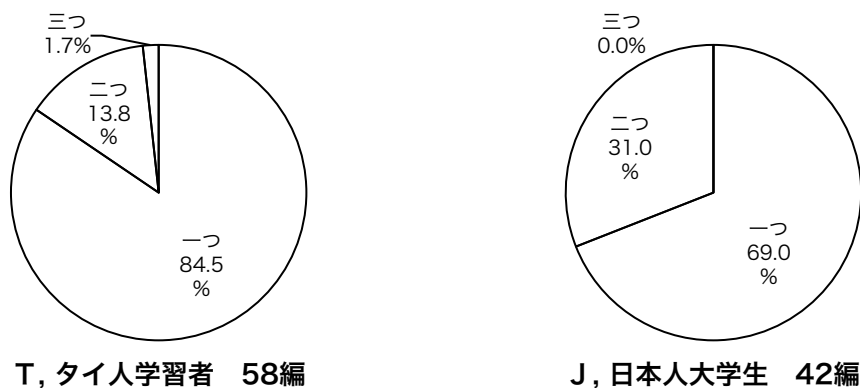


図8 1編あたりの「話題数」の割合

図7から、自己PR文で現れた話題の傾向は、T、Jデータ間で似ていることが分かる。共に、アルバイト・インターンなどが約4割、クラブ活動・大学祭などが2、3割、勉強・ゼミ・留学も2、3割であった。このようにT、Jが選んだ「自己PRの話題」は似ている。また、Tデータだけで現れた話題はボランティアであった。なお、項目名に「勉強・ゼミ」を設けたが、Tデータではゼミの話題が現れなかった。日本でゼミと呼んでいる授業形式は、Tが所属する大学では行われていない。

次に図8から、T、J データ共に、自己PR文で現れた話題数は1つが大半であったこと、そして、1つだけの話題を書いた人の割合はTの方が多かったことが分かる。

#### 4.1.2 具体例を示す文の割合

自己PR文1人分（1編）で現れた具体例を示す文の割合を集計した。下に、T、J が書いた実例の一部分を示す。そして、筆者による次の判断を各文末の（ ）内にゴシック体で適宜示す。「話題、話題開始、具体例・非具体例」の判断である。☆印を付けた例(35)の3文目については、例を示した後で説明する。

- (35) **T, タイ人学習者**：その経験から、私はタイ文化説明の経験があり、タイの文化も更に分かるようになりました（**ここまでの話題終了、非具体例**）。卒業したら、通訳になろうと思っております（**話題：インターンシップ、話題開始、非具体例**）。そのためには2013年にスワンナプーム国際空港でインターンシップを2ヶ月しました（**非具体例☆**）。事務所の仕事もインフォメーションの仕事も勉強しました（**具体例**）。英語も日本語も話すチャンスがあります（**具体例**）。とてもいい経験になりました（**非具体例**）。[T40]
- (36) **J, 日本人大学生**：税理士の資格試験の勉強に最も力を入れました（**話題：勉強、話題開始、非具体例**）。将来就職する上で、他人よりできる技能を身につけたいと考えていました（**非具体例**）。税理士を選んだのは、アルバイトをしていたお好み焼き屋が確定申告になると頭を悩ませていたのを見て、税金に関する勉強をしようと思ったのがきっかけでした（**具体例**）。大学2年の9月から、簿記論と財務諸表論の勉強を始めました（**具体例**）。各科目とも週2回1コマ3時間の授業があり、大学3年の7月まで、週4回の割合で専門学校に通いました（**具体例**）。8月6日の税理士試験では簿記論を取得しました（**具体例**）。税理士試験を通して得られたことは、最後まであきらめずに頑張れば、結果は必ずついてくるということです（**非具体例**）。[J29]

例(35)(36)は、いずれも次のような文章展開である。まず、これから何について書くのかを示す文によってある話題を始めている。次に、その話題の具体例などを何

文か書いている。そして話題の終了は、具体例ではない文によって、そこまでの話題をまとめることによってしている。本研究での具体例を示す文は、3.2.1項で述べたように、ある話題の中で具体的な物事を筆者が思い浮かべられる文とした。例えば、☆印を付けた例(35)の3文目は、「インターンシップをした」という話題を書いているが、その中で起きた具体的な物事は示されていない。このような文は具体例に分類しなかった。なぜなら、就職での採用担当者は、インターンシップなどで応募者が具体的に行動したり考えたりした物事を知りたいであろうと考えたからである。このように数えて、具体例を示す文の割合を調べた。図9に、10文あたりの具体例を示す文の数を示す。図9から、具体例を示す文の割合は、T、Jデータ共に3、4割で、同程度であることが分かる。

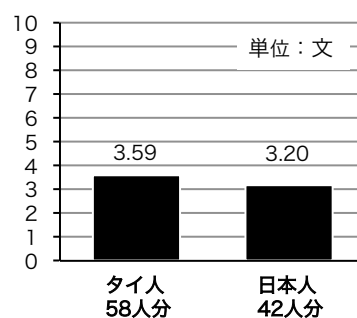


図9 10文あたりの「具体例」を示す文の数

以上4.1節では、T、Jデータの自己PRの話題を明らかにした。分かったことを下に箇条書きでまとめる。

〈傾向1〉 「自己PRの話題」の出現傾向は、T、Jデータ間で似ていた。共に、アルバイト・インターンなどのことを書いた人が約4割、クラブ活動・大学祭などが2、3割、勉強・ゼミ・留学が2、3割であった。「自己PRの話題」数は、T、Jデータ共に1つが大半であった。

〈傾向2〉 具体例を示す文の割合は、T、Jデータ間で同程度であり、共に3、4割であった。

#### 4.2 自己PRの対象 — 性格・主観的能力・客観的能力・考え方・行動

自己PRの対象の出現割合は、データを文単位で次の7つの対象に分類して調べた。1. 性格、2. 主観的能力、3. 客観的能力、4. 考え方、5. 行動、6. 複合、7. な

し、である。この「自己PRの対象」の種類は、3.2.2項の表6 (p.23) で定めた。下に、各「自己PRの対象」に分類した実例文をT、J別に1例ずつ示す。提示順は上の数字順である。

#### 文を「自己PRの対象」に分類 — Tデータの実例

- (37) **T, 性格**：最初は学生に待たされる度、いつもすぐ怒りましたが、だんだん落ち着けるようになりました。[T49]
- (38) **T, 主観的能力**：この経験から、私は色々な人に接する機会が増え、自分のコミュニケーションスキルが上達してきて、人々に接することには自信を持っています。[T53]
- (39) **T, 客観的能力**：それ以来、私の信頼性はとてまたかまり、高校の同窓会の〇〇係の一部にまかされました。[T30]
- (40) **T, 考え方**：例えば、問題ができてしまって、間ち合わせの時間に遅れないように、プランを変えることにしました。[T4]
- (41) **T, 行動**：書く能力は主に自主レポートを作成することから得るもので、話す能力は毎日ずっと日本語でコミュニケーションをとっていることから得たものです。[T21]
- (42) **T, 複合（行動+客観的能力）**：遅刻や欠席も一切もないし、学校のテニス選手としてもしているので、小学生から高校生までも毎年ずっと証明書ももらいました。[T35]
- (43) **T, なし**：その時は全く知らない人の家に住んで、全く日本語や日本の文化が分からなかったので、色々順応しました。[T9]

#### 文を「自己PRの対象」に分類 — Jデータの実例

- (44) **J, 性格**：それは自分が主役である事よりも組織を構成する人間全員が組織に属している事を楽しめるような環境を作る事が自分の嗜好に合っているからです。[J34]
- (45) **J, 主観的能力**：また、この経験によりきちんと問題点を把握し、対策を考える能力が身につきました。[J41]
- (46) **J, 客観的能力**：その結果、文具メーカーから協賛を得ることができ、文化祭を成功させることができました。[J19]



- (47) **J, 考え方**：このように私は自分を成長させるだけでなく、周りとの相乗効果で組織としての戦闘能力を高めるという事を考えられる人間です。[J38]
- (48) **J, 行動**：特に3年生の時には、月曜日から金曜日の日中は大学の授業に出席し、週2回、授業とは別にゼミで活動し、夜間は週4日で専門学校に通っていました。[J22]
- (49) **J, 複合（行動+客観的能力）**：さらに今年は映画制作もおこない、日本最大のサンタマニアショートフィルム祭に作品を送り、本選通過を達成しました。[J42]
- (50) **J, なし**：大学二年生の秋にお店がリニューアルし、売り上げ前年比120パーセントという目標が店長に課されました。[J7]

例(37)(44) は、採用者の立場から見て、書き手の感情の傾向をPRしていると判断して「性格」に分類した。例(38)(45) は、書き手が自分で認める能力をPRしていると判断して「主観的能力」に分類した。例(39)(46) は、他者から認められた能力をPRしていると判断して「客観的能力」に分類した。例(40)(47) は、書き手が考えたことをPRしていると判断して「考え方」に分類した。例(41)(48) は、書き手の実際のおこないをPRしていると判断して「行動」に分類した。例(42)は、まず書き手が実際におこなった「行動」を、次に他者から認められた「客観的能力」をPRしていると判断して「複合」に分類した。例(43)(50) は、採用者から見てPRしているものがないと判断して「なし」に分類した。以上の分類の信頼性は、3.2.2項で述べたように、第二認定者との一致度で確かめた。筆者の分類は、第二認定者の分類と実質的に一致していた。このように各文を「自己PRの対象」に分類して、各「自己PRの対象」の出現割合を調べた。図10に、各「自己PRの対象」の出現割合をT、J別に示す。提示順は上の例の提示順と同じである。( )内の値は、各対象に分類された文の数である。

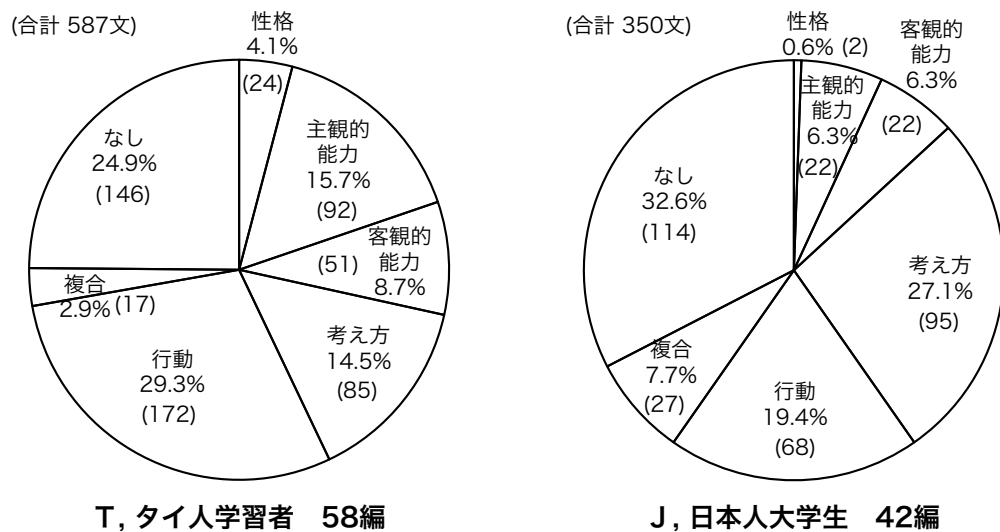


図10 就職用自己PR文で現れた「自己PRの対象」の出現割合

図10から、次の2つのことが分かる。1つ目は、出現割合が高い「自己PRの対象」が、T、Jデータ間で異なることである。Tデータで現れた「自己PRの対象」は、出現割合が高い順に並べると、行動 29.3% > 主観的能力 15.7% > 考え方 14.5% > 客観的能力 8.7% > 性格 4.1%、であった（以降、「複合」および「なし」は除いて示す）。

一方、Jデータでは、考え方 27.1% > 行動 19.4% > 主観的能力 6.3%・客観的能力 6.3% > 性格 0.6%、であった。例えば「考え方」は、Jデータで最も現れる対象であるが、Tデータでは3番目に現れる対象であった。このように、出現割合が高い「自己PRの対象」は、T、Jデータ間で異なっていた。下に、各「自己PRの対象」に分類した実例文を、T、J別に1例ずつ示す。提示順はT、Jそれぞれで出現割合が高い順である。

#### 文を「自己PRの対象」に分類 — Tデータの実例（出現割合が高い順）

- (51) **T, 行動**：そこで、色々なボランティア活動とリクリエーション活動をしながら、障害者と話し合っていました。[T22]
- (52) **T, 主観的能力**：その経験から、私は、日本の文化や文学についての深い知識があり、日本語の様々な種類の文書をタイ語に翻訳できることに关しては自信を持っています。[T34]
- (53) **T, 考え方**：私は時間を守ることが大切にします。[T37]
- (54) **T, 客観的能力**：○年生になる時、クラブの委員から、リーダーを任せて

いただき、送別会や反省キャンプを催すこと、人を集まること、予算にいたるまで担当しています。[T17]

- (55) **T, 性格**：私は性格が明るく、愛想が良く、いつもニコニコしているとよく友達に言われました。[T56]

### 文を「自己PRの対象」に分類 — Jデータの実例（出現割合が高い順）

- (56) **J, 考え方**：大学のゼミ活動のイベントとして、文化祭で発表すると決まった時、私は私たちの自己満足だけで終わるのではなく、客観的に見ても優れたものにしたいと考えました。[J19]
- (57) **J, 行動**：大学の授業、ゼミ、アルバイトに加え、専門学校の勉強をしていたので、どんなに忙しい時でも時間を見つけて一生懸命頑張りました。[J29]
- (58) **J, 主観的能力**：この経験で私は達成感を得て、相手の視点で物事を考え、相手の期待や要望を汲み取り、それを満たすために発揮する行動力こそが、私の誇れる力だと気づきました。[J19]
- (59) **J, 客観的能力**：結果、無駄な動きが減り、お客様から「一流ホテルのような接客」とお褒めの言葉を頂きました。[J8]
- (60) **J, 性格**：自分の負けず嫌いな性格を再認識できたと思います。[J39]

図10から分かることの2つ目は、出現割合の差がT、Jデータ間で大きい「自己PRの対象」である。これは「主観的能力」と「考え方」であった。「主観的能力」をPRしていると筆者が判断した文は、TデータでJデータの約2.5倍現れた。「考え方」をPRしていると判断した文は、JデータでTデータの約2倍現れた。「性格」は出現割合がT、Jデータ共に5%未満であるため、ここでは取り上げない。

以上4.2節では、T、Jデータで現れた「自己PRの対象」を明らかにした。分かったことを下に箇条書きでまとめる。

- 〈傾向3〉 「自己PRの対象」の出現傾向は、T、Jデータ間で異なっていた。Tデータは、行動 29.3% > 主観的能力 15.7% > 考え方 14.5%、であった。一方Jデータは、考え方 27.1% > 行動 19.4% > 主観的能力 6.3%・客観的能力 6.3%であった。
- 〈傾向4〉 出現割合の差が大きかった「自己PRの対象」は、「主観的能力」と「考え方」であった。Tデータでは「主観的能力」がJデータの約2.5倍現

れた。Jデータでは「考え方」がTデータの約2倍現れた。

以上4.1節と4.2節では、文単位でT、Jが何をPRしているのかを見た。そしてT、J間の自己PR文の違いは、「自己PRの話題」ではなく、「自己PRの対象」であることが分かった。一文一文を「自己PRの対象」に分類する作業は、筆者および第二認定者の判断でおこなった。それでは、一文中の何が、筆者らに「自己PRの対象」を判断させたのであろうか。筆者らの判断の要因をさぐるために、4.3節と4.4節では、データで具体的に現れた言語形式を調べた。4.3節では「多用された語」を調べた。4.4節では「可能表現の使われ方」を調べた。

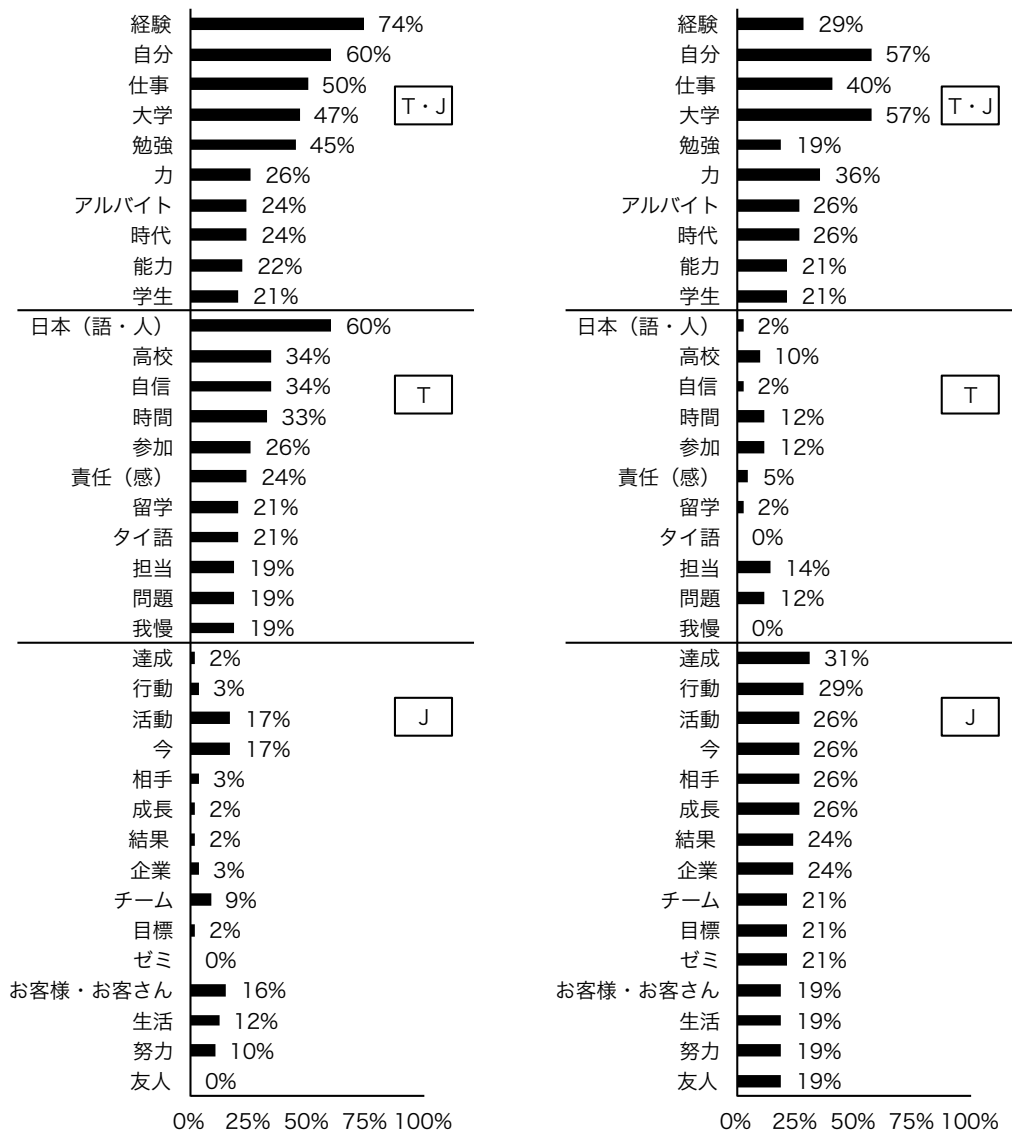
### 4.3 多用された語

データで多用された語（名詞、動詞、イ・ナ形容詞）を選び、次の2つを調べた。

1. 多用された語の使用者割合、2. 「多用された語」と「自己PRの対象」との関係、である。

#### 4.3.1 多用された名詞、動詞、イ・ナ形容詞の使用割合

データで用いられた語の中から、TまたはJの約2割以上（約5人に1人以上）に用いられた名詞、動詞、イ・ナ形容詞をT、J別に選び、これらの語の使用者割合をT、J別に調べた。図11に、多用された名詞と、その語を用いた人の割合を示す。図中の四角で囲まれたラベルの意味は、ラベル「T・J」がT、Jデータで共に多用された語、「T」がTデータだけで多用された語、「J」がJデータだけで多用された語、という意味である。提示順はTの多用順であり、ラベル「J」の語はJの多用順である。



T, タイ人学習者 (58人中)

J, 日本人大学生 (42人中)

図11 「多用された名詞」とその使用者割合

図11から、次の3つのことが分かる。1つ目は、TまたはJデータで多用された名詞の数で、全部で36語であった。このうちT、Jデータで共に多用された名詞は10語、Tデータだけは11語、Jデータだけは15語であった。Jデータで多用された名詞数は、Tデータの約1.2倍であった。

2つ目は、Tデータで特徴的に現れた名詞である。本研究では、T、Jデータで多用された語のうち、T、Jデータ間で使用者割合の差が約3倍ある語を「特徴的に現れた語」と定める。Tデータで特徴的に現れた名詞は9語で、「経験/日本 (語・人) /高校/自信/時間/責任 (感) /留学/タイ語/我慢」であった。

3つ目は、Jデータで特徴的に現れた名詞で、次の9語であった。「達成／行動／相手／成長／結果／企業／目標／ゼミ／友人」である。なお、名詞「結果」は、接続詞のような役割、すなわち「文頭において、先行する文とのつながりを示す役割」（益岡・田窪 1992: 57）をしていた次の3表現（計12例）を除いて集計した。「その結果（7例）／この結果（2例）／。結果、（3例）」である。下にT、Jデータで特徴的に現れた名詞が出現した部分を1例ずつ示す。下線は同語に筆者が引いた。

### Tデータで特徴的に現れた名詞の実例

- (61) **T, 経験**：海外で一人で生活を送るのがどんなに辛くても最後まで我慢しないといけないということを極めて経験した。（中略）これらは、私にとって最も重要なものであり、経験である。経験があるこそ、私が成長し、自分は何かも前よりよく分かってきた。だから、私の経験を勤め先にも社会にも必死に役に立たせたい。[T50]
- (62) **T, 日本**：日本語の勉強を続けて、約6年でした。日本を訪ねる、あるいは日本に留学する経験がありませんが、チュラ大学の文学部に日本語も専攻しているし、日本語の翻訳という選択授業を受ける予定もあるので、翻訳能力が与えられると、私は確信しています。[T19]
- (63) **T, 高校**：高校の時、私は〇〇年から〇〇年の一年間日本の〇〇県へ留学した経験があります。日本へ留学する前にほとんど日本語が話せなかったのですが、留学中日本の高校の授業に出ていたので、日本語をかなり勉強しました。[T39]
- (64) **T, 自信**：その経験から、私は、日本の文化や文学についての深い知識があり、日本語の様々な種類の文書をタイ語に翻訳できることに関しては自信を持っています。[T34]
- (65) **T, 時間**：三年生の時、文学部のボランティアキャンプに参加し、〇〇県へ行き、現地の小学生に英語、理学などを教えました。教師として、自分ですべての授業計画を準備し、授業の時間をやりくりしなければなりませんので、責任感が強くなった気がします。[T38]
- (66) **T, 責任感**：私はどんな仕事でも我慢と責任感は大切なことだと思います。そして、お客様の要求は一番気遣いをしなければならないことだと思います。[T22]

- (67) **T, 留学**：高校の時、日本で1年間留学していました。その時は全く知らない人の家に住んで、全く日本語や日本の文化が分からなかったので、色々順応しました。[T9]
- (68) **T, タイ語**：研究に役立つ情報を得るため、私は日本語の様々な種類の文書を読みました。例えば、論文集、新聞、雑誌、専門書、などです。そして、タイ語でレポートを書いて、提出することになっていたので、研究に役立つ文書をタイ語に翻訳しなければなりませんでした。[T34]
- (69) **T, 我慢**：そのテレビとラジオのスタッフに否まれたこともあって、理由でもなくてしかられたこともあります。私は自分の感じを隠して、できるだけ落ち着いて、自分が担当していたことを終わらせました。〇〇大会が終わって、私は我慢強い人になりました。どんなストレスをもらっても、落ち着けます。[T36]

#### J データで特徴的に現れた名詞の実例

- (70) **J, 達成**：徹底的に自己管理をし、自分の力を信じて努力した結果、見事試験に合格することができました。私は常に向上心を持ち、自分の成長を望んでいます。(中略) 自分の成長を望む気持ち、それが誰よりも強いからこそ困難な目標を達成させることができるのです。[J37]
- (71) **J, 行動**：上司には「相手のことを考えていない」と怒られ、とても悔しい思いをしましたが、この悔しさから、以下の二つを意識して行動するようになりました。
- 1 会議では素直な意見を言う
  - 2 流行や情報を絶えず取り入れる[J16]
- (72) **J, 相手**：その結果、文具メーカーから協賛を得ることができ、文化祭を成功させることができました。この経験で私は達成感を得て、相手の視点で物事を考え、相手の期待や要望を汲み取り、それを満たすために発揮する行動力こそが、私の誇れる力だと気付きました。[J19]
- (73) **J, 成長**：大学の授業、ゼミ、アルバイトに加え、専門学校での勉強をしていたので、どんなに忙しい時でも時間を見つけて一生懸命頑張りました。自分で決めたことを最後までやり遂げられて、以前より一回り位大きく成長したと実感しました。[J29]

- (74) **J, 結果**：仕事においても常に問題意識を持つことにより、自分の能力の向上ときちんと結果を出すことに意欲的に取り組みたいと思います。[J41]
- (75) **J, 企業**：私が最も力を入れたことはインターンシップです。私は「就職」というものに対して不安を拭い去り、仕事や企業を知ることによって働くということの感覚や知識を養いたいと思ったため、志願しました。[J28]
- (76) **J, 目標**：昨年の夏にシステムエンジニアの業務を10日間で一通り体験できるインターンシップに参加しました。私はこの参加において二つの目標を立てました。一つは自分のやりたい仕事を知る、もう一つは自分の力がどれ程なのか知ることです。[J10]
- (77) **J, ゼミ**：私が最も力を入れたのは、商法ゼミにおいて、会社法に関する論点（買収防衛策や独立役員など企業経営の根幹に関わる事項）について4～5人のチームに分かれディベートをしたことです。[J11]
- (78) **J, 友人**：自らが率先し、同期との厳しい環境にチャレンジした事で自分自身を成長させることができたと同時に、ライバルであり生涯の友人達と一緒に論文を執筆できたことが自分の中では大きなプラスとなりました。[J30]

また、「友人」はJデータで特徴的に現れた。Tデータでは「友達」だけが現れ、Tの約6人に1人である10人が用いていた。Jデータでは「友達」が現れなかった。

以上、TおよびJデータで多用された名詞を明らかにし、傾向を述べた。次に、多用された動詞とその使用者数の割合を、名詞と同じように示す（図12）。

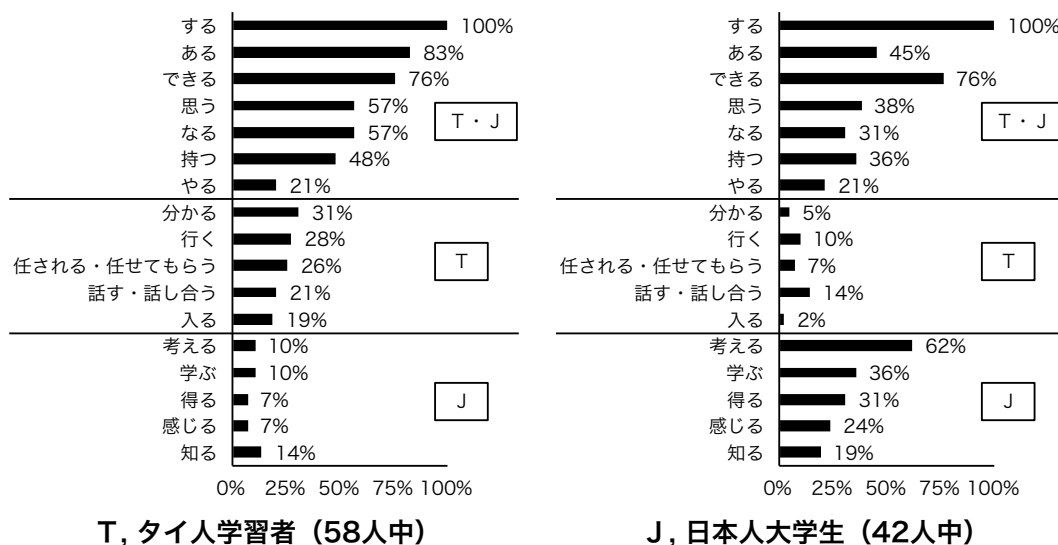


図12 「多用された動詞」とその使用者割合



図12から、次の3つのことが分かる。1つ目は、TまたはJデータで多用された動詞の数で、全部で17語であった。このうちT、Jデータで共に多用された動詞は7語、Tだけは5語、Jだけは5語であり、Tデータの多用された動詞数は、Jデータと同数であった。

2つ目は、Tデータで特徴的に現れた動詞で、次の4語であった。「分かる／行く／任される・任せてもらう／入る」である。Tは、分かったことや、任せてもらったことを特徴的に書いていた。

3つ目は、Jデータで特徴的に現れた動詞で、次の4語であった。「考える／学ぶ／得る／感じる」である。Jは、考えたことや、学んだことを特徴的に書いた。下にT、Jデータで特徴的に現れた動詞が出現した部分を1例ずつ示す。下線は同表現に筆者が引いていた。

#### Tデータで特徴的に現れた動詞の実例

- (79) **T, 分かる**：マンガを訳すには、ただ一言一句訳すだけではなく、読者が分かるように自然なタイ語に訳すのが大切だということが分かってきました。それに、以前は分からなかった日本語の言葉がどんどん分かるようになり、これまで勉強してきた日本語の能力が実際に発揮できていると思います。[T42]
- (80) **T, 行く**：初めて海外に行った私は、友達ができるかどうかとても不安でしたが、学校が始まった初日から、友達がたくさんできました。私は性格が明るく、愛想が良く、いつもニコニコしているとよく友達に言われました。[T56]
- (81) **T, 任せてもらう**：私は1ヵ月半にわたって〇〇でインターンシップをしました。そこでは資料管理、情報提供、調査、翻訳、記事作成といった仕事を任せていただきました。[T3]
- (82) **T, 入る**：小学生の時、スピーチ大会に参加することになってから、スピーチの練習を受けました。すると、話す力がだんだん上がってきました。大学に入り、1年生の時、タイ語のクラスメイトに選ばれて、クラスの代表として討論会に参加することになりました。[T15]

### J データで特徴的に現れた動詞の実例

- (83) **J, 考える**：2つ目は「団員の目的意識の維持」です。他団の演奏を聴いて一時的に感動するだけでなく、自身の技術や感性の向上に繋げてほしいと考えました。そこで「フィードバック用紙をパンフレットと併せて配布する」ことを方策に加えました。[J4]
- (84) **J, 学ぶ**：私の取り組みを機に塾の体制も講師の連携を重視するようになり、顔合わせが行われるようになりました。この経験から、人を巻き込んで積極的に行動することで、組織を変えることができるということを学びました。[J13]
- (85) **J, 得る**：税理士試験を通して得られたことは、最後まで諦めないで頑張れば、結果は必ず付いてくるということです。[J29]
- (86) **J, 感じる**：その後私はマーケティングの基礎など自分に足りない部分をひたすら学び、先輩からの指導を受け、少しずつではあるが成長していくことができた。この経験を通じ、どんな失敗をしても決して下を向かないこと、同じ失敗を2度繰り返さないことが大切だと強く感じた。[J6]

以上、TおよびJデータで多用された動詞を明らかにし、傾向を述べた。次に、多用されたイ・ナ形容詞とその使用者数の割合を、名詞・動詞と同じように示す(図13)。

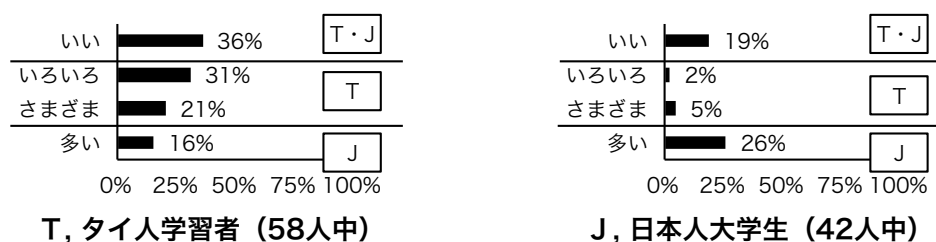


図13 「多用されたイ・ナ形容詞」とその使用者割合

図13から、次の2つのことが分かる。1つ目は、TまたはJデータで多用されたイ・ナ形容詞の数で、全部で4語であった。このうちT、Jデータで共に多用されたイ・ナ形容詞は1語、Tだけは2語、Jだけは1語であった。

2つ目は、特徴的に現れたイ・ナ形容詞で、Tデータでは次の2語であった。「いろいろ／さまざま」である。Jデータでは0語であった。下にTデータで特徴的に現れ

たイ・ナ形容詞が出現した部分を1例ずつ示す。下線は同表現に筆者が引いた。

### Tデータで特徴的に現れたイ・ナ形容詞の実例

(87) **T, いろいろ**：私は健康のための食事のコースに登録して、色々な健康の新しいテクノロジーに深く興味を持つようになりました。人々に健康についての知識を伝えて、人々の健康をサポートする仕事をするのは私の夢です。[T22]

(88) **T, さまざま**：それに、キャンプの会員はいろいろな学部なので、おおぜいいるため、みんなで会議に来るようにさまざまな知らせをしなければなりませんでした。人々に接するのはなかなか難しかったです、その反面、人とのコミュニケーションスキルが非常に身に付いた感じがします。[T23]

以上4.3.1項では、データで多用された名詞、動詞、イ・ナ形容詞と、その使用者の割合を明らかにした。分かったことを下に箇条書きでまとめる。

〈傾向5〉 多用された語は、約半数がT、Jデータ間で共通していなかった。多用された語の数は、Tデータでは36語であった（名詞21語、動詞12語、イ・ナ形容詞3語）。このうちTデータだけで多用された語は18語であった。一方、Jデータで多用された語は39語であった（名詞25語、動詞12語、イ・ナ形容詞2語）。このうちJデータだけで多用された語は21語であった。

〈傾向6〉 Tデータで特徴的に現れた語は15語で、「経験／日本（語・人）／高校／自信／時間／責任（感）／留学／タイ語／我慢／分かる／行く／任される・任せてもらう／入る／いろいろ／さまざま」であった。一方、Jデータは13語で、「結果／達成／行動／相手／成長／企業／目標／ゼミ／友人／考える／学ぶ／得る／感じる」であった。

それでは、なぜ、T、Jデータで特定の語が多用されたのであろうか。この点は、Tデータと、参考資料として収集したタイ語の自己PR文とを比較しながら5章で考察する。

#### 4.3.2 「多用された語」と「自己PRの対象」との関係

ここでは、4.3.1項で示した「多用された語」が、4.2節で示した「自己PRの対象」と関連しているかを表で調べた。表7、表8は「多用された語」を縦に、「自己PRの対象」を横に並べたクロス集計表である。まず表7に、Tデータの「多用された語」と「自己PRの対象」との関係を示す。その下の表8に、Jデータのものを示す。

表中の値は、「多用された語」が現れた文の数を表している。例えば表7で、「多用された語」である「経験」と、「自己PRの対象」の「主観的能力」が交差する位置には「24」とある。これは「経験」という語を含む文のうち（合計67文）、筆者が「主観的能力」をPRしていると判断した文が24文あったという意味である。

また、それぞれの語で最も大きい値を太線四角で囲んだ（「自己PRの対象」が「複合」または「なし」の値は除いた）。この太線四角は、それぞれの語がどの「自己PRの対象」で最も多く現れたのかを示している。例えば表7の名詞「経験」の行では、最も大きい値が「24」なので、これを太線四角で囲んだ。「24」の列の「自己PRの対象」は「主観的能力」である。つまりTデータの名詞「経験」は、筆者が「主観的能力」をPRしていると判断した文で最も多く用いられていたということである。

「多用された語」の列の四角で囲まれたラベルの意味は、図11、12、13と同じである。ラベル「T・J」がT、Jデータで共に多用された語、「T」がTデータだけで多用された語、「J」がJデータだけで多用された語、という意味である。

表7 「多用された語」と「自己PRの対象」との関係 — T, タイ人学習者

品詞	多用された語	自己PRの対象							合計
		性格	主観的 能力	客観的 能力	考え方	行動	複合	なし	
名詞	経験	1	24	0	10	14	5	13	67
	自分	2	14	1	13	7	5	6	48
	仕事	2	6	3	15	16	3	11	56
	大学	1	3	6	2	23	0	7	42
	勉強	1	8	2	5	13	4	11	44
	力	1	11	1	3	2	1	1	20
	アルバイト	1	2	0	2	15	1	2	23
	時代	1	0	1	0	12	0	0	14
	能力	0	6	5	0	1	4	1	17
	学生	3	1	4	1	15	3	7	34
	日本 (語・人)	4	18	9	3	49	11	17	111
名詞	高校	1	0	2	1	19	3	3	29
	自信	0	18	0	0	0	5	0	23
	時間	0	6	0	8	7	6	2	29
	参加	0	0	2	1	9	2	9	23
	責任 (感)	0	10	2	3	2	4	1	22
	留学	0	2	2	0	13	4	0	21
	タイ語	1	5	1	1	11	1	1	21
	担当	0	0	3	2	5	1	3	14
	問題	0	5	1	3	3	0	4	16
	我慢	0	6	0	5	2	2	3	18
	動詞	ある	3	21	3	9	43	4	21
できる		3	27	9	14	8	7	12	80
思う		4	11	2	19	1	5	14	56
なる		9	27	10	16	14	9	20	105
持つ		2	18	0	6	1	7	4	38
やる		1	1	0	6	8	1	3	20
分かる		1	7	2	8	4	1	4	27
行く		1	0	0	1	7	2	6	17
任される・任せてもらう		0	1	8	2	4	1	0	16
話す・話し合う		1	10	2	0	11	2	4	30
入る		2	0	4	2	5	1	2	16
形容詞	いい	1	0	4	6	1	3	6	21
	いろいろ	1	5	2	4	5	1	10	28
	さまざま	1	1	0	1	8	2	5	18

表8 「多用された語」と「自己PRの対象」との関係 — J, 日本人大学生

品詞	多用された語	自己PRの対象							合計
		性格	主観的 能力	客観的 能力	考え方	行動	複合	なし	
名詞	経験	0	6	0	4	3	0	6	19
	自分	2	2	1	23	5	6	13	52
	仕事	0	2	1	8	7	2	5	25
	大学	0	0	3	6	16	0	12	37
	勉強	0	0	0	2	9	2	1	14
	力	0	5	0	6	4	1	0	16
	アルバイト	0	0	0	5	7	0	3	15
	時代	0	1	0	2	4	0	5	12
	能力	0	3	0	3	1	1	4	12
	学生	0	1	0	4	4	0	5	14
達成	達成	0	3	1	3	0	6	6	19
	行動	0	3	0	5	1	2	3	14
	活動	0	0	1	2	10	1	2	16
	今	0	2	0	5	2	2	5	16
	相手	0	2	0	5	1	1	3	12
	成長	0	2	0	8	1	1	5	17
	結果	0	0	3	2	0	3	2	10
	企業	0	0	0	5	5	1	3	14
	チーム	0	0	0	7	3	1	5	16
	目標	0	2	1	6	1	1	7	18
	ゼミ	0	0	3	1	3	1	4	12
	お客様・お客さん	0	2	2	5	2	2	1	14
	生活	0	0	0	3	1	0	5	9
	努力	0	3	2	4	1	1	2	13
友人	0	0	0	2	2	1	5	10	
動詞	ある	1	4	0	8	6	1	13	33
	できる	1	10	9	16	7	5	17	65
	思う	1	2	0	12	3	0	8	26
	なる	0	2	5	5	6	4	10	32
	持つ	0	2	0	13	3	2	4	24
	やる	0	1	0	3	1	1	9	15
考える	考える	0	2	0	14	1	5	6	28
	学ぶ	0	1	0	9	1	0	4	15
	得る	0	2	2	4	1	1	8	18
	感じる	0	0	0	8	6	0	6	20
	知る	0	0	0	7	0	1	1	9
形容詞	いい	0	0	0	0	4	1	3	8
	多い	0	0	0	5	2	0	6	13

表7 (Tデータ) から、太線四角で囲んだ部分の「自己PRの対象」、つまり、各「多用された語」を含む文の最多「自己PRの対象」が、Tデータでは次の順に多いことが分かる。行動 (19語) > 主観的能力 (12語) > 考え方 (4語) > 客観的能力 (1語)、である。この順は、4.2節の図10 (p.40) で示した「自己PRの対象」の出現割合の順と一致している。図10のTデータでは、行動 (29.3%) > 主観的能力 (15.7%) > 考え方 (14.5%) > 客観的能力 (8.7%) であった。

次に、表8 (Jデータ) から、各「多用された語」を含む文の最多「自己PRの対象」が、Jデータでは多い順に、考え方 (28語) > 行動 (11語) > 主観的能力 (3語) > 客観的能力 (2語) であることが分かる。この順は、Tデータと同様に、図10の「自己PRの対象」の出現割合の順とほぼ一致する。図10のJデータでは、考え方 (27.1%) > 行動 (19.4%) > 主観的能力 (6.3%) ・ 客観的能力 (6.3%) であった。

このように、各「多用された語」を含む文の最多「自己PRの対象」の出現傾向は、データ全体の傾向 (図10) とほぼ一致していた。したがって、自己PR文で具体的に「多用された語」は、「自己PRの対象」を判断させた主要な要因になっていた可能性がある。この点は5章で考察する。以上4.3.2項では、データで「多用された語」と「自己PRの対象」との関係性を明らかにし、下の傾向を示した。

〈傾向7〉 各「多用された語」を含む文の最多「自己PRの対象」の出現傾向は、データ全体の「自己PRの対象」の出現傾向とほぼ一致していた。

#### 4.4 可能表現の使われ方

データで現れた可能表現を「可能の形式」と「可能の意味」に分類し、次の2つを調べた。1. 各形式および意味の出現回数、2. 「可能表現」と「自己PRの対象」との関係、である。さらに、この2項目においてT、Jデータ間で傾向に違いがあった形式および意味は、その文末を調べた。

##### 4.4.1 出現した可能表現の形式および意味

可能表現の各形式および意味の出現回数は、まず「可能の形式」を次の4形式に分類した。1. 動詞可能形、2. 動詞連体形+ことができる、3. サ変名詞+できる、4. 名詞+ができる、である。次に「可能の意味」を次の2つに分類した。1. 実現したこと (実現系)、2. 潜在的に可能なこと (潜在系)、である。下に、可能表現を「可能の形式」と「可能の意味」に分類した実例をT、J別に1例ずつ示す。実例の前に

付けたゴシック体の説明書きは次の意味である。例えば例(89)の「T, 動詞可能形・実現系」は、「タイ人学習者データ、『可能の形式』が動詞可能形・『可能の意味』が実現系」という意味である。提示順は「可能の形式」順で、1. 動詞可能形、2. 動詞連体形+ことができる、3. サ変名詞+できる、4. 名詞+ができる、である。それぞれ「可能の意味」が、実現系、潜在系、の例を並べて示す。下線は可能表現の部分に筆者が引いた。

### 可能表現を意味・形式に分類 — Tデータの事例

- (89) T, 動詞可能形・実現系：すべての授業からAが取れました。[T6]
- (90) T, 動詞可能形・潜在系：そこでは日本人と話すチャンスがありますから、日本語の日常会話が上手に話せるようになり、日本語で話す自身が持つようになりました。[T40]
- (91) T, 動詞連体形+ことができる・実現系：その他、クラスメート同士に一年間にわたってリーダーを任せていただくことができました。[T45]
- (92) T, 動詞連体形+ことができる・潜在系：今、日常会話なら困らず日本語で話すことができます。[T39]
- (93) T, サ変名詞+できる・実現系：そして、短映画を作り方を教えてくれて、カメラやマイクブームを使い方も勉強できました。[T24]
- (94) T, サ変名詞+できる・潜在系：そのことから、私はれいせいに緊急事能や英語や人当たりがいいなどに対応できる自信を持っています。[T24]
- (95) T, 名詞+ができる・実現系：ですから、頑張って日本語を勉強して、日本語が上手になればなるほど友達ができました。[T29]
- (96) T, 名詞+ができる・潜在系：留学したことで、私は日本語ができるようになり努力することを学び、責任感と社交性がさらについたと思います。[T56]

### 可能表現を意味・形式に分類 — Jデータの事例

- (97) J, 動詞可能形・実現系：税理士試験を通して得られたことは、最後まであきらめないで頑張れば、結果は必ずついてくるということです。[J29]
- (98) J, 動詞可能形・潜在系：このように私は自分を成長させるだけでなく、周りとの相乗効果で組織としての戦闘能力を高めるということを考えられる人間です。[J38]



- (99) **J, 動詞連体形+ことができる・実現系**：そしてこの経験を通じて、物事を理論的に考え、解決することを学ぶことができました。[J9]
- (100) **J, 動詞連体形+ことができる・潜在系**：○○○と呼ばれる御社において、より輝くことのできる私の独特の個性でないかと考えます。[J20]
- (101) **J, サ変名詞+できる・実現系**：結果、従来の約1.5倍の集客に成功しただけでなく、団員の練習意欲向上・他団との交流促進も実現できました。[J4]
- (102) **J, サ変名詞+できる・潜在系**：私の一番の強みはどんな環境にもすぐに順応できる「環境適応能力」です。[J23]
- (103) **J, 名詞+ができる・実現系**：やはり、自分の素直な意見をぶつけあうことで、最終的に納得できる作品ができました。[J27]
- (104) **J, 名詞+ができる・潜在系**：これらを意識したことで、普段からお客様と楽しんで会話ができるようになりました。[J16]

例(89)の「Aが取れました」は、一回的に実現したことを表しているので、可能の意味は「実現系」と判断した。例(90)の「日本語の日常会話が上手に話せるようになり」は、状态的に可能なことを表しているので、「潜在系」と判断した。このように可能表現を分類し、それぞれの出現回数を調べた。表9に、可能表現の出現回数を、意味別、形式別に示す<sup>(17)(18)</sup>。T、Jデータ間で字数が異なるため、両データを2万字に換算した出現回数を( )内に示す。表9の下に、同表の小計および合計の値を図で示し(図14, 図15)、T、Jデータを比較する。

表9 意味・形式別可能表現の出現回数

可能表現		タイ人学習者 58人分 文字数：23,124字	日本人大学生 42人分 文字数：15,736字
意味	形式	データ中の 実例数	データ中の 実例数
実現系	動詞可能形	14 (12.1)	15 (19.1)
	動詞連体形+ことができる	21 (18.2)	39 (49.6)
	サ変名詞+できる	7 (6.1)	19 (24.1)
	名詞+ができる	20 (17.3)	4 (5.1)
	小計	62 (53.6)	77 (97.9)
潜在系	動詞可能形	15 (13.0)	9 (11.4)
	動詞連体形+ことができる	11 (9.5)	1 (1.3)
	サ変名詞+できる	12 (10.4)	4 (5.1)
	名詞+ができる	7 (6.1)	3 (3.8)
	小計	45 (38.9)	17 (21.6)
合計		107 (92.5)	94 (119.5)

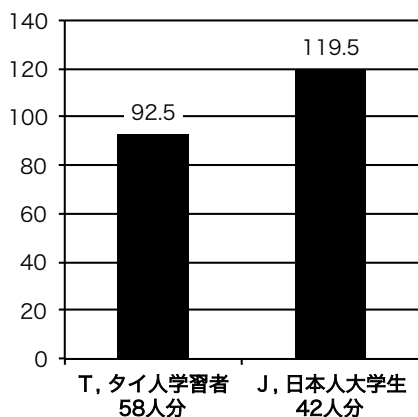


図14 「可能表現」の出現回数 (2万字換算)

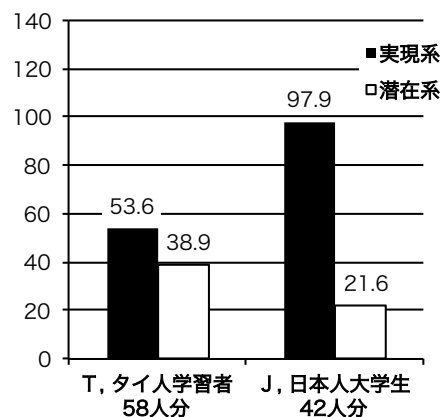
図15 「意味別 (実現系・潜在系)」  
可能表現の出現回数 (2万字換算)

図14、図15から、可能表現が表している意味が、実現系なのか潜在系なのかの傾向は、T、Jデータ間で異なり、Jデータでは実現系が多いことが分かる。図14から、可能表現の出現回数は、Jデータの方が多く、Tデータの約1.3倍現れたことが分かる。しかし、図15で可能の意味別に出現回数を見ると、実現系（実現したこと）はJデータの方が多く、Tデータの約2倍現れた。一方、潜在系（潜在的に可能なこと）はTデータの方が多く、Jデータの約2倍現れた。Tデータだけを見ると、実現系は潜在系の約1.4倍であった。一方Jデータだけを見ると、実現系は潜在系の約4.5倍であった。このような傾向の違いを詳しく見るために、図15を、可能の形式

4種類に分けて示す。図16に、Tデータの形式別可能の意味（実現系・潜在系）の出現回数を示す。その下の図17に、Jデータのものを示す。

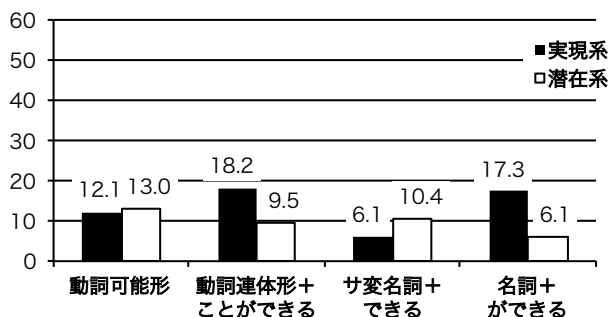


図16 「意味・形式別」可能表現の出現回数（2万字換算）— T, タイ人学習者

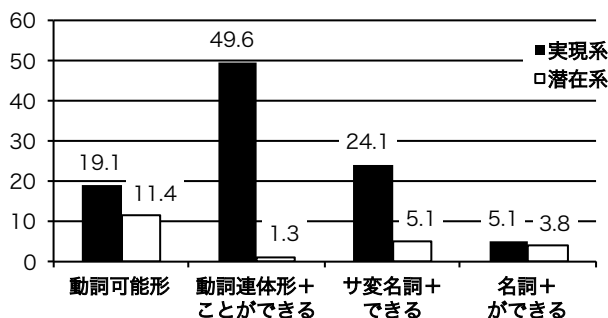


図17 「意味・形式別」可能表現の出現回数（2万字換算）— J, 日本人大学生

図16と図17を比較すると、形式「動詞連体形+ことができる」の潜在系が、Jデータではほとんどないが、Tデータでは実現系に対して約半分あることが分かる。

図17（Jデータ）では、形式「動詞連体形+ことができる」および「サ変名詞+できる」の実現系の出現回数が、潜在系の約5倍、またはそれ以上である。特に「動詞連体形+ことができる」は、実現系可能がほとんどであり、潜在系は2万字換算で1.3回であった（表9から、実例は1例である）。

一方、図16（Tデータ）では、形式「動詞連体形+ことができる」の潜在系の出現回数は、2万字換算で9.5回であった（表9から、実例は11例である）。実現系は18.2回であった（同、21例である）。Jデータは潜在系が実例1例であったことと比べると、Tデータは潜在系が多い。この違いについては、4.4.3項で詳しく見る。

以上4.4.1項では、T、Jデータで現れた可能表現の各形式および意味の出現回数を明らかにした。分かったことを下に箇条書きでまとめる。

〈傾向8〉 可能表現の出現回数は、Jデータの方が多く、Tデータの約1.3倍現れ

た。しかし意味別で見ると、潜在的に可能という意味（潜在系）はTデータの方が多く、Jデータの約2倍現れた。一方、実現したという意味（実現系）はJデータの方が多く、Tデータの約2倍現れた。また実現系は、Tデータでは潜在系の約1.4倍現れたのに対し、Jデータでは約4.5倍現れた。

〈傾向9〉 形式「動詞連体形+ことができる」の潜在系はTデータで多かった。Jデータではほとんど現れないが（2万字換算で1.3回）、Tデータでは実現系に対して約半分現れた（同9.5回）。

#### 4.4.2 「可能表現」と「自己PRの対象」との関係

ここでは、4.4.1項で示した「可能表現」が、4.2節で示した「自己PRの対象」と関連しているのかを表で調べた。表10、表11は、「可能表現」の意味および形式を縦に、「自己PRの対象」を横に並べたクロス集計表である。表10に、Tデータの「可能表現」と「自己PRの対象」との関係を示す。その下の表11に、Jデータのもの示す。表10、表11の示し方は、表7、表8（「多用された語」と「自己PRの対象」との関係）と同様である。

表中の値は、「可能表現」が現れた回数を表している。例えば表10で、潜在系の「動詞連体形+ことができる」と、「自己PRの対象」の「主観的能力」が交差する位置には「10」とある。これは「主観的能力」をPRしていると筆者が判断した文で、潜在系の形式「動詞連体形+ことができる」が10回現れたという意味である。

また、TまたはJデータで約2割以上の人が用いた可能性がある形式は、その形式の最も大きい値を太線四角で囲んだ（「自己PRの対象」が「複合」または「なし」の値は除いた）。この太線四角は、それぞれの形式がどの「自己PRの対象」で最も多く現れたのかを示している。例えば表10の潜在系「動詞連体形+ことができる」の行では、最も大きい値が「10」なので、これを太線四角で囲んだ。「10」の列の「自己PRの対象」は「主観的能力」である。つまりTデータで、潜在的に可能なこと表している形式「動詞連体形+ことができる」は、筆者が「主観的能力」をPRしていると判断した文で最も多く用いられていたということになる。約2割以上の人が用いた可能性がある形式は、合計出現回数がTデータでは11回以上、Jデータでは8回以上とした。

表10 「可能表現」の出現回数と「自己PRの対象」との関係 — T, タイ人学習者

可能表現		自己PRの対象							合計
意味	形式	性格	主観的 能力	客観的 能力	考え方	行動	複合	なし	
実現系	動詞可能形	0	6	2	1	2	1	2	14
	動詞連体形+ことができる	1	4	5	3	5	0	3	21
	サ変名詞+できる	0	3	0	1	2	0	4	10
	名詞+できる	1	2	4	6	0	0	5	18
潜在系	動詞可能形	1	7	0	1	2	1	3	15
	動詞連体形+ことができる	0	10	1	0	0	0	0	11
	サ変名詞+できる	0	8	0	1	0	2	1	12
	名詞+できる	1	2	0	2	1	1	0	7

表11 「可能表現」の出現回数と「自己PRの対象」との関係 — J, 日本人大学生

可能表現		自己PRの対象							合計
意味	形式	性格	主観的 能力	客観的 能力	考え方	行動	複合	なし	
実現系	動詞可能形	0	1	2	4	1	1	6	15
	動詞連体形+ことができる	0	4	10	9	4	2	10	39
	サ変名詞+できる	1	3	1	8	3	0	4	20
	名詞+できる	0	0	0	2	0	0	1	3
潜在系	動詞可能形	0	1	0	3	2	1	2	9
	動詞連体形+ことができる	0	0	0	0	0	0	1	1
	サ変名詞+できる	0	2	0	2	0	0	1	5
	名詞+できる	0	1	0	1	0	0	1	3

下に、表10、11で太線四角で囲んだ分類の実例文を、T、J別に1例ずつ示す。実例の前に付けたゴシック体の説明書きは次の意味である。例えば例(105)の「T, 実現系・動詞可能形」は、「タイ人学習者データ、『可能の意味』が実現系・『可能の形式』が動詞可能形」という意味である。実例の後に付けた( )内の説明書きは、4.2節の「自己PRの対象」の分類を表す。提示順は表10、11の上からである。

#### 可能表現を意味・形式・自己PRの対象に分類 — Tデータの実例

(105) T, 実現系・動詞可能形：それから、通訳の時、私はタイ人と日本人の文化の違いが両方分かり、橋になれました。(主観的能力)[T1]

(106) T, 実現系・動詞連体形+ことができる：そのキャンプの担当先生にそのことを評価して頂き、もう卒業しても、後輩達を世話したりキャンプにつ

いて教えたりする仕事を任せて頂くことができました。(客観的能力)

[T18]

- (107) T, 実現系・動詞連体形+ことができる：ふざけ半分でしたが、とても痛かったですが、叱りとばさないで自分の平静を保つことができました。

(行動) [T38]

- (108) T, 実現系・名詞+できる：うまく「報連相」ができるように、毎日本当の起こった問題や問題解決など、をシェアしていました。(考え方) [T1]

- (109) T, 潜在系・動詞可能形：私はどちらかというと四つの言語が話せることや責任感が強い人だと思います。(主観的能力) [T27]

- (110) T, 潜在系・動詞連体形+ことができる：例えば、「おはようございます」「お疲れ様です」など会社での挨拶をちゃんと大きい声で言い、敬語を正しく使うことができるようになりました。(主観的能力) [T2]

- (111) T, 潜在系・サ変名詞+できる：私はいくら疲れても、我慢でき、精一杯で仕事をする人で、人一倍の我慢がある自信を持っています。(主観的能力) [T9]

#### 可能表現を意味・形式・自己PRの対象に分類 — Jデータの実例

- (112) J, 実現系・動詞可能形：それは、自分の知らない所へ行き、知らない人達と話すことで深みと幅を持ち、人間力が磨けると思ったからです。(考え方) [J12]

- (113) J, 実現系・動詞連体形+ことができる：徹底的に自己管理をし、自分の力を信じて努力した結果、見事試験に合格することができました。(客観的能力) [J37]

- (114) J, 実現系・動詞連体形+ことができる：知識やスキルといったものは、「知らない」と感じた時に自分自身で学ぶことによりいくらでも吸収し身に付けることができると考えています。(考え方) [J40]

- (115) J, 実現系・サ変名詞+できる：なぜなら、私は大学生活を通じて、目標とは諦めずに努力し続ければ達成でき、またそこから学ぶこともとても大きいと実感してきたからです。(考え方) [J2]

- (116) J, 潜在系・動詞可能形：このように私は自分を成長させるだけでなく、周りとの相乗効果で組織としての戦闘能力を高めるということを考えられ

る人間です。(考え方)[J38]

まず、全体的な傾向を見る。表10と表11から、可能表現を含む文の「自己PRの対象」は、T、Jデータ間で傾向が異なることが分かる。可能表現を含む文の「自己PRの対象」は、Tデータでは主に「主観的能力」であり、Jデータでは主に「考え方」である。本研究の題材は就職用自己PR文である。それにもかかわらず、Jが可能表現を用いて「主観的能力」をPRすることは、稀であることが分かる。

また、上で取り上げた「主観的能力」と「考え方」は、4.2節の〈傾向4〉で取り上げた「自己PRの対象」と一致する。〈傾向4〉では、出現割合の差が大きかった「自己PRの対象」について、Tデータでは「主観的能力」がJデータの約2.5倍現れ、Jデータでは「考え方」がTデータの約2倍現れたと述べた。これと一致した傾向を示している可能表現の使われ方は、「自己PRの対象」を判断させた要因になっていた可能性がある。しかし、「可能表現」の出現回数(表10、11)は、「多用された語」を含む文数(表7、8)の約10%であり、大きな要因ではないと考える。したがって、「自己PRの対象」を判断させた要因について、本研究は「多用された語」のみに注目し、5章で考察する。

次に、形式「動詞連体形+ことができる」だけを見る。この形式は〈傾向9〉で述べたように、T、Jデータ間で傾向が異なり、Tデータで潜在系の意味が多い。この形式を含む文の「自己PRの対象」も、T、Jデータ間で傾向が異なる。Tデータでは、主に潜在系「主観的能力」であり、10例あった(例(110)など)。Jデータでは、主に実現系「客観的能力」10例(例(113)など)、および実現系「考え方」9例(例(114)など)であった。Jデータでは、Tデータで多く現れた潜在系「主観的能力」が現れなかった。下に、例(110)(113)(114)を再掲する。

- (110) T, 潜在系・動詞連体形+ことができる：例えば、「おはようございます」「お疲れ様です」など会社での挨拶をちゃんと大きい声で言い、敬語を正しく使うことができるようになりました。(主観的能力)[T2]
- (113) J, 実現系・動詞連体形+ことができる：徹底的に自己管理をし、自分の力を信じて努力した結果、見事試験に合格することができました。(客観的能力)[J37]
- (114) J, 実現系・動詞連体形+ことができる：知識やスキルといったものは、

「知らない」と感じた時に自分自身で学ぶことによりいくらでも吸収し身に付けることができると考えています。**(考え方)**[J40]

以上、4.4.2項では「可能表現」と「自己PRの対象」との関係を明らかにした。分かったことを下に箇条書きでまとめる。

〈傾向10〉 可能表現を含む文の「自己PRの対象」は、Tデータでは主に「主観的能力」であった。一方、Jデータでは主に「考え方」であった。

〈傾向11〉 形式「動詞連体形+ことができる」が多く現れた「自己PRの対象」は、Tデータでは、可能の意味が潜在系の「主観的能力」であり、10例あった。一方、Jデータでは、実現系「客観的能力」10例、および実現系「考え方」9例であった。

次項では、〈傾向11〉の形式「動詞連体形+ことができる」の文末に注目して、実例を示しながらT、Jデータ間の違いを見る。

#### 4.4.3 形式「動詞連体形+ことができる」の文末

ここでは、形式「動詞連体形+ことができる」を用いた実例を示し、その文末に注目する。まず、Tデータから、可能の意味が潜在系で、「自己PRの対象」が「主観的能力」である実例10例（10文）を示す。その下に、Jデータから、可能の意味が実現系で、「自己PRの対象」が「考え方」である実例9例（8文）を示す。提示順は、[ ]内の書き手番号順である。下線は「動詞連体形+ことができる」の部分に筆者が引いた。

##### Tが書いた潜在系可能表現による「主観的能力」PR例

(117) 例えば、「おはようございます」「お疲れ様です」など会社でのあいさつをちゃんと大きい声で言い、敬語を正しく使うことができるようになりました。[T2]（例(110)を再掲）

(118) その経験から、私は時間厳守など、日本会社の規則に慣れてきてきちんと守り自分を律することができます。[T2]

(129) ホストさんが何をしてほしいかも聞かなくても、自分は何ができるか分かって、何を手伝うことができるか、自分で考えられました。[T7]

(120) その経験から、私は、英語のスキルを上達し、時間を守ることや時間を分



けることなどのないいい仕事のやり方を知り、いろいろな知らない人との生活を暮らし、自分を上達することに関しては私が能率的に仕事を働くことができる自信を持っています。[T14]

(121) よって、グローバルに活躍することもできるといえます。[T21]

(122) 私は今不自由で英語を話したり、海外の新聞を読んだり、レポートやエッセイを作成したりすることができます。[T27]

(123) それで、私は公のレポートや手紙を書くことができます。[T36]

(124) 今、日常会話なら困らず日本語で話すことができます。[T39]

(125) また、人々の考えを勉強しながら自分の見方も広がるようになってきたし、時間や人をマネジメントすることができるようになったと思います。  
[T45]

(126) 私は大学の活動を通して、人に対応することができるようになりました。  
[T48]

#### Jが書いた実現系可能表現による「考え方」PR例

(127) それは、先に自分の苦手な点を伝えることで、そこを重点的に練習できるし、相手からより効果的なアドバイスをもらうことができるからだ。[J3]

(128) その後私はマーケティングの基礎など自分に足りない部分をひたすら学び、先輩からの指導を受け、少しずつではあるが成長していくことができた。[J6]

(139) また、ディベートの際は、ただ事実を並べるのではなく、どんなに弱いポイントでも視点を換え理論的に話すことで、有効に活用することはできないかを常に考えていました。[J11]

(130) この経験から、人を巻き込んで積極的に行動することで、組織を変えることができるということを学びました。[J13]

(131) そして、個人でもチームでも、あきらめないで取り組み続けることによって、今までは見えなかった新しいステップが見えてくるものだということを学ぶことができました。[J21]

(132) しかし、自分たちにしかできない納得ができる作品を作ろうという思いを全員が持ち、いろんな価値観を持った者が集まったのだから、それぞれの個性を活かそうと、それぞれが相手を理解し、尊重し、意見をぶつけあう

ことで、それぞれが相手を理解し、尊重し、意見をぶつけあうことで、自分が知らない世界を知ることができ、お互いの世界観を拡げることができました。 [J28]

(133) 知識やスキルといったものは、「知らない」と感じた時に自分自身で学ぶことによりいくらでも吸収し身につけることが出来ると考えています。

[J42] (例(114) を再掲)

(134) 専門科目以外の科目は初めは興味もなく授業を受けていたのですが、それは自分の意識が低いからであり、積極的に興味を起すよう、例えば物理の実験の手法を企業分析の際に応用してみるといった工夫により、興味のない科目も自分なりの新たな興味を持つことが出来ることを知りました。 [J41]

上に示した実例から、文末の表現がT、Jデータ間で異なっていることが分かる。そして、文末が表す意味も異なっている。下に、実例で現れたT、Jデータの文末表現と意味をまとめる。

Tの文末は大きく分けると2つで、「…ことができます」が6例 (例(118)(120)(121)(122)(123)(124))、「…ことができるようになりました」が3例であった (例(117)(125)(126))。これらの表現は、一回的な動作の実現ではなく、ある動作が状態的に可能であるという意味である (潜在系)。

Jの文末も大きく分けると2つで、「…ことができることを学びました／を知りました／と考えています」が4例 (例(129)(130)(133)(134))、「…ことができました」が3例 (例(128)(131)(132)) であった。これらの表現は、一回的な動作が実現したという意味である (実現系)。また、Tデータで現れた文末表現は、Jデータではほとんど現れなかった。

このように、可能表現「動詞連体形+ことができる」の文末は、T、Jデータ間で異なっていた。そして、文末が表す意味も異なり、Tデータは潜在系に可能なことを、Jデータは一回的な動作の実現を表していた。

ここで、形式「動詞連体形+ことができる」の使われ方について、この節で述べたことをまとめておく。4.4.1項では、この形式を潜在可能の意味で用いたTデータが実例で11例あったと述べた (Jデータでは1例)。4.4.2項では、この11例のうち、「自己PRの対象」が「主観的能力」であると筆者が判断したものが10例あった

と述べた（Jデータでは0例）。4.4.3項では、この10例のうち9例が「…ことができます」または「…ことができるようになりました」という文末であり、潜在的に可能なことを表していたと述べた。一方、Jデータではこれらの文末はほとんど現れなかった。形式「動詞連体形+ことができる」のJデータの文末は、「…ことができることを学びました／を知りました／と考えています」および「…ことができました」であり、一回的な動作の実現を表していた。

以上4.4.3項では、形式「動詞連体形+ことができる」に注目した。そして、実例を示しながらT、Jデータ間の違いを明らかにした。分かったことを下にまとめる。

〈傾向12〉 形式「動詞連体形+ことができる」の文末について、Tデータは、「自己PRの対象」が「主観的能力」であった14例のうち9例で、表現「…ことができます」または「…ことができるようになりました」が現れ、潜在的に可能なことを表していた。一方、Jデータは、「自己PRの対象」が「考え方」であった9例のうち7例で、表現「…ことができることを学びました／を知りました／と考えています」または「…ことができました」が現れ、一回的な動作の実現を表していた。

## 5 まとめと考察

この章では、まず、4章で得られた結果をまとめながら、1章で示した本研究の問いに答える。次に、結果に対する考察を述べる。次に、1章で示した学習者の質問に対し、結果と考察をもとに意見を述べる。次に、本研究の日本語教育への応用について述べる。最後に、今後の課題を述べる。

### 5.1 問いへの答え

本研究の目的は、タイ人大学生日本語学習者（T）および日本人大学生（J）が書いた日本語就職用自己PR文を比較して、何をどのような形式でPRしているのかを明らかにすることであった。データは、実際の応募に用いられた、または成績の対象であった就職用自己PR文で、T 58人およびJ 42人が書いた合計100編の文章を電子化したものであった。

目的を達成するために、問いを4つ立てた。これらの問いに対して傾向を12示した。ここでは、答えである傾向を、問い別にまとめて再度示す。

#### 5.1.1 〈問い1〉への答え — 自己PRの話題

〈問い1〉は、「自己PRの話題」はどのようなものであった。データを文単位で次の7つの「自己PRの話題」に分類して傾向を述べた。1. 勉強・ゼミ、2. クラブ活動・大学祭など、3. 留学、4. アルバイト・インターンなど、5. ボランティアなど、6. 日常生活、7. 目標・その他、である。得られた傾向を下に示す。

〈傾向1〉 「自己PRの話題」の出現傾向は、T、Jデータ間で似ていた。共に、アルバイト・インターンなどのことを書いた人が約4割、クラブ活動・大学祭などが2、3割、勉強・ゼミ・留学が2、3割であった。「自己PRの話題」数は、T、Jデータ共に1つが大半であった。

〈傾向2〉 具体例を示す文の割合は、T、Jデータ間で同程度であり、共に3、4割であった。

本研究の仮説は、「自己PRの話題」はタイ人学習者と日本人大学生とは異なる、というものであった。上の傾向から、本研究の仮説は支持されなかった。

### 5.1.2 〈問い2〉への答え — 自己PRの対象

〈問い2〉は、「自己PRの対象」はどのような対象かであった。データを文単位で次の7つの「自己PRの対象」に分類して傾向を述べた。1. 性格、2. 主観的能力、3. 客観的能力、4. 考え方、5. 行動、6. 複合、7. なし、である。得られた傾向を下に示す。

〈傾向3〉 「自己PRの対象」の出現傾向は、T、Jデータ間で異なっていた。Tデータは、行動 29.3% > 主観的能力 15.7% > 考え方 14.5%、であった。一方Jデータは、考え方 27.1% > 行動 19.4% > 主観的能力 6.3%・客観的能力 6.3%であった。

〈傾向4〉 出現割合の差が大きかった「自己PRの対象」は、「主観的能力」と「考え方」であった。Tデータでは「主観的能力」がJデータの約2.5倍現れた。Jデータでは「考え方」がTデータの約2倍現れた。

本研究の仮説は、高い頻度で現れる「自己PRの話題」はタイ人学習者と日本人大学生とは異なる、というものであった。上の傾向から、本研究の仮説は支持された。T、J間で「自己PRの対象」の出現傾向が異なった要因は5.2.1項で考察する。

### 5.1.3 〈問い3〉への答え — 多用された語

〈問い3〉は、「多用された語」はどのようなものであった。データから多用された名詞、動詞、イ・ナ形容詞を選んで傾向を述べた。本研究では、約2割以上の人（約5人に1人以上）に用いられた語を「多用された語」と定めた。また、T、Jデータ間で使用者割合の差が約3倍ある語を「特徴的に現れた語」と定めた。得られた傾向を下に示す。

〈傾向5〉 多用された語は、約半数がT、Jデータ間で共通していなかった。多用された語の数は、Tデータでは36語であった（名詞21語、動詞12語、イ・ナ形容詞3語）。このうちTデータだけで多用された語は18語であった。一方、Jデータで多用された語は39語であった（名詞25語、動詞12語、イ・ナ形容詞2語）。このうちJデータだけで多用された語は21語であった。

〈傾向6〉 Tデータで特徴的に現れた語は15語で、「経験／日本（語・人）／高校／自信／時間／責任（感）／留学／タイ語／我慢／分かる／行く／任される・任せてもらう／入る／いろいろ／さまざま」であった。一方、J

データは13語で、「結果／達成／行動／相手／成長／企業／目標／ゼミ／友人／考える／学ぶ／得る／感じる」であった。

〈傾向7〉 各「多用された語」を含む文の最多「自己PRの対象」の出現傾向は、データ全体の「自己PRの対象」の出現傾向とほぼ一致していた。

本研究の仮説は、「多用される語」はタイ人学習者と日本人大学生とは異なる、というものであった。上の傾向から、本研究の仮説は支持された。Tデータで特定の語が多用された要因は5.2.2項、5.2.3項で考察する。

#### 5.1.4 〈問い4〉への答え — 可能表現の使われ方

〈問い4〉は、「可能表現の使われ方」はどのようなものであった。データから可能表現を選び、次の2つの「可能の意味」に分類して傾向を述べた。1. 実現したこと（実現系）、2. 潜在的に可能なこと（潜在系）、である。得られた傾向を下に示す。

〈傾向8〉 可能表現の出現回数は、Jデータの方が多く、Tデータの約1.3倍現れた。しかし意味別で見ると、潜在的に可能という意味（潜在系）はTデータの方が多く、Jデータの約2倍現れた。一方、実現したという意味（実現系）はJデータの方が多く、Tデータの約2倍現れた。また実現系は、Tデータでは潜在系の約1.4倍現れたのに対し、Jデータでは約4.5倍現れた。

〈傾向9〉 形式「動詞連体形+ことができる」の潜在系はTデータで多かった。Jデータではほとんど現れないが（2万字換算で1.3回）、Tデータでは実現系に対して約半分現れた（同9.5回）。

〈傾向10〉 可能表現を含む文の「自己PRの対象」は、Tデータでは主に「主観的能力」であった。一方、Jデータでは主に「考え方」であった。

〈傾向11〉 形式「動詞連体形+ことができる」が多く現れた「自己PRの対象」は、Tデータでは、可能の意味が潜在系の「主観的能力」であり、10例あった。一方、Jデータでは、実現系「客観的能力」10例、および実現系「考え方」9例であった。

〈傾向12〉 形式「動詞連体形+ことができる」の文末について、Tデータは、「自己PRの対象」が「主観的能力」であった14例のうち9例で、表現「…ことができます」または「…ことができるようになりました」が現れた。

そして潜在的に可能なことを表していた。一方、Jデータは、「自己PRの対象」が「考え方」であった9例のうち7例で、表現「…ことができることを学びました／を知りました／と考えています」または「…ことができました」が現れた。そして一回的な動作の実現を表していた。

本研究の仮説は、タイ人学習者は日本人大学生に比べて可能表現を多く用いる、というものであった。上の傾向から、本研究の仮説は支持されなかった。

## 5.2 考察

ここでは、筆者および第二認定者に「自己PRの対象」を判断させた要因などを考える。本研究は、まず、自己PR文の各文を5つ「自己PRの対象」に分類した（「複合」および「なし」は除いて述べる）。次に、「自己PRの対象」と自己PR文で具体的に現れた言語形式とを結び付けるために、「多用された語」と「自己PRの対象」との関係調べた。そして、「多用された語」は「自己PRの対象」を判断させた主な要因になっていた可能性があると考えた。次に、同じ目的で「可能表現」と「自己PRの対象」との関係調べた。そして、「可能表現」の使われ方も「自己PRの対象」を判断させた要因になっていた可能性があるが、その出現回数が「多用された語」に比べて少ないことから、大きな要因ではないと考えた。

したがって、ここでは「多用された語」のみに注目する。5.2.1項では、「多用された語」が「自己PRの対象」を判断させた要因である可能性について確かめる。5.2.2項と5.2.3項では、「多用された語」のうち、Tデータで特徴的に現れた15語が多用された要因を考える。

### 5.2.1 「自己PRの対象」を判断させた要因 — 多用された語

本研究で多用された名詞、動詞、イ・ナ形容詞を合わせた数は、Tデータが36語、Jデータが39語であった（傾向5）。これに対し、本研究で現れた名詞、動詞、イ・ナ形容詞の異なり語数は、コンピューター・ソフトのKH Coderが集計した段階で、Tデータが1,149語、Jデータが1,243語であった（3.2.3項の手順1までの段階）。つまり、データ全体の異なり語に占める多用された語の割合は、T、Jデータ共に約3%ということである。多用された語は少数であるといえる。この多用された語がデータ全体の内容に与えている影響を調べるために、多用された語を含む文のみをデータから取り出す。そして、これらの文のみによる「自己PRの対象」の傾向

を見る。「自己PRの対象」の傾向は、データ全体のものを図10 (p.40) で示した。図18に、多用された語を含む文のみによる、図10と同様の図を示す。図18の下に図10も再掲する。( )内の値は、各対象に分類された文の数である。

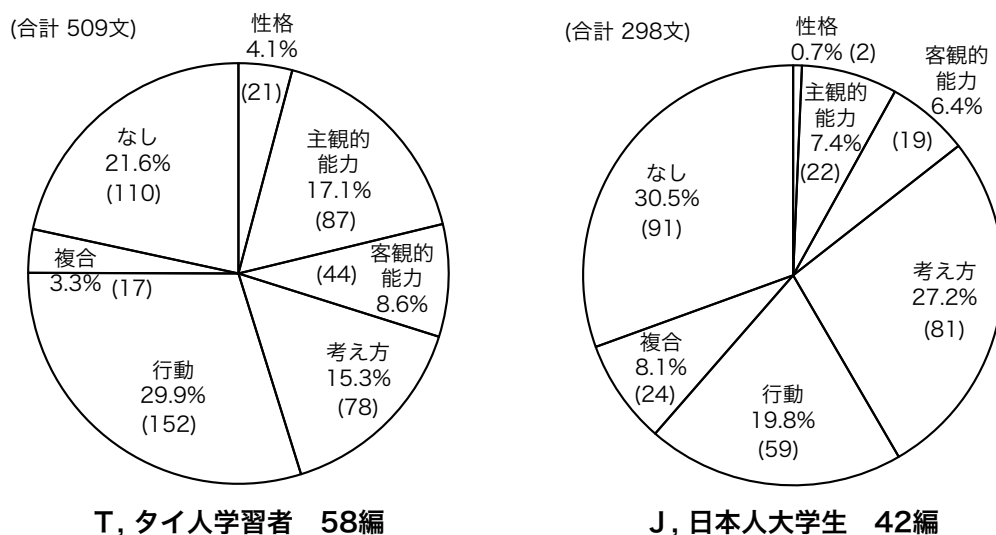


図18 就職用自己PR文で現れた「自己PRの対象」の出現割合  
—「多用された語」を含む文のみ—

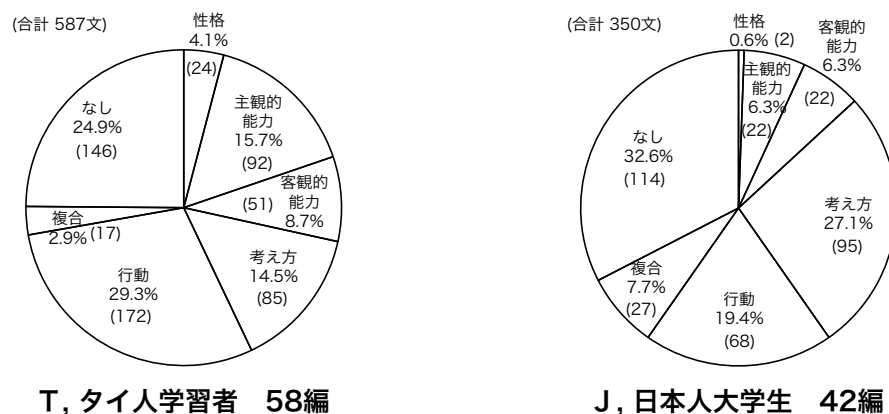


図10 (再掲) 就職用自己PR文で現れた「自己PRの対象」の出現割合

図18と図10を比較すると、多用された語を含む文のみによる「自己PRの対象」の出現割合(図18)は、データ全体の割合(図10)に近いことが分かる。図18の各「自己PRの対象」の出現割合は、図10の割合に対して差が約1割以内である。図18が図10に似ていることから、自己PR文で具体的に「多用された語」は、自己PR文の内容を抽象化した「自己PRの対象」を判断させた主要な要因になっていたと考える。



また、多用された語は、データの大半の文に含まれることも分かる。多用された語が現れた文の割合は、データ全体の文数に対して、Tデータが86.7% (=509文/587文)、Jデータが85.1% (=298文/350文)であった。

この項をまとめると、多用された語は、数は少ないが（異なり語の約3%）、データの大半の文で現れた（約85%）。そして、多用された語を含む文のみの傾向は、データ全体の傾向と似ていた。したがって、あるデータで多用された語を知ることには、効率よくそのデータ全体の内容の傾向を知ることにつながると考える。それでは、なぜ、T、Jデータで特定の語が多用されたのであろうか。5.2.2項と5.2.3項では、Tデータで多用された語のうち、特徴的に現れた語（Jデータに対して約3倍以上現れた語）に注目して、それらが多用された要因を考察する。

### 5.2.2 Tデータで特定の語が多用された要因1 — タイ語の影響

Tデータで特徴的に現れた15語のうち、次の10語がTデータで多用された要因に、タイ語でこれらの語が多用されることがあると考える。「日本／経験／自信／責任／高校／分かる／任される／入る／いろいろ／さまざま」の10語である。なぜなら、3.1.2項で示した参考資料のタイ語模擬就職用自己PR文20編（以下、タイ語自己PR文、と記す）でも、この10語が多用されたからである。タイ語自己PR文でこれら10語を使用した人の数、および検索したタイ語文字列は、次の（ ）内の通りである。「日本 (15, ญี่ปุ่น)／経験 (10, ประสบการณ์)／自信 (8, มั่นใจ)／責任 (6, รับผิดชอบ)／高校 (5, มัธยมปลาย)／分かる (6, เข้าใจ)／任される・任せてもらう (6, ได้รับมอบหมาย)／入る (4, เข้า)／いろいろ・さまざま (9, 名詞+ต่าง ๆ; 2, หลาย + 名詞; 1, หลากหลาย)」であった。このように、タイ語自己PR文でこれらの語が多用された傾向が、日本語自己PR文でも現れたと考える。なお、多用された語は、4人以上（2割以上）に用いられた語と考えた。下に、タイ語自己PR文で上の10語が現れた部分を1例ずつ示す。下線と日本語訳文は筆者による。

(135) T, 日本：私自身は、日本語を話すことと訳すこと、さらに、日本人との良い人間関係に自信があります。 [T30]

ตัวดิฉันเองมีความมั่นใจในการพูดและการแปลภาษาญี่ปุ่นพร้อมทั้งมนุษยสัมพันธ์ที่ดีกับคนไทยนะคะ

- (136) **T, 経験**：仕事の経験について、私は1年間、小さい子ども（小学生）にも、大きい子ども（高校生）にも教えた経験があり、生徒は満足していました。[T34]

ในด้านประสบการณ์การทำงานดิฉันมีประสบการณ์การสอนทั้งเด็กเล็ก (วัยประถม) และเด็กโต (วัยมัธยมปลาย) เป็นเวลา 1 ปี และผู้เรียนได้รับความพึงพอใจ

- (137) **T, 自信**：働く上でいちばん大切なことは、例えば我慢や若さですが、私は誰にも劣らない自信があります。なぜなら、この仕事は、私がずっと憧れてやりたいと思ってきた仕事だからです。ですから、いくら仕事がつくて大変でも、私は業務をうまく果たせる自信があります。[T16]

สิ่งที่สำคัญที่สุดในการทำงานเช่นความอดทนและความถึก ดิฉันก็มีความมั่นใจว่ามีไม่น้อยกว่าใคร เนื่องจากงานสายนี้เป็นสิ่งที่ดิฉันใฝ่ฝันและมุ่งหวังที่จะทำมาเป็นเวลานาน ดังนั้นไม่ว่าจะเป็นงานหนักหรือลำบากสักเพียงใดดิฉันก็มั่นใจว่าจะสามารถปฏิบัติหน้าที่ได้อย่างดี

- (138) **T, 責任**：私は意気込みが高く、勤勉で、一所懸命働く人で、任された仕事に対してとても責任感があり、何でも知っている優秀な人ではありませんが、学ぶことと自分を向上させることが好きです。[T33]

ดิฉันเป็นคนที่มีความมุ่งมั่นสูง ขยันและตั้งใจทำงาน มีความรับผิดชอบต่องานที่ได้รับมอบหมายเป็นอย่างดี ไม่ใช่คนเก่งที่รู้ทุกเรื่องแต่ชอบการเรียนรู้และพัฒนาตนเองอย่างดี

- (139) **T, 高校**：高校生の時、私は〇〇に10ヶ月間留学するプログラムに参加する機会がありました。これは、私が世界をより広く見る機会になり、〇〇の公用語のスペイン語を含む異なる文化を学ぶことになりました。[T3]

ในชั้นมัธยมปลายดิฉันได้มีโอกาสเข้าร่วมโครงการแลกเปลี่ยนที่ประเทศ 〇〇 เป็นระยะเวลา 10 เดือน ซึ่งทำให้ดิฉันได้มีโอกาสเห็นโลกกว้างขึ้น ได้เรียนรู้วัฒนธรรมที่แตกต่าง รวมถึงภาษาสเปนที่เป็นภาษาราชการของประเทศ 〇〇

- (140) **T, 分かる**：私は、私がこちらでインターンをすることが適切だと考えています。なぜなら、私は日本語主専攻で、日本語が分かり、日本語に関係

する分野で働くことで、勉強してきた知識を使うことができ、更に、日本語の文法を勉強することが、他の人に説明することも含めて好きだからです。[T8]

ดิฉันคิดว่าดิฉันเหมาะที่จะฝึกงานที่นี่ เนื่องจากดิฉันกำลังศึกษาเอกภาษาญี่ปุ่น เข้าใจภาษาญี่ปุ่น สามารถใช้ความรู้ที่ศึกษามาในการทำงานกับส่วนที่เกี่ยวข้องของภาษาญี่ปุ่นได้ และนอกจากนี้มีความรักในการศึกษาไวยากรณ์ภาษาญี่ปุ่นรวมถึงการอธิบายให้ผู้อื่น

- (141) **T, 任される**：個人的なことです、私は人間関係がよく、人と上手に付き合え、理性があり、そして、人の意見を受入れ、プラス思考で、与えられたことに真剣になり、そして、任された仕事を成功させるために最後まで努力する人です。[T15]

โดยส่วนตัวแล้วผมเป็นคนที่มีความสัมพันธ์ดี เข้ากับคนอื่นได้ง่าย เป็นคนมีเหตุผล และเปิดรับความคิดเห็นของผู้อื่น มีทัศนคติเชิงบวก จริงจังกับสิ่งที่ได้รับมอบหมาย และจะพยายามจนถึงที่สุดเพื่อให้งานที่ทำสำเร็จ

- (142) **T, 入る**：私は日本の漫画の翻訳にとっても関心があります。私は子どもの頃から日本の漫画を読むのが好きになったことで、日本語も含めた日本の文化や考え方に関心を持ち始めるようになったからです。このような理由により、日本語に関する知識をより多く積み上げるために、私は大学文学部の日本語主専攻に入ることを決めました。[T35]

ดิฉันมีความสนใจในด้านการแปลการ์ตูนญี่ปุ่นเป็นอย่างยิ่ง เนื่องจากดิฉันชื่นชอบการอ่านการ์ตูนญี่ปุ่นมาตั้งแต่เด็ก ทำให้ดิฉันเริ่มสนใจในวัฒนธรรมแนวคิดของประเทศญี่ปุ่นรวมถึงภาษาญี่ปุ่น ด้วยเหตุนี้จึงทำให้ดิฉันตัดสินใจเข้าเรียนต่อมหาวิทยาลัย คณะอักษรศาสตร์เอกภาษาญี่ปุ่นเพื่อที่จะได้เพิ่มพูนความรู้ด้านภาษาญี่ปุ่นให้มากขึ้น

- (143) **T, いろいろ・さまざま**：言語の知識があることにより、私はいろいろなルートから新しいことを学ぶことができ、私は外国で生活する機会を得ることができ、世界中の外国人の友達と知り合いになれ、文化が分かり、考え方や信仰の土台が自分と異なる人と一緒にいる際に、喜んで自分を適応

させることができます。[T58]

การมีความรู้ด้านภาษาทำให้ดิฉันสามารถเรียนรู้สิ่งใหม่ ๆ ได้จากหลายทาง ทำให้ดิฉัน  
ได้มีโอกาสได้ไปใช้ชีวิตอยู่ในต่างประเทศ ได้รู้จักกับเพื่อนชาวต่างชาติจากทั่วโลกได้  
เรียนรู้วัฒนธรรมและการปรับตัวในการอยู่ร่วมกับผู้อื่นที่มีพื้นฐานทางความคิดความ  
เชื่อที่แตกต่างจากตนเองให้ได้อย่างมีความสุข

また、上の10語以外の残りの5語は、タイ語自己PR文で多用されなかった。「時間  
(3, (ตรงต่อ, บริหาร) เวลา) / 我慢 (2, อดทน) / 留学 (3, แลกเปลี่ยน(ไปศึกษาต่อ)) / タイ語  
(1, ภาษาไทย) / 行く (3, ไป)」の5語である。

### 5.2.3 Tデータで特定の語が多用された要因2 — 直し過ぎ

Tデータで特徴的に現れた15語のうち、「時間 / 我慢」の2語がTデータで多用された要因に、横田 (1986) がいう「直し過ぎ」があると考えられる。横田 (1986) は、アメリカ人がほめられた際にどのように返答するのかをアンケート調査している (2.1節で示した)。そして、「日本語ではほめられた際には否定するのが一番妥当であると教えられた結果」(p.214)、「いやいや」などの否定の返答は、アメリカ人が日本人より多く選んだと報告し、「『直し過ぎ』が起こったものと考えられる」(p.214) と述べている。5.2.2項で示したように、「時間 / 我慢」はタイ語自己PR文では多用されなかった。しかし、日本語のTデータでは多用された。下に、日本語Tデータで「時間 / 我慢」が現れた部分を1例ずつ示す。下線は左記の語に筆者が引いた。

(144) **T, 時間** : 私は1ヵ月半にわたって日本政府〇〇バンコク事務所 (〇〇) でインターンシップをしました。(中略) インターンシップをしていた間、一度も遅刻せず、組織の規則や時間をきちんと守るようにしていました。それで、上司からいい評価をいただき、〇〇セミナーに行かせていただくようになりました。[T3]

(145) **T, 我慢** : 留学していた時は、農業体験をしていました。その時は毎日草を取ったり、耕したり、覆土したり、肥料袋を持ったりしていました。こういう仕事は力を使うだけではなく、我慢も必要でした。その時はどんな

に疲れて、文句を言わず、仕事を進めました。[T9]

「時間」は、教材や一般書籍が、日本社会は時間管理を重視すると述べている（日本映像教育社 2004; Bandhit et al. 2004）。「我慢」は、堀江（1990: 132）が「日本では忍耐・努力・尽力を評価するので、『がんばって』という言葉が多用する」と述べている（2.1節で示した）。このように、日本社会では「時間／我慢」に価値をおくと述べている文献がある。Tはこれらの文献を通じて日本社会で良いとされている物事を知り、それに自分が適応できることを伝えるために「時間／我慢」を使いすぎたと筆者は考える。

以上5.2節では、筆者および第二認定者に「自己PRの対象」を判断させた要因を考えた。そして、Tデータで特徴的に現れた語15語のうち12語（8割）が現れた要因は、タイ語でこれらの語が多用されること、および直し過ぎであると考えた。つまり、8割の語は、タイ人大学生日本語学習者社会での慣習的な物の見方が反映されたことにより現れたと考える。下に、得られた傾向と考察を箇条書きでまとめる。

- 〈傾向13〉 多用された語（5人に1人が用いた語）は、数は少ないが（異なり語の約3%）、データの大半の文で現れた（約85%）。そして、多用された語を含む文のみの傾向は、データ全体の傾向と似ていた。
- 〈考察1〉 多用された語は、筆者および第二認定者に「自己PRの対象」を判断させた主な要因であったと考える。
- 〈考察2〉 あるデータで多用された語を知ることは、効率よくそのデータ全体の内容の傾向を知ることにつながると考える。
- 〈考察3〉 Tデータで次の10語が多用された要因に、タイ語でこれらの語が多用されることがあると考える。「日本／経験／自信／責任／高校／分かる／任される／入る／いろいろ／さまざま」の10語である。
- 〈考察4〉 Tデータで「時間／我慢」の2語が多用された要因に、「直し過ぎ」があると考える。
- 〈考察5〉 Tデータで特徴的に現れた語の8割は、タイ人大学生日本語学習者社会での慣習的な物の見方が反映されたことにより現れたと考える。

### 5.3 学習者の質問への意見

ここでは、1章で示した学習者からの質問に対し、本研究の結果をふまえて筆者の

意見を述べる。1章で示した学習者からの質問は大きく次の3つであった。1. ボランティアとアルバイトと、どちらのことを書いた方が応募先の企業に興味を持たれるか。2. 一つの出来事をどの方向性で書けばよいか。3. どのような書き方を避けるべきか、以上3つであった。

1つ目のボランティアかアルバイトかは、本研究では「自己PRの話題」を見た。その結果、TおよびJが選んだ「自己PRの話題」は似ていた（傾向1）。そして具体例を示す文の割合も同程度であった（傾向2）。これらの結果から、Tが適当であると判断した話題について具体例を示しながら書けば、それに対して日本語母語話者が違和感を持つことはないと考ええる。

2つ目の書く内容の方向性は、本研究では「自己PRの対象」を見た。その結果、T、Jデータ間で出現割合が高いPRの対象が異なっていた（傾向3, 4）。この結果から、Tが日本語就職用自己PR文で「主観的能力」を示しすぎたり、「考え方」をあまり示さなかったりすると、読み手である日本語母語話者は、その自己PR文に違和感を持つ可能性があると考ええる。

3つ目の避けるべき書き方は、本研究では「多用された語」と「可能表現の使われ方」を見た。その結果、主に次の3つを述べた。1. Tデータで特徴的に現れた語は、「経験／高校／自信／時間／責任（感）／我慢／分かる／いろいろ／さまざま」などであった（傾向6）。2. Jデータで「友達」という語は現れず、「友人」が用いられていた。3. 可能表現のうち、Jデータでほとんど現れなかった表現は、文末「…ことができます」または「…ことができるようになりました」を用いて潜在的に可能なことを表す表現であった（傾向12）。したがって、これらの語や表現が多用された日本語就職用自己PR文は、読み手である日本語母語話者に違和感を持たれる可能性があると考ええる。それでは、肯定的にとらえられる可能性がある物事は、どのように見付ければよいのであろうか。5.4節ではこの点について述べる。

#### 5.4 本研究の日本語教育への応用

日本語就職用自己PR文に書く語として違和感を持たれる可能性がある語は、その8割の語が、書き手（タイ人大学生日本語学習者社会）の慣習的な物の見方が反映されている語であると5.2節で述べた。裏を返せば、同文章に書く内容として肯定的にとらえられる可能性がある物事は、読み手の社会が書いた文章に反映されていると考ええる。

例えば本研究の結果でいえば、Tの6人に1人が用いた名詞「友達」は、Jデータでは現れず、Jデータでは「友人」が多用された。Jは、就職用自己PR文に書く語として、「友達」よりも「友人」が適していると判断したと、筆者は考える。南（1979: 13-22）は、ことばの使い手がおこなう「あることを話題にすることが適切である、適切でないといった判断」は、具体的な言語表現に現れると述べている。

日本語就職用自己PR文でいえば、読み手である各企業の考え方は、各社の「基本理念」に明記されている。例えば、フェイスシート（添付資料5）にあったTが就職を希望している企業は、下のような「基本理念」などを掲げている。

(146) JALグループは、全社員の物心両面の幸福を追求し、

一、お客さまに最高のサービスを提供します。

一、企業価値を高め、社会の進歩発展に貢献します。 (JAL 2012)

(147) ツーリズムを通じて、世界の人々の見識を高め、国籍、人種、文化、宗教などを越え、世界平和・相互理解の促進に貢献する。 (H.I.S. n.d.)

(148) (中略) 5. 労使相互信頼・責任を基本に、個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる (後略) (トヨタ 2006)

(149) (中略) 信頼 信頼とは、一人ひとりがお互いを認めあい、足らざるところを補いあい、誠意を尽くして自らの役割を果たすことから生まれます。

Hondaは、ともに働く一人ひとりが常にお互いを信頼しあえる関係でありたいと考えます。 (後略) (Honda n.d.)

(150) おいしさと健康 おいしさの感動を、健康の喜びを、生命の輝きを

Glicoは、ハート・ヘルス・ライフのフィールドでいきいきとした生活づくりに貢献します。 (Glico 1992)

これらの文章に書かれている物事は、就職用自己PR文に書く内容として、応募先企業に肯定的にとらえられる可能性があると考ええる。

## 5.5 今後の課題

今後の課題を2つ述べる。1つ目は、データの数を増やすことである。より多くのタイ人日本語学習者に当てはまる傾向を得るために、データをさらに増やしたい。2つ目は、他分野の就職用文章などに関する研究も参考にすることである。例えば、経営学や心理学の研究でも、就職用文書に書かれている言葉や内容を調査・分析している（鷺坂2000; 柳田他2012; 小島2010; 本多・入吉 2014）。また、宣伝や社会意

識の分析などでも、「テキストマイニング」および「内容分析」（樋口2014: 1）が行われている。これら、日本語教育研究以外の研究も参考にしたい。



## 注

- (1) 2013年のタイのGDPは、IMF (2014) によると、11兆8974億4900万バーツであった。2013年のタイの対日輸入額は、ジェトロ (2014) によると、1兆2560億2300万バーツであった。
- (2) ジェトロ (2013) によると、「2012年のタイへの直接投資（認可ベース、外国資本10%以上の案件）」(p.4) は、5489億5400万バーツであった。このうち日本からタイへの直接投資は、3484億3000万バーツであった。
- (3) 下のタイ語を筆者が訳した。  
“การเขียนแบบไหนที่ควรหลีกเลี่ยง ไม่ควรเขียนลง 自己PR”
- (4) 下のタイ語を筆者が訳した。  
“ในการเขียน 自己PR ระหว่าง (1) กิจกรรมที่เคยเข้าร่วมระหว่างเรียนมหาวิทยาลัยและ กิจกรรมอาสาสมัคร กับ (2) ประสบการณ์การทำงานพิเศษ เขียนอันไหนจะได้รับความสนใจ จากบริษัทที่สมัครงานมากกว่ากันคะ”
- (5) 下のタイ語を筆者が訳した。  
“ปัญหาที่รู้สึกก็คือในเหตุการณ์เดียวกันนั้น เราควรจะต้องประเด็นไหนออกมาเพื่อ PR อย่าง เช่นที่เขียนไปเป็นเรื่องที่รู้สึกว่าตัวเองได้ ‘อดทนต่อสภาวะกดดันด้านเวลา’ และก็ ‘พยายามจนถึงที่สุดแม้จะเป็นเรื่องที่คุณเป็นไปไม่ได้’ เลยทำให้ลังเลว่าจะเขียน PR ตัวเองไปในแนวไหนดีคะ”
- (6) 庵他 (2001) は、渋谷 (1993) について、「現在のところ最もまとまった可能に関する論文」(p.184) であると述べている。
- (7) 11種類目は「結果可能」(渋谷1993: 29-30) である。「結果可能」の例は次のものである。「(鉄棒で、今までできなかったわざをはじめて成功させて) できた!」「(今まで泳げなかったのが泳げるようになって) 泳げた!」。これらは就職用文章では現れないため、本研究は「結果可能」を除いて調べる。
- (8) Jaccard係数は、2つの集合間の類似度を表す値である。0から1の値をとり、1に近いほど類似度が高い。集合Xと集合YのJaccard係数は、 $|X \cap Y| / |X \cup Y|$  で求められる。例えば、集合X {経験、自信、時間}と、集合Y {経験、アルバイト、我慢} の Jaccard係数は、 $|経験| / |経験、自信、時間、アルバイト、我慢|$

=  $1/5 = 0.2$  である。そして、Jaccard係数が0.2以上の語は「経験」である。

- (9) オペレーション・システム (OS) は、Mac OS X, Apple である。
- (10) MeCab: 形態素解析ソフト, 京都大学情報学研究科, 日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所<<http://mecab.googlecode.com/svn/trunk/mecab/doc/index.html>>(2014年1月17日閲覧)
- (11) KH Coder: 計量テキスト分析ソフト, 樋口耕一氏作<<http://khc.sourceforge.net>> (2014年1月16日閲覧)
- (12) Excel: 表計算ソフト, Microsoft Corporation
- (13) Preview: PDF表示ソフト, Apple
- (14) 作例は、注(10)に示した「MeCab」ウェブサイトから得た。(2014年7月17日)
- (15) Adobe Reader: PDF表示ソフト, Adobe Systems Software Ireland
- (16) Simple KWIC Lister: コーパス検索ソフト, 秋澤委太郎氏作<[http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2012\\_Akizawa1.pdf](http://www.iucjapan.org/pdf/nenpou2012_Akizawa1.pdf)> (2014年1月16日閲覧)
- (17) 下の2例の下線部の内容は、( ) 内の内容であると筆者が文脈から判断し、「動詞連体形+ことができる」に分類した。
- (151) ようやく間に合うように 間に合うことが できました。[T44]
- (152) それで、自分の仕事が終わって、どんなに疲れても、ホストさん達がまだ仕事をしていたら、何も手伝わないで、立って見ているだけでは (立って見ていることは) 本当にできません。[T7]
- (18) 4.4節で示す「できる」の数と、4.3.2項で示した「できる」の数は異なる。集計の単位が異なるからである。4.4節は回単位であり、4.3.2項は文単位である。例えば、一文中に2回で「できる」が現れた場合、4.4節では「2」と数え、4.3.2項では「1」と数えている。4.3.2項が文単位なのは、文単位で調べた「自己PRの対象」と関係づけているからである。

## 参考文献

### 参考文献

- 浅井美恵子 (2002) 「日本語作文における文の構造の分析 — 日本語母語話者と中国語母語の上級日本語学習者の作文比較」 『日本語教育』 115号, 51-60.
- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001) 白川博之 (監修) 「§14 可能と難易の表現」 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』 スリーエーネットワーク, pp.174-184.
- 宇佐美洋 (2010) 「文章の評価観点に基づく評価者グルーピングの試み — 学習者が書いた日本語手紙文を対象として —」 『日本語教育』 147号, 112-119.
- 宇佐美洋・森篤嗣・広瀬和佳子・吉田さち (2009) 「書き手の語彙選択が読み手の理解に与える影響 — 文脈の中での意味推測を妨げる要因とは —」 『日本語教育』 140号, 48-58.
- H.I.S. (n.d.) 「会社情報 > 企業理念」 <<http://www.his.co.jp/company/charter.html>> (2014年9月6日閲覧) .
- カノックワン・ラオハブラナキット・片桐 (2012) 「非母語話者にはむずかしい母語話者の日本語コミュニケーション」 野田尚史 (編) 『日本語教育のためのコミュニケーション研究』 くろしお出版, pp.23-42.
- 金庚芬 (2005) 「会話に見られる『ほめ』の対象に関する日韓対照研究」 『日本語教育』 124号, 13-22.
- 金宥景 (2006a) 「韓国人日本語学習者を対象とした日本語の文構成能力に関する研究」 『日本語教育論集』 22号, 国立国語研究所, 3-17.
- 金宥景 (2006b) 「日本語学習者の書く文章のわかりにくさについて — 言語的側面と認知的側面からの原因分析 —」 『ポリグロシア』 12号, 立命館アジア太平洋研究センター: 47-59.
- 窪田富男 (2001) 「言語行動の対照研究を」 『日本語教育』 108号, 5-13.
- 熊取谷哲夫 (1989) 「日本語における誉めの表現形式と談話構造」 『言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究』 2号, 広島大学教育学部日本語教育学科, 97-108.
- Glico (1992) 「IR・会社情報 > グリコグループ ご案内 > 企業理念・Glicoスピリット > Glicoスピリット」 <<http://www.glico.co.jp/corp/spirit.html>>

(2014年9月6日閲覧) .

香山恆毅 (2014) 「タイ人学習者は日本語就職用自己PR文で“何をPRしているのか” — PRの対象に関する日本人との比較 —」 『日本研究論集』 9号, チュラーロンコーン大学文学部東洋現語学科日本語講座・大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化コース, 98-117.

国際交流基金 (2013) 「ホーム > 日本語教育 > 調査研究・情報提供 > 国・地域別の情報 > 日本語教育国・地域別情報 > 2013年度 > カメルーン」 <<http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2013/cameroon.html>> (2014年9月7日閲覧) .

小島弥生 (2010) 「就職活動におけるエントリーシートへの記述に関する探索的研究 — 志望する職種との関連の検討 —」 『埼玉学園大学紀要 (人間学部篇)』 10号, 89-98.

小玉安恵 (1996) 「対談インタビューにおけるほめの機能 (1) — 会話者の役割とほめの談話における位置という観点から —」 『日本語学』 5月号, 59-67.

小宮千鶴子 (1993a) 「文の長さに現れた読者意識 — 日本史教科書の類似内容の対比から —」 『中央学院大学教養論叢』 5巻 (2), 55-82.

小宮千鶴子 (1993b) 「読者層を異にする文章間に見られる文構造の相違 — 述語数による日本史教科書の段階比較 —」 『中央学院大学教養論叢』 6巻 (2), 137- 165.

鷺坂由紀子 (2000) 「経営行動科学を活かす (4) 作文評定の技術と信頼性 — エントリーシートによる採用選考の有効性実験から —」 『人事マネジメント』 7月号, アーバンプロデュース, 84-89.

渋谷勝己 (1993) 「日本語可能表現の諸相と発展」 『大阪大学文学部紀要』 33巻-1, i-262.

JAL (2012) 「ホーム > JALについて > 企業情報 > JALグループ企業理念」 <<https://www.jal.com/ja/outline/corporate/philosophy.html>> (2014年9月6日閲覧) .

JCC (バンコク日本人商工会議所) 経済調査会 (2014) 「2013年下期タイ国日系企業景気動向調査」 『盤谷日本人商工会議所所報』 632号, 1-23.

ジェトロ (2014) 「HOME > 海外ビジネス情報 > 国・地域別情報 > アジア > タイ > 基礎的経済指標」 <[https://www.jetro.go.jp/world/asia/th/stat\\_01/](https://www.jetro.go.jp/world/asia/th/stat_01/)> (2014年7月21日閲覧) .

- ジェトロ (2013) 「ジェトロ世界貿易投資報告 — タイ編2013」 <<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2013/pdf/2013-th.pdf>> (2014年7月21日閲覧)
- 杉田くに子 (1994) 「日本語母語話者と日本語学習者の文章構造の特徴 — 文配列課題に現れた話題の展開 —」 『日本語教育』 84号, 14-26.
- 田代ひとみ (1995) 「中上級日本語学習者の文章表現の問題点 — 不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる —」 『日本語教育』 85号, 25-37.
- 田代ひとみ (2005) 「日本語学習者のストーリー説明文の問題点 — わかりにくさという観点から —」 『言語文化と日本語教育』 30号, 1-10.
- 田中真理・坪根由香里・初鹿野阿れ (1998) 「第二言語としての日本語における作文評価基準 — 日本語教師と一般日本人の比較 —」 『日本語教育』 96号, 1-12.
- 田中真理・初鹿野阿れ・坪根由香里 (1998) 「第二言語としての日本語における作文評価 — 『いい』 作文の決定要因 —」 『日本語教育』 99号, 60-71.
- タナサーンセーニー美香・當山純・高坂千夏子・中井雅也・深澤伸子 (2005) 「ビジネスで使う日本語を考える — 企業と教育現場の視点から —」 『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』 2号, 207-222.
- チャンプラサートスック・パチャリー (2005) 「タイ人と日本人との間のビジネス・コミュニケーションの問題に関する研究」 お茶の水女子大学日本言語文化学会研究会 『共生時代を生きる日本語教育 — 言語博士上野田鶴子先生古希記念論集 —』 編集委員会 (編) 『共生時代を生きる日本語教育 — 言語博士上野田鶴子先生古希記念論集 —』 凡人社, pp.349-376.
- トヨタ (2006) 「トヨタ行動指針」 <[http://www.toyota.co.jp/jpn/company/vision/code\\_of\\_conduct/code\\_of\\_conduct.pdf](http://www.toyota.co.jp/jpn/company/vision/code_of_conduct/code_of_conduct.pdf)> (2014年9月6日閲覧) .
- トヨタ (2013) 「トヨタの概況 2013 — データで見る世界の中のトヨタ」 <[http://www.toyota.co.jp/jpn/company/about\\_toyota/gaikyo/pdf2013/databook\\_jp\\_2013.pdf](http://www.toyota.co.jp/jpn/company/about_toyota/gaikyo/pdf2013/databook_jp_2013.pdf)> (2014年7月21日閲覧) .
- 西原鈴子 (1990) 「日英対照修辞法」 『日本語教育』 72号, 25-41.
- 西村史子 (1998) 「中級日本語学習者が書く詫びの手紙における誤用分析 — 文の適切性の観点から —」 『日本語教育』 99号, 72-83.
- 西村史子・鹿嶋恵 (2001) 「詫びの手紙文における情報の展開構造 — 中級日本語学習者と日本語母語話者の対照分析 —」 『日本語教育論集 世界の日本語教育』 11号, 69-82.

- 日本映像教育社（編著）（2004）「コラム — 時間」『オフィスで使える！マナーも身につく！ ビジネス日本語 テキスト① 内定者編』凡人社, p.37.
- 野元千寿子（2004）「留学生に対するビジネス日本語教育 — APUにおける教育実践とアンケート実施より —」『昭和女子大学大学院日本文学紀要』15号, 31-43.
- 樋口耕一（2014）『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版.
- ブリヂストン（2013）「ブリヂストンホーム > 会社情報 > ニュースリリース > 2013年 > タイで建設・鉱山車両用タイヤ新工場の定礎式を実施」 <<http://www.bridgestone.co.jp/corporate/news/2013043001.html>>（2014年7月21日閲覧）.
- 堀江・インカピロム・プリアー（1990）「日・タイのあいさつ表現からみた社会・文化・価値観のちがい」『日本語教育』72号, 126-135.
- 堀江・インカピロム・プリアー（2000）国立国語研究所（編）『日本語と外国語との対照研究 VIII マイペンライ（2）：タイ人の言語行動を特徴づける言葉とその文化的背景についての考察 その2』くろしお出版.
- Honda (n.d.) 「会社案内TOP > メッセージ > Honda Philosophy > 基本理念」 <<http://www.honda.co.jp/guide/philosophy/>>（2014年9月6日閲覧）.
- 本多ハワード素子・入吉礼菜（2014）「求職者の人物評価に影響するエントリーシートストーリー性と自己呈示方略」『昭和女子大学生生活心理研究所紀要』16号, 11-19.
- 前野文康・勝田千絵・Nida LARPSRISAWAD「在タイ日系企業が求める日本語人材 — アンケート調査より —」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』10号, 67-76.
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法 — 改訂版 —』くろしお出版.
- 南不二男（1979）「言語行動の研究の問題点」南不二男（編）『講座言語 第3巻 言語と行動』大修館書店, pp.3-30.
- 柳田明子・村上英樹・西村剛（2012）「大学生採用における能力識別に関する実験的考察：航空会社の一例」『神戸大学経営学研究科 Discussion paper 2012』2012-30号 <[http://www.b.kobe-u.ac.jp/paper/2012\\_30.pdf](http://www.b.kobe-u.ac.jp/paper/2012_30.pdf)>（2013年11月21日）.

- 山本冨里 (2011) 「国会における日本語教育関係議論のアクターと論点 — 国会会議録の計量テキスト分析からの概観 —」 『日本語教育』 149号, 1-15.
- 横田淳子 (1986) 「ほめられた時の返答における母国語からの社会言語学的転移」 『日本語教育』 58号, 203-217.
- 李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 (2012) 「第7章 教材コーパスの活用 — 形態素解析 —」 『日本語教育のためのコーパス調査入門』 くろしお出版, pp.94-110.
- ルンティエラ ワンウィモン (2004) 「タイ人日本語学習者の『提案に対する断り』表現における語用論的転移 — タイ語と日本語の発話パターンの比較から —」 『日本語教育』 121号, 46-55.
- Bakeman, R. and Gottman, J. M., 1986. Observing interaction: an introduction to sequential analysis, (NY: Cambridge University Press).
- Bandhit, R., Bhusadee, N., Orikasa, F., Onozaki, T., Yabuuchi, Y., 2004. “การไม่รักษาเวลา,” รู้จักไทย เข้าใจญี่ปุ่น, (กรุงเทพฯ: สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม สมาคมส่งเสริมเทคโนโลยี (ไทย-ญี่ปุ่น)), p.35.
- Bussaba, B., 2009. “วัฒนธรรมในภาษา: เปรียบต่างการชมด้วยภาษาญี่ปุ่นของชาวไทยและชาวญี่ปุ่น,” วารสารแจแปนฟาวน์เดชั่น กรุงเทพฯ, 6: 65-75.
- Cohen, J., 1960. “A Coefficient of Agreement for Nominal Scales,” Educational and Psychological Measurement, 20 (1): 37-46.
- Fleiss, J. L. 1981. Statistical methods for rates and proportions, 2nd ed., (NY: John Wiley and Sons), pp.212-225.
- Herbert, R. K., 1989. “The ethnography of English compliments and compliment responses: A contrastive sketch,” In Oleksy, W.(ed.), Contrastive pragmatics, (Amsterdam: John Benjamins), pp.3-35.
- Holmes, J., 1988. “Paying compliments: A sex-preferential politeness strategy,” Journal of Pragmatics, 12 (4): 445-465.
- Hymes, D., 1972. “Models of the Interaction of Language and Social Life,” In Gumperz, J. and Hymes, D.(ed.), Directions in Sociolinguistics, (the United States of America: Holt, Rinehart and Wnston), pp.35-71.
- IMF, 2014. World Economic Outlook Database, April 2014 [Online]. Available from: <http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2014/01/weodata/>

download.aspx[2014,July 21].

Landis, J. R., Koch, G. G., 1977. "The Measurement of Observer Agreement for Categorical data," Biometrics, 33 (1): 159-174.

Mboudjeke, J. G., 2010. "Linguistic politeness in job applications in Cameroon," Journal of Pragmatics, 42 (9): 2519-2530.

Nkemleke, D., 2004. "Job applications and students' complaint letters in Cameroon," World Englishes, 23 (4): 601-611.

### 使用資料

- キャリアデザインプロジェクト（編著）（2012）『内定勝者 私たちはこう言った！  
こう書いた！ 合格実例集&セオリー2014 エントリーシート編』PHP研究所.
- キャリアデザインプロジェクト（編著）（2008）『内定勝者 私たちはこう言った！  
こう書いた！ 合格実例集&セオリー2010 エントリーシート編』PHP研究所.
- キャリアデザインプロジェクト（編著）（2005）『内定勝者 私たちはこう言った！  
こう書いた！ 合格実例集&セオリー2007 エントリーシート、履歴書、面接、  
志望動機、自己PR』PHP研究所.

### 参照資料

- 日経HR編集部（編）（2012）『学生のためのリアル就活本 就職活動ナビゲーション 2014年度版』日経HR.
- 成美堂出版編集部（編）（2013）『最新最強のエントリーシート・自己PR・志望動機 '15年版』成美堂出版.



## 添付資料

## 添付資料1 就職用自己PR文記入書式 — 4年生用

就職の「自己PR」文の研究：締切7月11日まで、チェック返信9月予定

プロジェクトへのご協力、ありがとうございます。

1. ท่านสามารถเขียน 自己PR ลงใน microsoft word ก่อนได้  
ซึ่งจะนำไปใช้ในการลงทะเบียน
2. แล้วคัดลอกมาลงในแบบฟอร์มตาม link ข้างล่าง
3. กรุณากรอก email address และวาง 自己PR ที่ท่านได้คัดลอกมา  
ลงในแบบฟอร์มดังกล่าว  
จากนั้นกรุณาคลิกปุ่ม 送信/submit

สำหรับข้อ 2 และ 3 ท่านอาจใช้เวลาไม่เกิน 10 นาทีครับ

**\*必須**

**1. email address \***

この質問は必須です

**2. กรุณาเขียน 自己PR สำหรับสมัครงาน (ไม่เกิน 400 คำอักษร) ลงในช่องว่างต่อไปนี้ \***

ท่านอาจจะเขียนใน microsoft word ก่อน แล้วจึงคัดลอกมาใส่ในช่องนี้ได้ หลังจากกดปุ่ม 送信/submit แล้ว  
ท่านจะไม่สามารถแก้ไขได้อีก ดังนั้นควรเขียนใน word แล้วจึงคัดลอกและนำมาวางในช่องว่างต่อไปนี้ เช่นเดียวกับ  
กับส่วนของ 登録/Register ในแบบฟอร์ม / \_\_\_\_\_ ส่วนของ 登録/Register  
นั้นจะอยู่ที่ปุ่มสีส้มในเว็บไซด์ของ \_\_\_\_\_ โดยท่านสามารถเข้าถึงได้ตาม  
URL ด้านล่าง โปรดกรณีที่ท่านต้องการจะเห็นพื้นที่การเขียนในช่องว่างด้านล่าง กรุณาคลิกที่มุมขวาข้างของช่องว่าง  
แล้วลากลง \_\_\_\_\_

**3. ท่านสามารถแสดงความเห็น คำถามได้ในช่องต่อไปนี้ (เขียนเป็นภาษาไทยก็ได้) หรือหากมีข้อความใดที่ท่าน  
อยากเขียนเป็นภาษาญี่ปุ่นแต่ไม่สามารถเขียนได้จริงๆ  
หรือหากท่านไม่แน่ใจที่ท่านเขียนภาษาญี่ปุ่นไปด้านบนจะสื่อตามความหมายที่ตั้งการจะเขียนหรือไม่ ท่าน  
สามารถเขียนคำถามได้ในช่องต่อไปนี้ได้ด้วยเช่นกัน**

**4. เมื่อท่านคลิกในช่องด้านล่างแล้วกรุณาคลิกปุ่ม 送信/submit \***

皆さんの「自己PR」をチェックした結果は、9月に email で送る予定です。ご協力ありがとうございました。  
柳士2年 香山(こうやま)

ยืนยัน : หลังจากกดปุ่ม 送信/submit แล้ว ท่านจะไม่สามารถแก้ไขได้อีก

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

Google Drive

不正行為の報告 利用規約 追加規約

添付資料2 就職用自己PR文記入書式 — 3年生用

自己PR文1

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

自己PR文2

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

**添付資料3 就職用自己PR文記入書式 — タイ語用 (参考資料)**

ชื่อ : \_\_\_\_\_

สมมุติว่าคุณอยากจะเข้าทำงานหรืออยากจะมีงาน คุณจึงสมัครเป็นสมาชิกที่บริษัทจัดหางานแห่งหนึ่ง  
ในการสมัครเป็นสมาชิกนี้ นอกจากใบรับรองผลการเรียนแล้ว คุณต้องเตรียม self-promotion letter ไว้  
ด้วย ผู้อ่านเอกสารนี้เป็นคนไทย ซึ่งเป็นผู้จัดการฝ่ายบุคคลของบริษัทต่าง ๆ ในประเทศไทย  
จงเขียนเนื้อหาของ self-promotion letter ดังกล่าวด้วยเป็นภาษาไทย

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

#### 添付資料4 研究協力承諾書書式 — タイ人学習者用

【วัตถุประสงค์ของโครงการ งามวิจัยบทความเรื่อง “ประชาสัมพันธ์ตนเอง”】

โครงการนี้มีวัตถุประสงค์เพื่อวิจัยบทความเรื่อง “ประชาสัมพันธ์ตนเอง” ของนิสิตเอกวิชาวภาษาญี่ปุ่น สาขาวิชาภาษาญี่ปุ่น จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย โดยจะเก็บบทความเรื่อง ดังกล่าวจากนิสิต หลังจากนั้นจะนำไปใช้ในงานวิจัยเพื่อพัฒนาเนื้อหาการเรียนการสอนต่อไป

【การระมัดระวังเรื่องข้อมูลส่วนตัวในบทความเรื่อง “ประชาสัมพันธ์ตนเอง”】

1. จะไม่เปิดเผยชื่อของผู้เขียนความเรียงอย่างเด็ดขาด  
นอกจากนี้จะไม่เปิดเผยข้อมูลที่จะทำให้คาดเดาได้ว่าผู้เขียนบทความเรื่อง นั้นเป็นผู้ใด
2. กลุ่มผู้วิจัยจะเป็นผู้ดูแลรักษาบทความที่รับมา นอกเหนือจากผู้วิจัยแล้ว  
กลุ่มผู้วิจัยจะมีผู้ช่วยงานวิจัยที่จะช่วยประเมินบทความเรื่อง หรืองานอื่นๆในการวิจัย  
ผู้วิจัยจะให้ผู้ช่วยงานวิจัยดังกล่าวรักษาข้อมูลส่วนตัวของผู้เขียนความเรียงเป็นอย่างดีด้วยเช่นกัน
3. บทความเรื่อง “ประชาสัมพันธ์ตนเอง” อาจจะไปเผยแพร่ในรูปแบบต่อไปนี้
  - 1) ข้อมูลเพื่อใช้ในการเรียนการสอนหรือการศึกษา
  - 2) การประชุมวิชาการ การนำเสนอผลงานในรูปของการรายงานและในรูปแบบ ของโปสเตอร์ เป็นต้น
  - 3) วารสารสมาคมวิชาการ วารสารงานวิจัย วารสารมหาวิทยาลัยหรือสถาบัน หนังสือ

กรกฎาคม พ.ศ. 2556

ผู้วิจัย : Koki Koyama, Kanokwan L. Katagiri

\*\*\*\*\* หนังสือยินยอมให้ความร่วมมือในโครงการนี้ \*\*\*\*\*

ข้าพเจ้าได้อ่านเนื้อหาเกี่ยวกับวัตถุประสงค์ของโครงการและการรักษาข้อมูลส่วนตัวแล้ว  
และยินยอมให้ความร่วมมือในโครงการนี้

วันที่ \_\_\_\_\_ เดือน กรกฎาคม พ.ศ. 2556 ลงชื่อ \_\_\_\_\_

## 添付資料5 フェイス・シート

## プロジェクト対象者フェイス・シート プロジェクト：就職の「自己PR」文の研究

1. 名前（カタカナ）：(ชื่อ) \_\_\_\_\_ (นามสกุล)

2. email address：\_\_\_\_\_

3. 日本語学習経験：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_か月

4. 日本での生活経験：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_か月（留学した期間も入ります）

5. JLPT 合格 Level：□N1、□N2、□N3、□N4□、□N5、試験を受けた年：20\_\_\_\_\_年

## アルバイト・仕事、Internship の経験（เขียนเป็นภาษาไทยก็ได้）

□ない or ある：□タイ、□日本、□他（\_\_\_\_\_）

6. アルバイト・仕事 1：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_か月

□ない or ある：□タイ、□日本、□他（\_\_\_\_\_）

7. アルバイト・仕事 2：\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_か月

□ない or ある：□タイ、□日本、□他（\_\_\_\_\_）

8. Internship：\_\_\_\_\_日

## 大学を卒業してから…（เขียนเป็นภาษาไทยก็ได้）（↓自分の気持ちに近いものに○を書いてください）

9. 日本語を使う仕事がしたい：  

ぜひしたい	したい	どちらとも言えない	したくない	絶対にしたくない
▽	▽	▽	▽	▽

10. タイの日系企業で働きたい：  

ぜひ働きたい	働きたい	どちらとも言えない	働きたくない	絶対に働きたくない
▽	▽	▽	▽	▽

11. 日本で働きたい：  

ぜひ働きたい	働きたい	どちらとも言えない	働きたくない	絶対に働きたくない
▽	▽	▽	▽	▽

12. 日本へ留学したい：  

ぜひしたい	したい	どちらとも言えない	したくない	絶対にしたくない
▽	▽	▽	▽	▽

13. 働きたい会社、業種、職種など：（例 A：○○会社、通訳、例 B：日系の自動車関係、社長秘書 etc.）

第1希望：\_\_\_\_\_ □ない 第2希望：\_\_\_\_\_ □ない

14. 就職のために、大学以外で準備していること：（例 A：Recruit の会社に登録した、例 B：英語の勉強 etc.）

□ない

15. 就職のための「自己PR」を書いたことが…：□ある：□タイ、□日本、□他（\_\_\_\_\_）

□ない

16. 記入日：2013年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

ありがとうございました。

## 添付資料6 「自己PRの対象」への分類用紙 — 第二認定者用

2014 Mar 29, H・Y・K

T2013\_4\_July\_14

日本語の講座の私が 年 に の 大学に留学に行ってきた。日本語能力の伸長だけでなく、興味のある についても研究した。その上、全く家族に頼らずに1人で生活を送るのを征服した。経済的だけではなく、自己生活的にも挑戦した。そのため、自分のどれほど我慢強いか分かるようになった。海外で1人で生活を送るのがどんなにつらくても最後まで我慢しないといけないという事を極めて経験した。そして、自分は、止まらずに新たな事をチャレンジし前に進みたい人間だと分かるようになった。なぜならば、1年間が誰かに短かすぎると言われるが、私にとって数え切れないほど新しい事にばかりチャレンジされたが、それらを征服できたのである。これらは、私にとって最も重要なものであり、経験である。経験があるこそ、私が成長し、自分は何かも前よりよく分かってきた。だから、私の経験を勤め先にも社会にも必死に役に立たせたい。

(392字)

企業の採用担当者の立場で読んでください。	性格	主観 能力	客観 能力	考え	行動	なし	他
日本語の講座の私が 年 に の 大学に留学に行ってきた。							
日本語能力の伸長だけでなく、興味のある についても研究した。							
その上、全く家族に頼らずに1人で生活を送るのを征服した。							
経済的だけではなく、自己生活的にも挑戦した。							
そのため、自分のどれほど我慢強いか分かるようになった。							
海外で1人で生活を送るのがどんなにつらくても最後まで我慢しないといけないという事を極めて経験した。							
そして、自分は、止まらずに新たな事をチャレンジし前に進みたい人間だと分かるようになった。							
なぜならば、1年間が誰かに短かすぎると言われるが、私にとって数え切れないほど新しい事にばかりチャレンジされたが、それらを征服できたのである。							
これらは、私にとって最も重要なものであり、経験である。							
経験があるこそ、私が成長し、自分は何かも前よりよく分かってきた。							
だから、私の経験を勤め先にも社会にも必死に役に立たせたい。							

## 添付資料7 研究協力誓約書書式 — 日本人研究協力者・第二認定者用

誓約書

プロジェクト：就職の「自己PR」文の研究

## 誓約書

私、\_\_\_\_\_（ローマ字：\_\_\_\_\_）は、  
本プロジェクトの自己PR文（以降「作文」）の評価作業をするにあたり、協力者として以下の項目を約束します。

1. プロジェクトの内容や方法などに関する情報の一切を第三者\*に明かしません。  
\*本誓約書で「第三者」とは、プロジェクト・メンバー（担当：香山、指導教官：カノックワン）以外のすべての人をさします。
2. 匿名性を守るため、作文執筆者の個人情報の一切を第三者に明かしません。
3. 作文の内容の一切を第三者に明かしません。
4. 評価作業を行う際に生ずる問題やわからない点などについては、プロジェクト・メンバーに相談します。周囲の日本人に聞いたり相談したりしません。
5. 作文内容の事実関係の正誤適否、作文内容に対する議論、批判、感想などを第三者に明かしません。
6. 作文を複製したり撮影したりしません。
7. 評価作業に用いた作文は、評価作業終了後、プロジェクト・メンバーに返却します。

2013年7月 日

署名： \_\_\_\_\_



## 著者略歴

香山恆毅（こうやま こうぎ）— 1972年生まれ。東京都立大学工学部建築工学科卒業。工学学士。1995年鹿島建設入社。建築施工管理技術者。2000年からTHAI KAJIMA出向。2007年からナコンラーチャシーマー・ラーチャパット大学勤務。日本語講師。2009年からタイ国元日本留学生協会日本語学校勤務。現在、チュラーロンコーン大学文学部東洋言語学科外国語としての日本語専攻修士課程在籍。

### 発表文献

2014年「タイ大学統一入試問題日本語科目（PAT 7.3）の語彙調査 — 日本語能力試験（JLPT）N4との比較」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』11号, 61-70.

2014年「タイ人学習者は日本語就職用自己PR文で“何をPRしているのか” — PRの対象に関する日本人との比較」『日本研究論集』9号, チュラーロンコーン大学文学部東洋現語学科日本語講座・大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化コース, 98-117.

2012年「タイ大学統一入試問題日本語科目と高校生向け日本語教科書の比較」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』9号, 79-88.